令和元年度
協働のまちづくりに関する意識調査報告書
（市民、市民活動団体、事業者）

令和２年３月

松戸市

令和元年度　協働のまちづくりに関する意識調査報告書（市民、市民活動団体、事業者）　令和２年３月　松戸市

目次

第１章　調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第２章　調査結果
Ⅰ．市民
１．回答者プロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
２．ライフスタイル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
３．市民活動の実態と意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
４．協働のまちづくりへの意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
５．政策評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
６．市民活動の活性化、市民と行政の協働の推進、施策への提案や意見・・・・ 48

Ⅱ．市民活動団体
１．回答団体プロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
２．活動運営状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
３．団体の情報発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
４．協働のまちづくりと市の施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
５．他団体との関わり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
６．協働のまちづくりへの意見、アイデア等・・・・・・・・・・・・・・・ 74

Ⅲ．事業者
１．回答事業者プロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
２．社会貢献活動の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
３．市民活動団体との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
４．協働のまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
５．協働のまちづくりへの意見、アイデア等・・・・・・・・・・・・・・・ 86

資料編（調査票）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87

第１章　調査概要

１．調査目的

本調査は、これまでの協働のまちづくりに関する政策評価や協働のまちづくりに取り組む市民活動の現状把握等、新たな政策形成に必要な情報を収集することを目的に、市民、市民活動団体、事業者を対象としたアンケート調査を実施したものであり、本調査結果は、第四次松戸市協働推進計画の策定に向けた基礎資料とする。

２．調査実施状況

３種類のアンケート調査を、以下の方法により実施した（表１）。

表１．調査概要

	市民	市民活動団体	事業者
調査対象者	市内に居住する方	市内に主たる事務所を置く特定非営利活動法人及びまつど市民活動サポートセンター届出市民活動団体	平成 30 年次フレーム事業所母集団情報に掲載されている市内事業所
サンプル数	3,000 人	592 団体	300 事業所
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出	全数調査	産業分類を基準とした層別抽出
調査方法	郵送配布・回収（一部、市役所に回答票を持参したものも含む）		
調査実施期間	令和元年 11 月８日～12 月 16 日		
有効回収数	1,338 票	314 票	90 票
有効回収率	44.6%	53.0%	30.0%

＊有効回収率（%）＝有効回収数÷サンプル数×100

＊前回の有効回収率は、市民 51.1%、市民活動団体 59.8%、事業者 42.7%であった。

３．本書の見方

（１）集計は、小数点第二位を四捨五入しているため、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。

（２）n とは、基数となるべき実数であり、設問に対する回答者数である。

（３）回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しているため、複数回答の設問については、全ての比率を合計すると 100.0%を超える場合がある。

（４）本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。

（５）本文中の前回調査とは、市民、市民活動団体、事業者全て、平成 27 年 11～12 月に実施したものである。また、前々回調査とは、市民アンケートについては平成 22 年 11～12 月に実施したものであり、市民活動団体アンケートについては平成 21 年 11～12 月に実施したものであり、事業者については平成 23 年７～８月に実施したものである。

第２章　調査結果

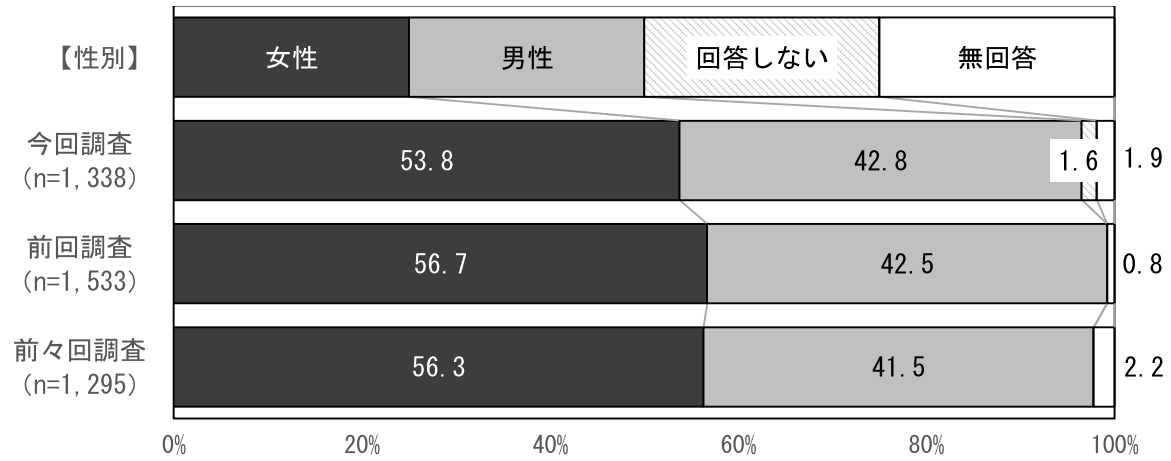
Ⅰ．市民

１．回答者プロフィール

（１）性別

性別では、「女性」が 53.8％であり「男性」（42.8％）を 11 ポイント上回っている。

前回・前々回調査と同様、「女性」の方が高い（図１－１）。



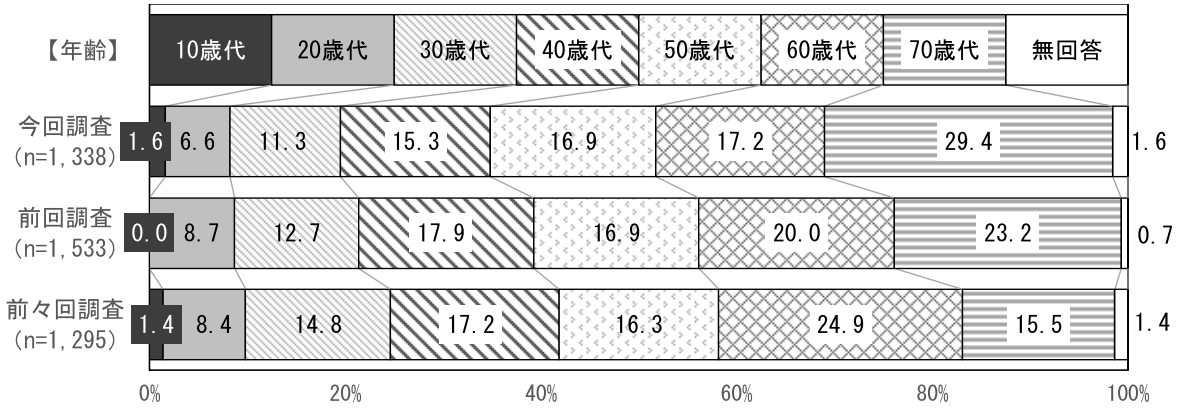
＊「回答しない」は、今回調査のみ。

図１－１　性別（前回・前々回調査比較）

（２）年齢

年齢では、「70 歳代以上」が約３割を占めて最も高い。

前回・前々回調査と比較すると、「20 歳代」「30 歳代」「40 歳代」「60 歳代」が減少している（図１－２）。



＊前回調査では「10 歳代」はなし。

図１－２　年齢（前回・前々回調査比較）

（３）職業

職業では、「会社員や公務員などの常勤職」（35.2％）が最も高く、次いで「無職」（19.1％）、「専業主婦・主夫」（18.9％）、「パート・アルバイト・フリーター」（15.0％）となっており、前回・前々回調査と同様である（図１－３）。

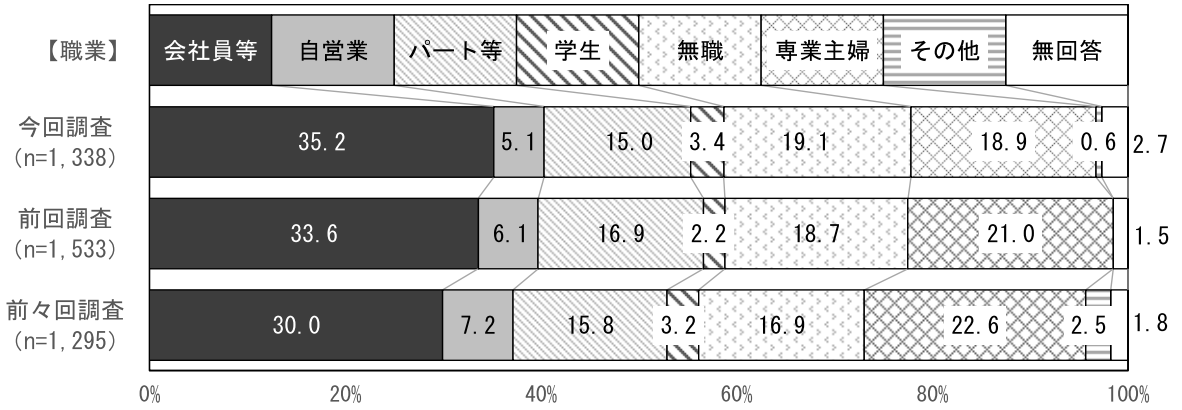


図１－３　職業（前回・前々回調査比較）

（４）在住年数

在住年数では、前回・前々回調査と同様、「25年以上」（53.2％）が最も高い（図１－４）。

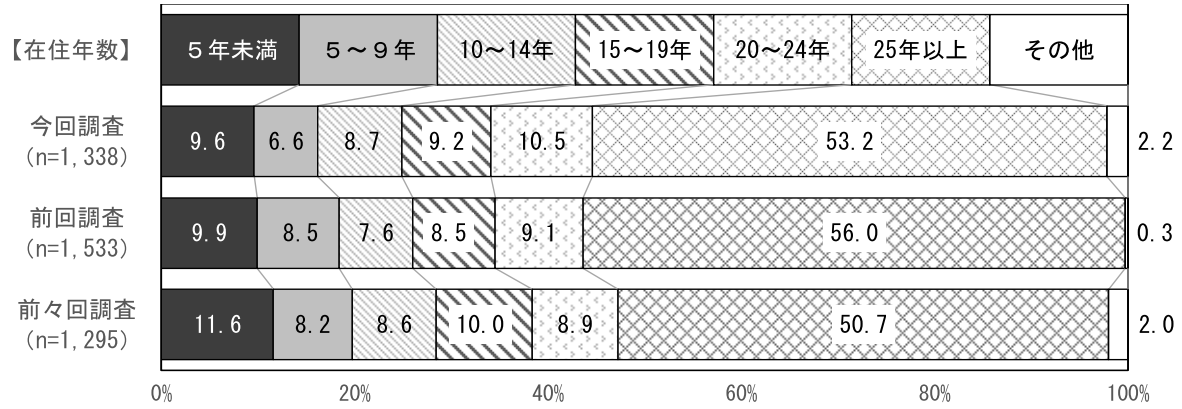


図１－４　在住年数（前回・前々回調査比較）

（５）家族構成

家族構成では、「自分と配偶者と子どもの世帯」（34.8%）が最も高く、次いで「自分と配偶者の夫婦のみの世帯」（26.2%）となっている。

また、「自分ひとりの世帯」が増加傾向にある（図１－５）。

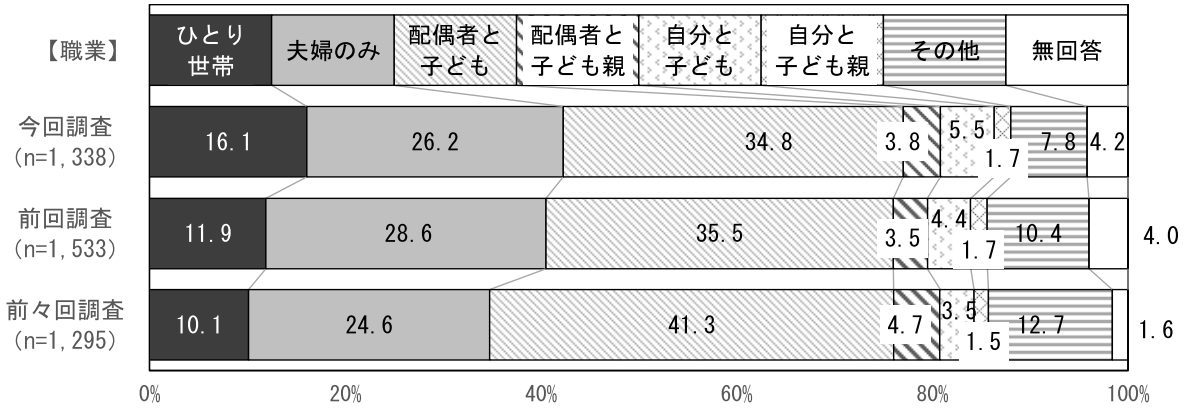


図１－５　家族構成（前回・前々回調査比較）

（６）居住地域

居住地域では、「明第１」（10.7%）が最も高く、次いで「東部」（9.5%）、「小金」（9.0%）となっている（図１－６）。

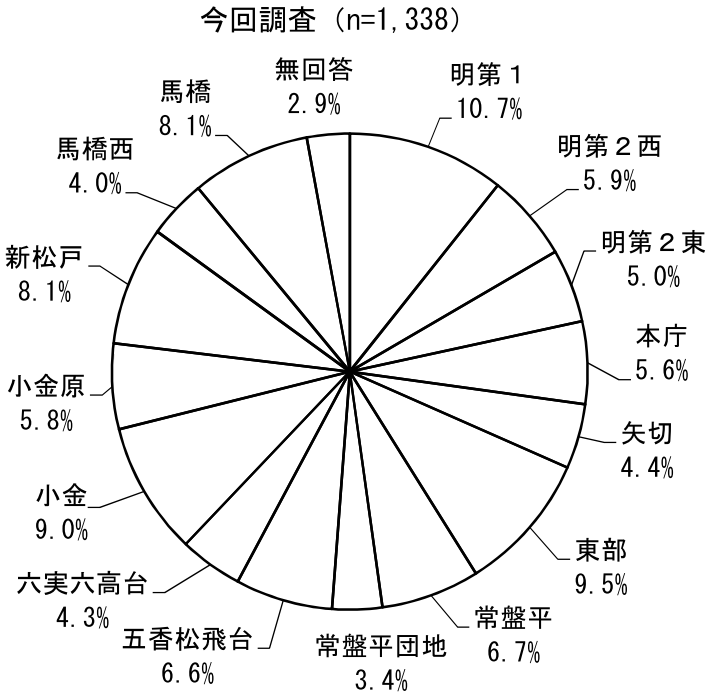


図１－６　居住地域

２．ライフスタイル

（１）時間的なゆとり、経済的なゆとり、地域への愛着、地域の絆

①全体

問１　あなたは、日常生活に時間的なゆとりを感じていますか。（○は１つだけ）
問２　あなたは、日常生活に経済的なゆとりを感じていますか。（○は１つだけ）
問３　あなたは、松戸市に愛着を感じていますか。（○は１つだけ）
問４　あなたが住んでいる地域には、日常生活の中で、住民同士の交流・助け合いなどがあると感じていますか。（○は１つだけ）

日常生活におけるゆとりや地域への愛着、地域の絆（住民同士の交流・助け合い等）については、「大いに感じている」「ある程度感じている」を合わせた「肯定的評価」が最も高いものは、「地域への愛着」（70.1%）であり、次いで「時間的なゆとり」（50.7%）、「地域の絆」（42.2%）、「経済的なゆとり」（32.2%）となっている。

また、「経済的なゆとり」は、「肯定的評価」が 32.2%である一方、「否定的評価」が 50.5%であり、４項目の中で唯一「否定的評価」が「肯定的評価」を上回っている（図１－７）。

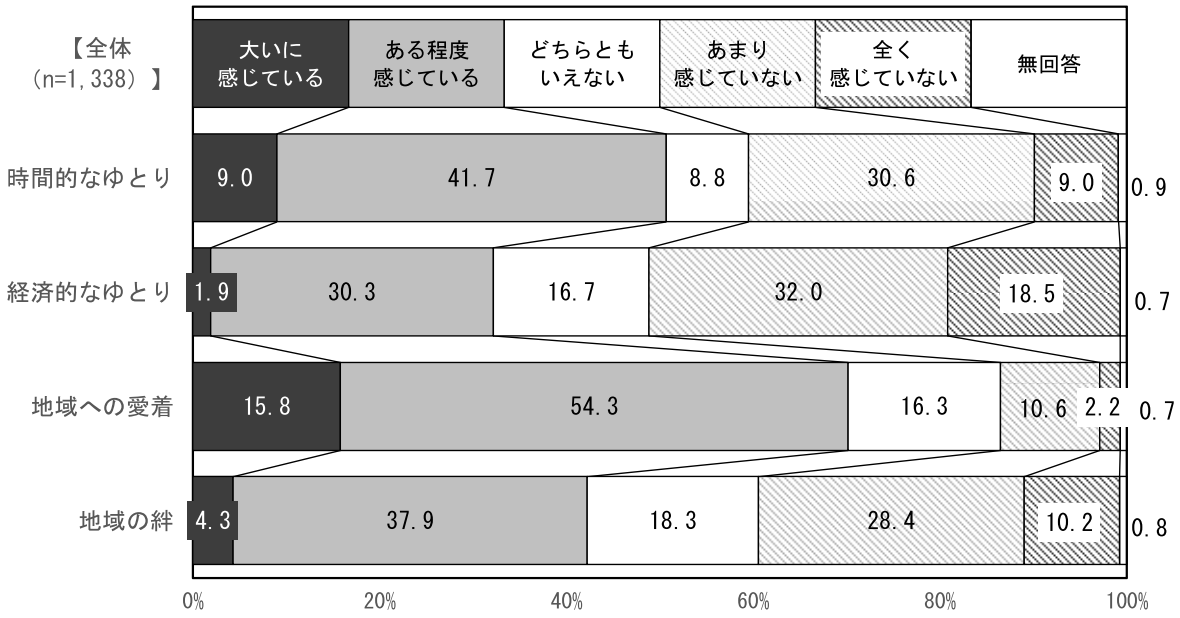


図１－７　時間的なゆとり、経済的なゆとり、地域への愛着、地域の絆

②時間的なゆとり（前回・前々回調査比較、性別、年代別）

日常生活における時間的なゆとりについて、「大いに感じている」「ある程度感じている」を合わせた「肯定的評価」を前回・前々回調査と比較してみると、緩やかに増加している。

性別では、「男性」の方が若干「肯定的評価」が高い。

年代別では、「10 歳代」「20 歳代」では「肯定的評価」が「否定的評価」を上回る一方、「30 歳代」「40 歳代」「50 歳代」では「否定的評価」が「肯定的評価」を上回るが、「60 歳代」「70 歳代」では再び「肯定的評価」が「否定的評価」を上回っている（図１－８）。

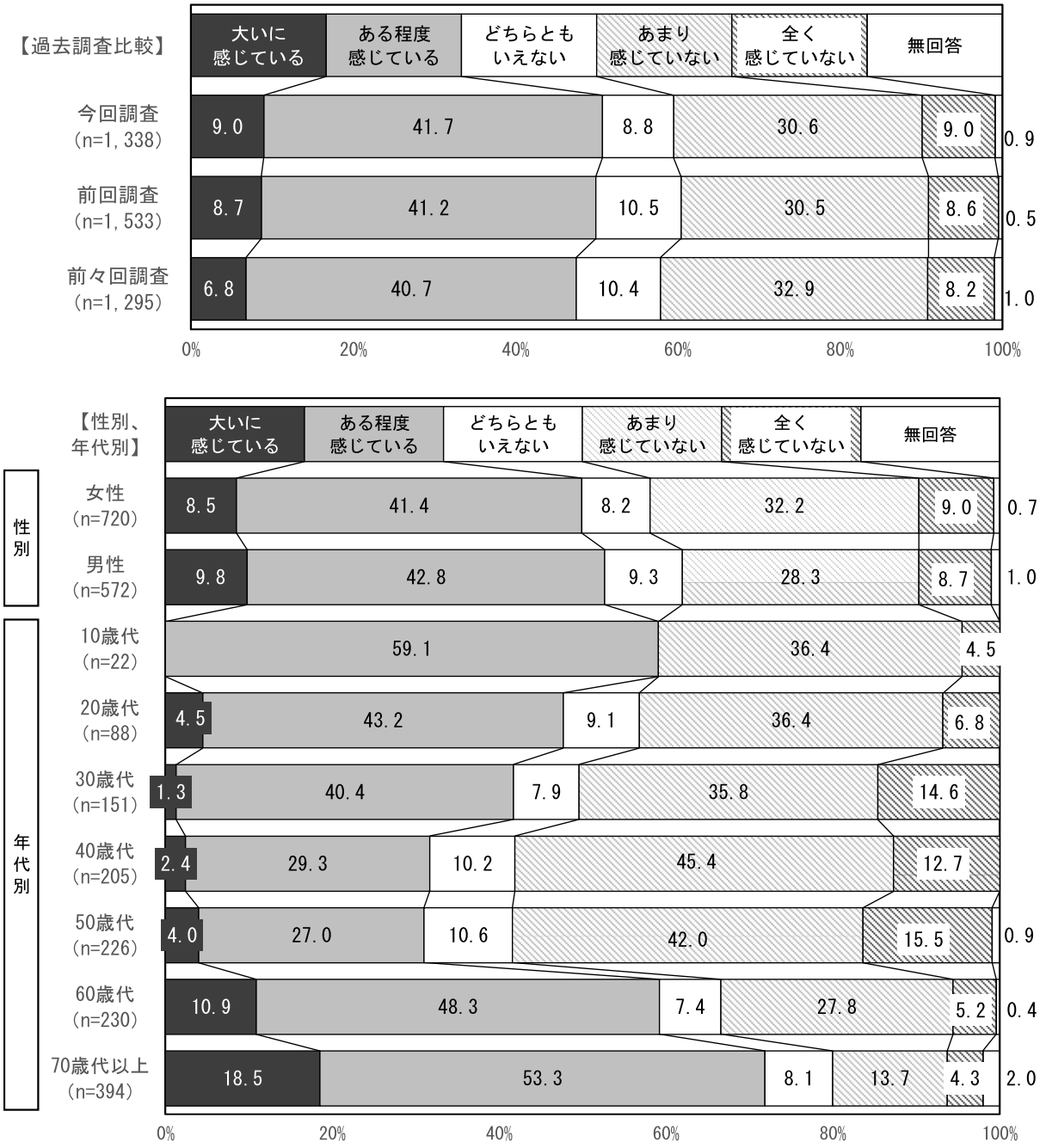


図１－８　時間的なゆとり（【上】前回・前々回調査比較、【下】性別、年代別）

③経済的なゆとり（前回・前々回調査比較、年代別、職業別）

日常生活における経済的なゆとりについて、「大いに感じている」「ある程度感じている」を合わせた「肯定的評価」を前回・前々回調査と比較してみると、緩やかに増加しているが、「否定的評価」を上回る水準にまでは達していない。

年代別では、全ての年代で「否定的評価」が「肯定的評価」を上回っている。

また、職業別では、「専業主婦・主夫」のみ「肯定的評価」が「否定的評価」を上回っている（図１－９）。

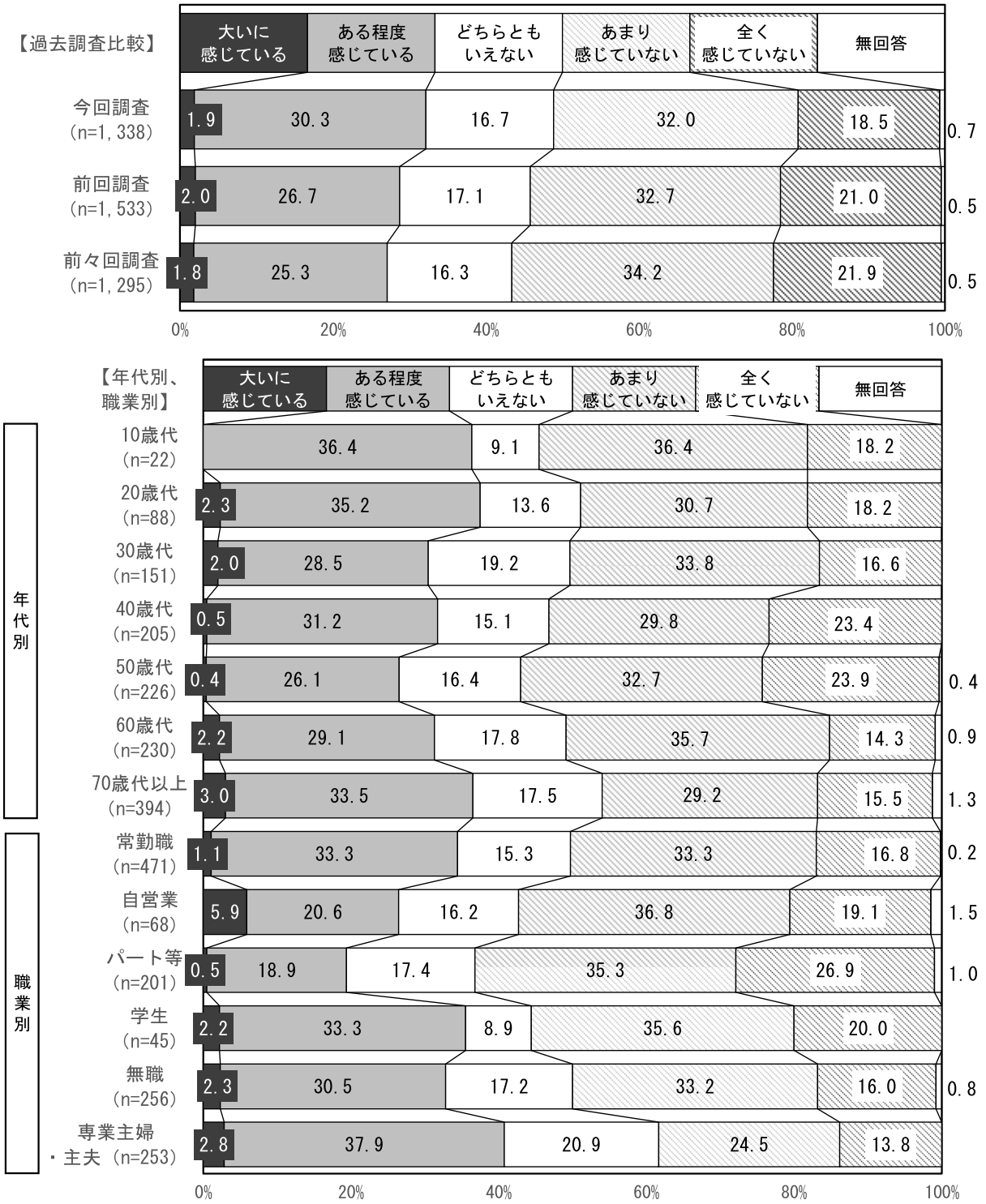


図１－９　経済的なゆとり（【上】前回・前々回調査比較、【下】年代別、職業別）

④地域への愛着（前回・前々回調査比較、性別、年代別）

地域への愛着について、「大いに感じている」「ある程度感じている」を合わせた「肯定的評価」を前回・前々回調査と比較してみると、約 16 ポイント上昇している。

性別では、「女性」の方が若干「肯定的評価」が高い。

年代別では、年代が上がるほど「肯定的評価」が高くなっている（図１-10）。

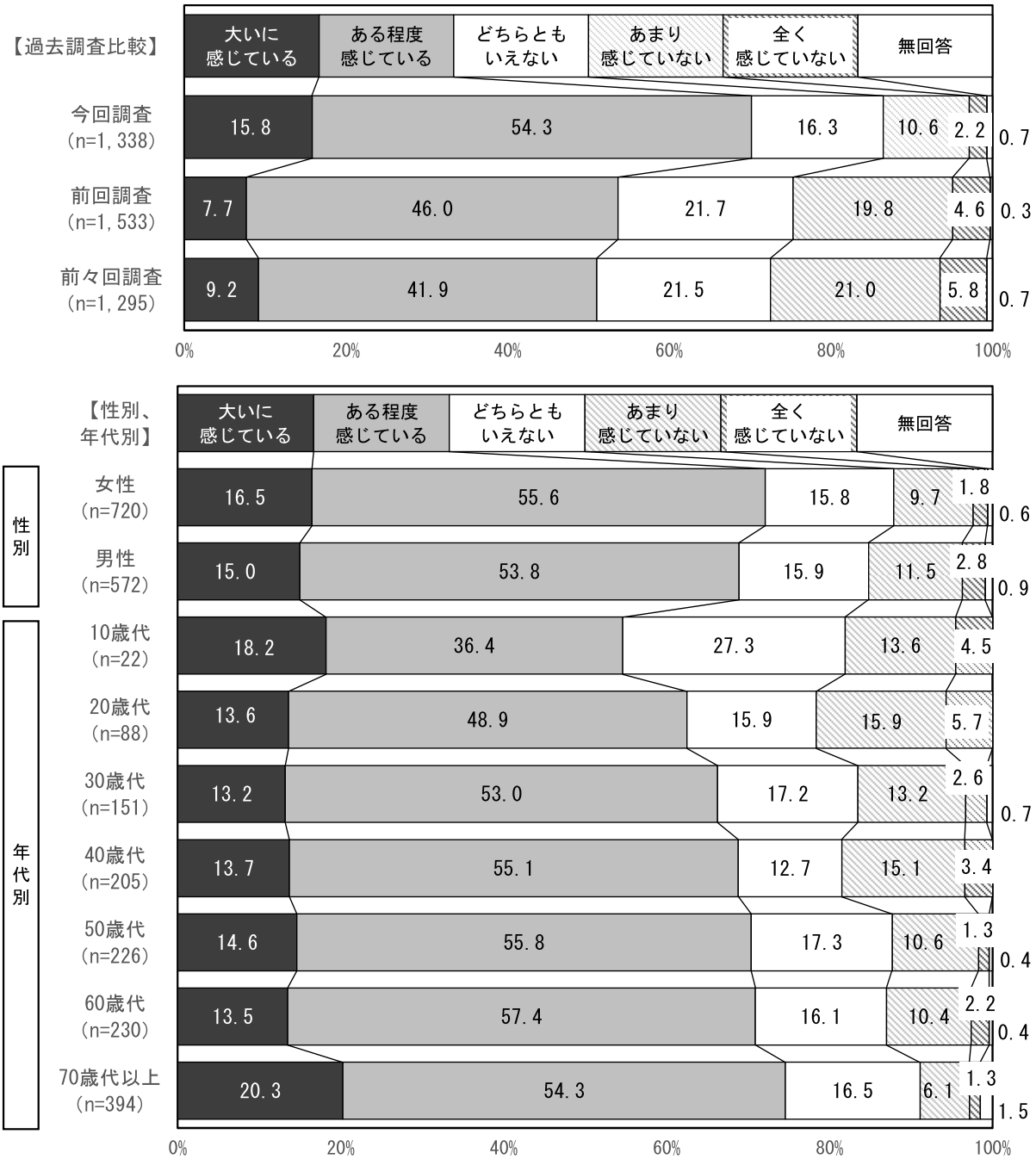


図１-10　地域への愛着（【上】前回・前々回調査比較、【下】性別、年代別）

⑤地域の絆（前回・前々回調査比較、年代別、在住年数別）

地域の絆について、前回・前々回調査と比較してみるとほぼ同様であり、「大いに感じている」「ある程度感じている」を合わせた「肯定的評価」が「否定的評価」を若干上回っている。

年代別では、「10 歳代」「50 歳代」「60 歳代」「70 歳代以上」において「肯定的評価」の方が高い一方、「20 歳代」「30 歳代」「40 歳代」では「否定的評価」の方が高い。

また、在住年数別では、「15 年～19 年」において「肯定的評価」が 48.7%で最も高く、「５年未満」において 30.4%で最も低い（図１-11）。

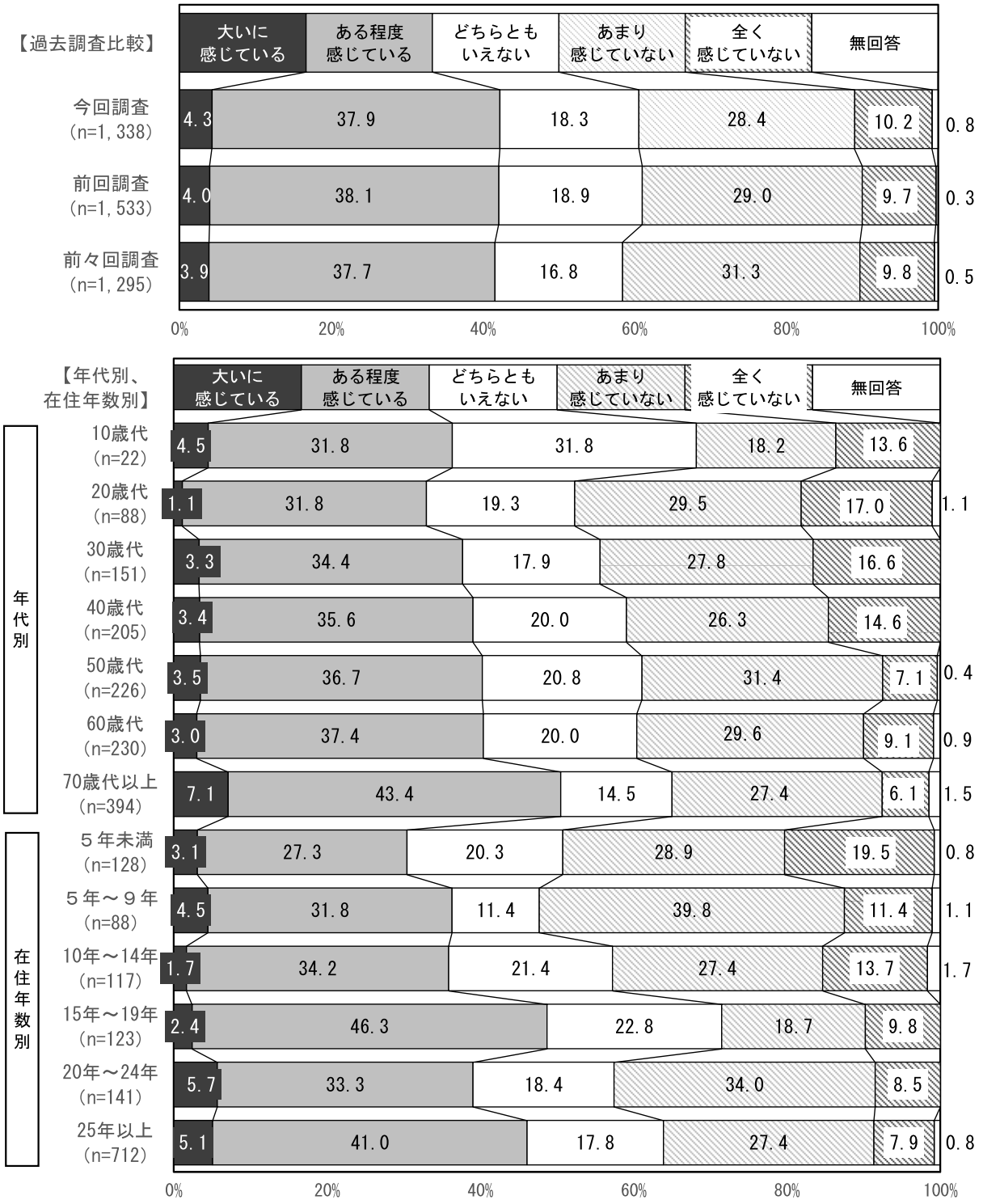


図１-11　地域の絆（【上】前回・前々回調査比較、【下】年代別、在住年数別）

家族構成別では、「自分と子どもと親世帯」の「肯定的評価」が最も高く、「自分ひとり」において最も低い（図１-12)。

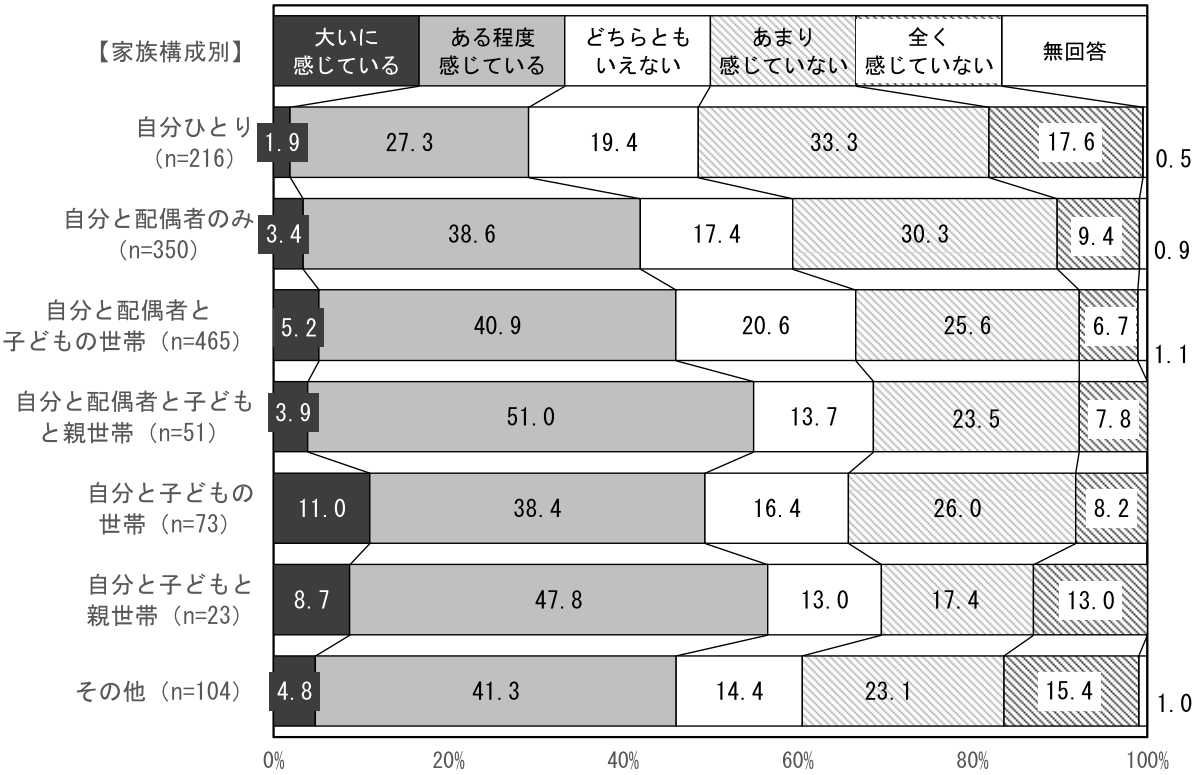


図１-12　地域の絆（家族構成別）

（２）住民同士の交流意向

問５　あなたは日常生活の中で、住民同士の交流・助け合いなどを持ちたいと思いますか。 （○は１つだけ）
問５－１　住民同士の交流や助け合いなどを持ちたいと思う理由はなんですか。（○はいくつでも）

住民同士の交流意向については、「大いに持ちたい」「どちらかといえば持ちたい」を合わせた「肯定的評価」が 57.8%の一方、「否定的評価」は 7.3%にとどまっている。また、交流や助け合いを持ちたい理由については、「火事や自然災害、急病など緊急時にお互い助け合えるから」（85.1%）が最も高く、次いで「近隣住民と良好な関係を築くことができるから」（63.4%）、「治安が良くなるから」（55.1%）となっている（図１-13）。

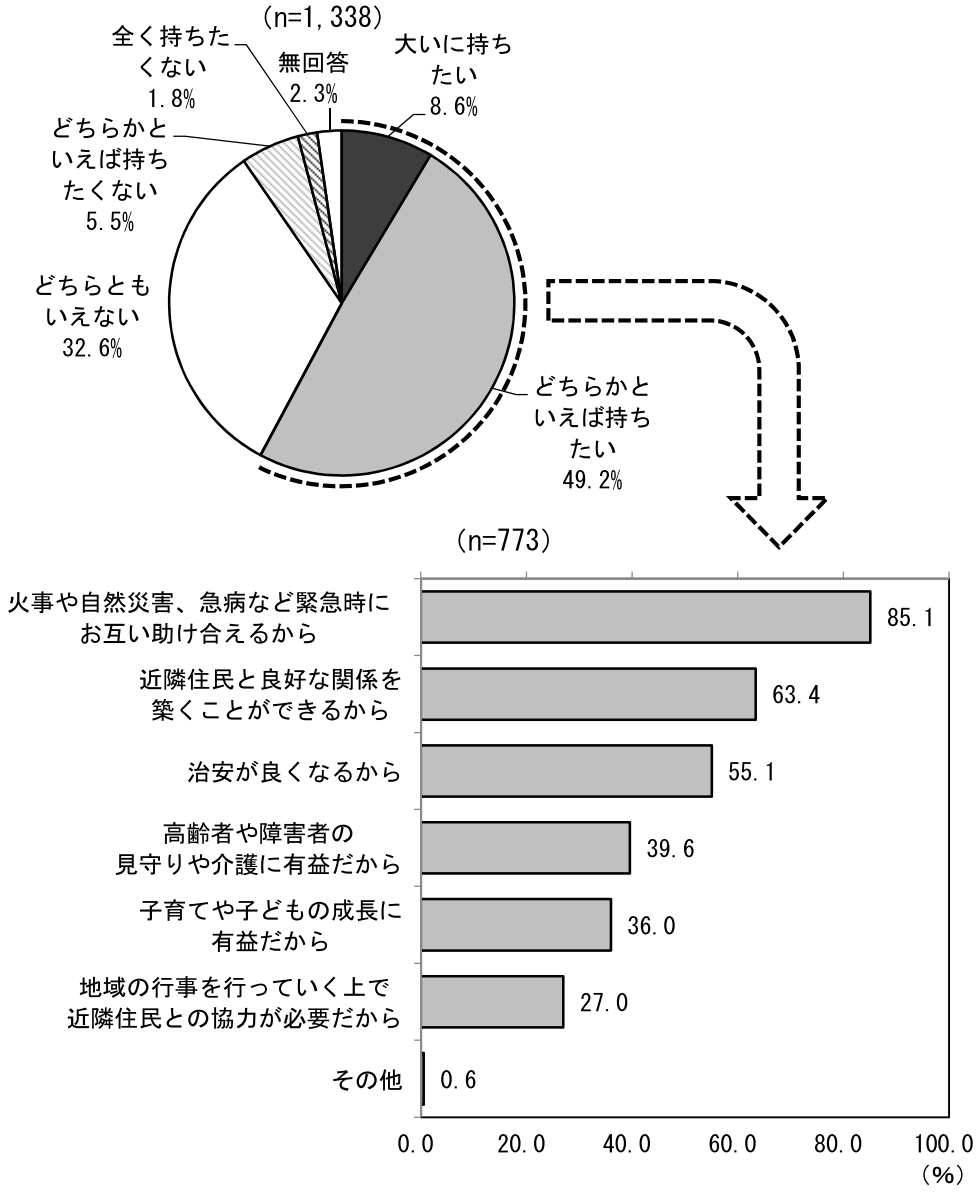


図１-13　住民同士の交流意向、持ちたい理由

交流意向を性別でみると、「女性」の「肯定的評価」の方が「男性」よりも若干高い。

年代別では、「60 歳代」「70 歳代以上」で「肯定的評価」が６割を超えている。また、どの年代も「どちらともいえない」が約３～４割を占めている（図１-14）。

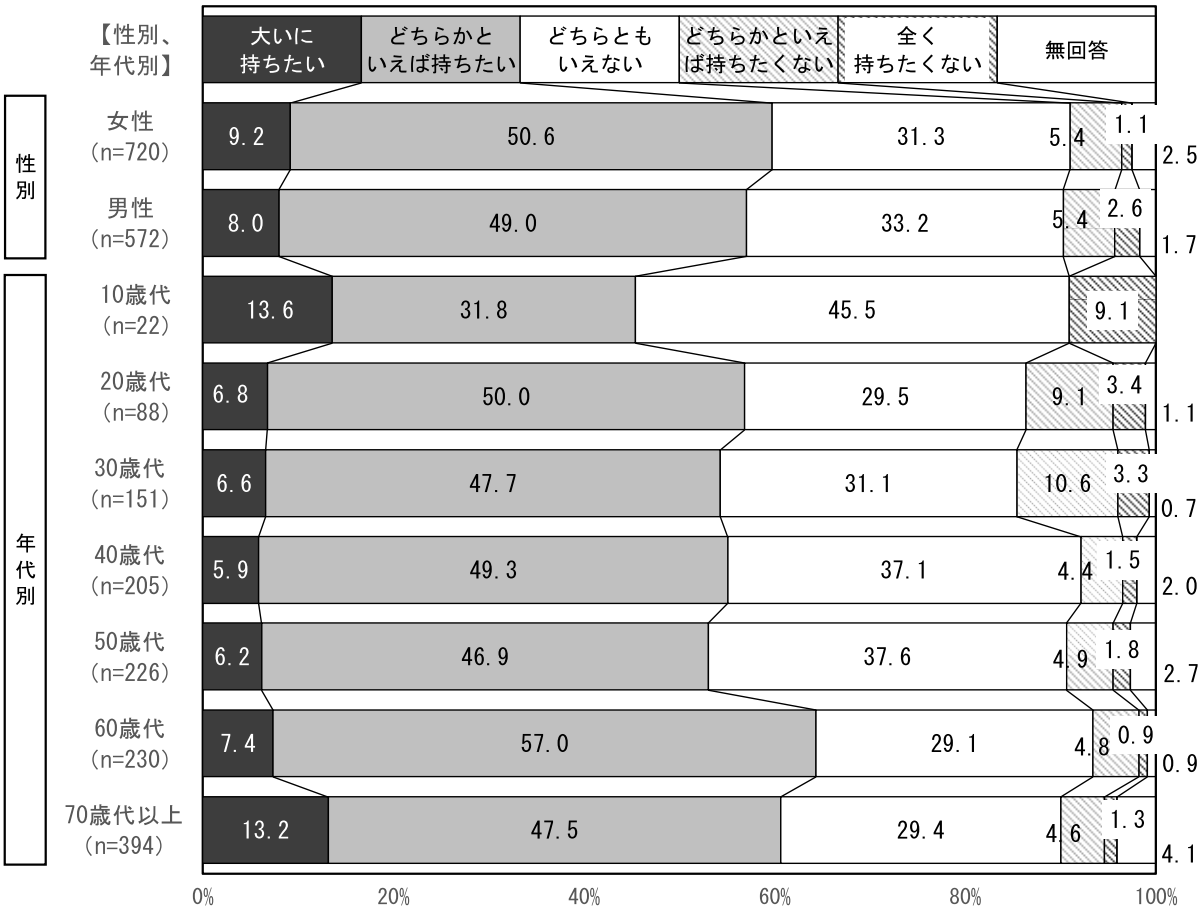


図１-14　住民同士の交流意向（性別、年代別）

家族構成別では、「自分と配偶者と子どもと親世帯」の「肯定的評価」が最も高い（図１-15）。

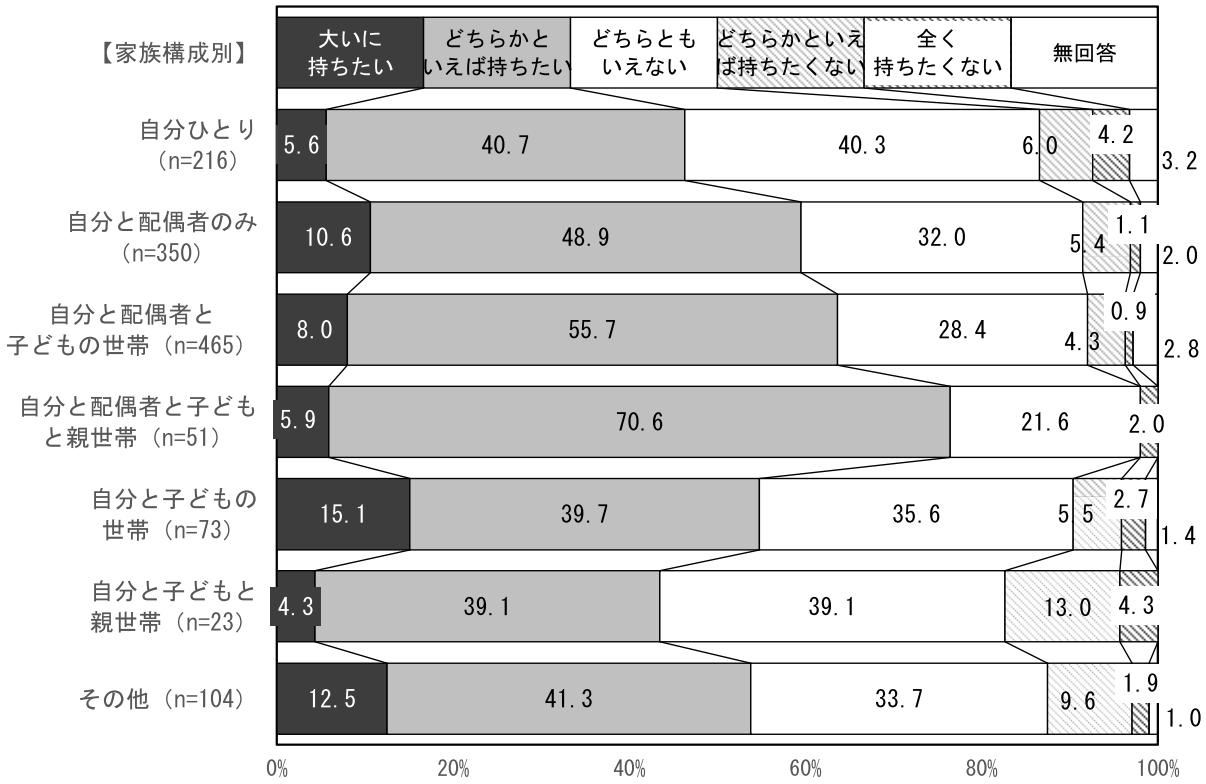


図１-15　住民同士の交流意向（家族構成別）

（３）情報入手手段

問 22　あなたは、日頃本市の取り組みやイベントなどの情報について、主にどのような形で入手していますか。（○は１つだけ）

日頃、松戸市の取り組みやイベント情報を入手する手段については、「広報まつど」(38.1%)が最も高く、次いで「町会・自治会の掲示版や回覧板」（10.1%）となっている。また、「特にない」は 14.1%を占める（図１-16)。

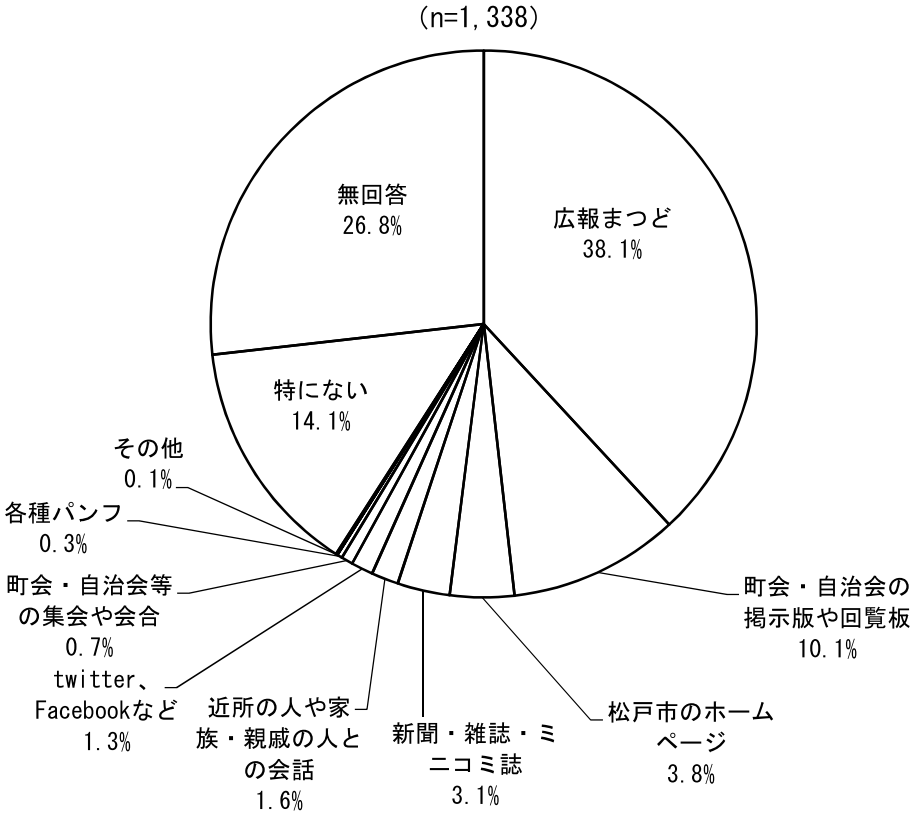


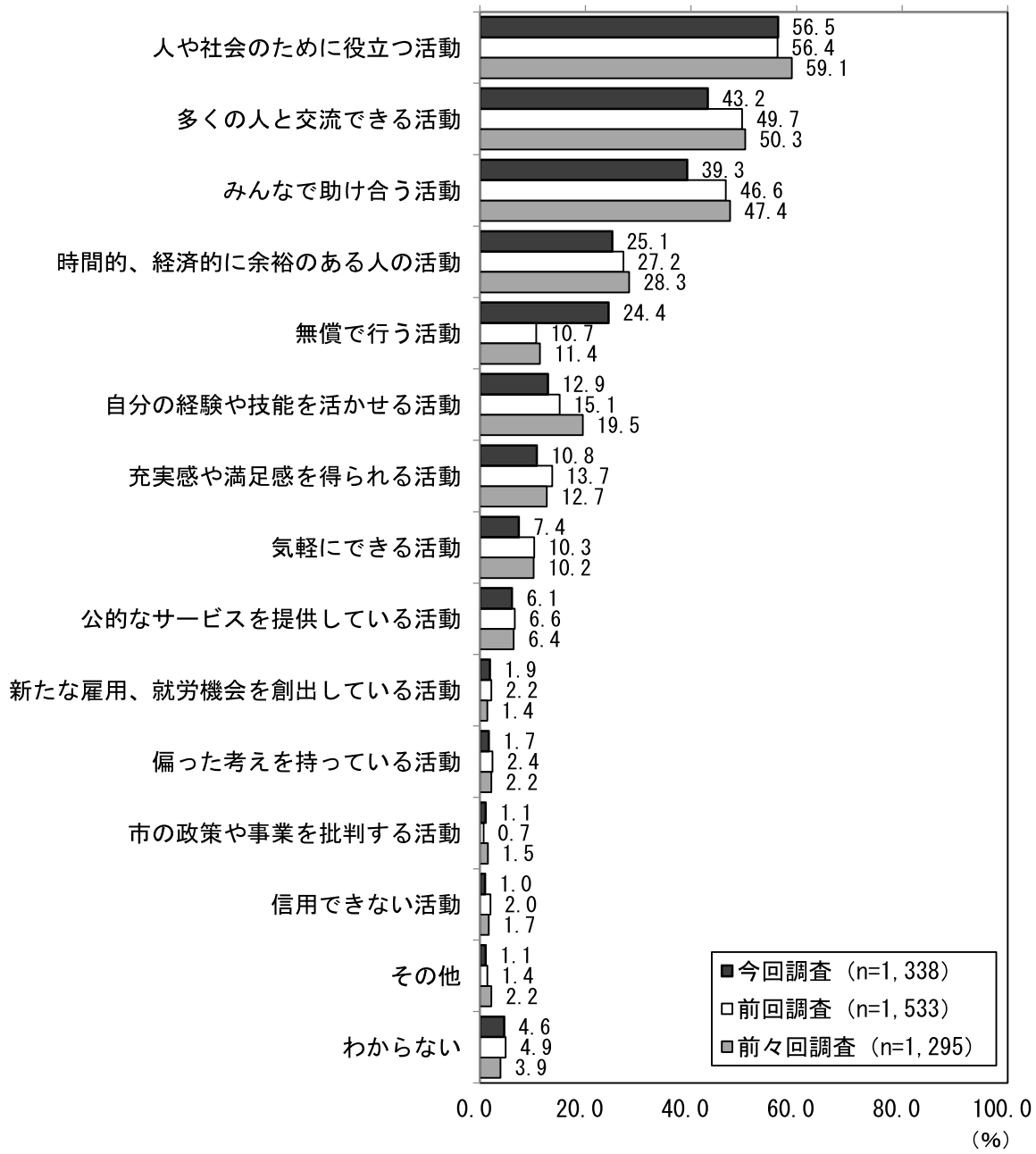
図１-16　情報入手手段

３．市民活動の実態と意識

（１）市民活動のイメージ

問６　あなたは、市民活動についてどのようなイメージを持っていますか。（○は３つまで）

市民活動のイメージについては、「人や社会のために役立つ活動」（56.5%）が最も高く、次いで「多くの人と交流できる活動」（43.2%）、「みんなで助け合う活動」（39.3%）、「時間的、経済的に余裕のある人の活動」（25.1%）、「無償で行う活動」（24.4%）となっており、前回・前々回調査と比較しても、ほぼ同様の結果となっている（図１-17）。



＊今回調査の割合が高い項目からの降順により並び替え。以下、同様。

図１-17　市民活動のイメージ（前回・前々回調査比較）

性別では、「女性」「男性」ともに、「人や社会のために役立つ活動」が最も高い。

年代別では、「10 歳代」「30 歳代」「40 歳代」「50 歳代」「60 歳代」「70 歳代以上」では「人や社会のために役立つ活動」が最も高く、「20 歳代」では「多くの人と交流できる活動」が最も高い（表１－１）。

表１－１　市民活動のイメージ（性別、年代別）

		n	人や社会のために役立つ活動	多くの人と交流できる活動	みんなで助け合う活動	時間的、経済的に余裕のある人の活動	無償で行う活動	自分の経験や技能を活かせる活動	充実感や満足感を得られる活動	気軽にできる活動
性別	女性	720	57.6	48.2	36.3	25.0	25.4	13.6	10.6	8.2
	男性	572	55.8	37.9	43.5	25.3	22.7	11.9	12.1	6.6
年代別	10歳代	22	63.6	31.8	45.5	31.8	9.1	9.1	18.2	4.5
	20歳代	88	47.7	58.0	30.7	31.8	26.1	3.4	9.1	4.5
	30歳代	151	55.0	47.0	32.5	31.1	23.8	6.6	6.0	4.0
	40歳代	205	55.1	42.4	36.6	31.2	24.9	6.8	9.8	3.9
	50歳代	226	62.8	48.2	40.3	26.1	29.2	11.9	8.8	4.9
	60歳代	230	60.4	42.2	41.3	24.3	28.3	17.8	13.0	4.8
	70歳代以上	394	53.6	37.3	42.9	18.5	20.6	17.8	13.7	14.2

		n	公的なサービスを提供している活動	新たな雇用、就労機会を創出している活動	偏った考えを持っている活動	市の政策や事業を批判する活動	信用できない活動	その他	わからない
性別	女性	720	6.9	1.5	0.8	0.4	0.8	0.8	3.3
	男性	572	5.4	2.4	3.0	1.9	1.0	1.4	4.7
年代別	10歳代	22	4.5	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	13.6
	20歳代	88	5.7	1.1	2.3	2.3	1.1	3.4	8.0
	30歳代	151	5.3	1.3	3.3	1.3	2.0	2.0	2.6
	40歳代	205	7.8	2.9	2.9	1.0	2.0	2.4	4.9
	50歳代	226	4.4	3.1	1.3	0.4	0.0	1.3	3.1
	60歳代	230	7.4	1.7	1.3	1.3	0.0	0.0	5.7
	70歳代以上	394	6.1	1.3	0.8	1.3	1.0	0.0	3.6

＊各層の中で最も高い項目に網掛け。また、小数点の数値は%。以下、同様。

（２）市民活動への関心度

問７　あなたは、市民活動にどの程度関心がありますか。（○は１つだけ）

市民活動への関心度は、「どちらともいえない」の「中間層」が 35.7%で最も高く、「大いに関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた「関心層」が 32.6%、「どちらかといえば関心がない」「全く関心がない」を合わせた「無関心層」が 29.9%となっている。

また、前回・前々回調査と比較すると、「中間層」が約 11 ポイント増加している一方、「関心層」が減少傾向にある。

性別では、「女性」「男性」とも「中間層」が最も高いが、「男性」の方が「無関心層」が高い（図１-18）。

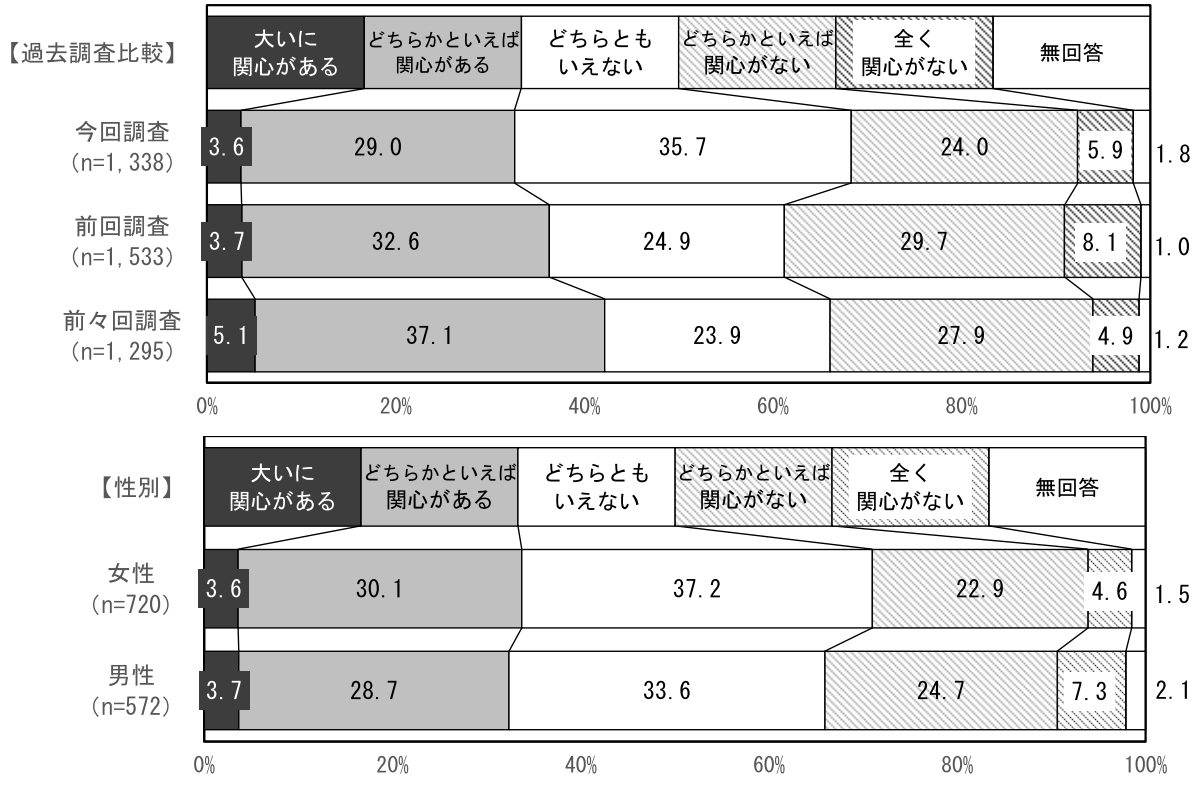


図１-18　市民活動への関心度（【上】前回・前々回調査比較、【下】性別）

年代別では、「10 歳代」「20 歳代」「30 歳代」「40 歳代」では「無関心層」が最も高く、「50 歳代」「60 歳代」では「中間層」が最も高く、「70 歳代以上」では「関心層」が最も高い。

地域への愛着別では、松戸市に愛着を「大いに感じている」「ある程度感じている」を合わせた「肯定的評価層」では「関心層」が最も高いが、「否定的評価層」では「無関心層」が最も高い（図１-19）。

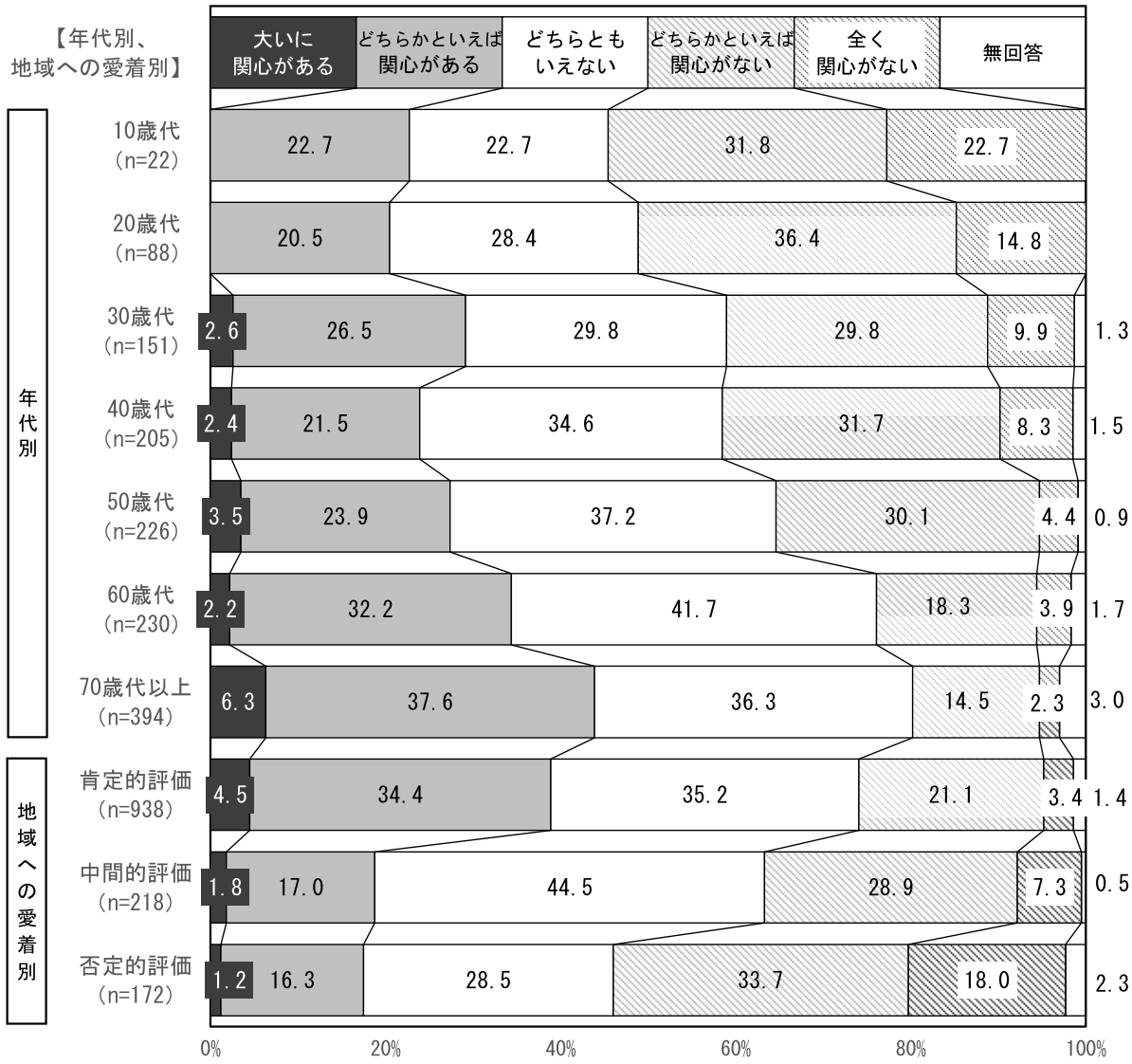


図１-19　市民活動への関心度（年代別、地域への愛着別）

（３）市民活動への参加状況

①参加経験の有無

問８　あなたは、これまで市民活動に参加したことがありますか。（○は１つだけ）

市民活動への参加状況については、「現在、参加している」が 12.0％であり、「以前は参加していたが、現在は参加していない」（21.8％）を含めた参加経験率が 33.8％となっている一方、「これまで参加したことはない」（未経験率）は 64.3％を占めている。

また、前回・前々回調査と比較すると、参加経験率は微減、未経験率は微増している。

性別では、「女性」の参加経験率が 38.0％、「男性」が 29.4％であり、「女性」の参加経験率の方が高い（図１-20）。

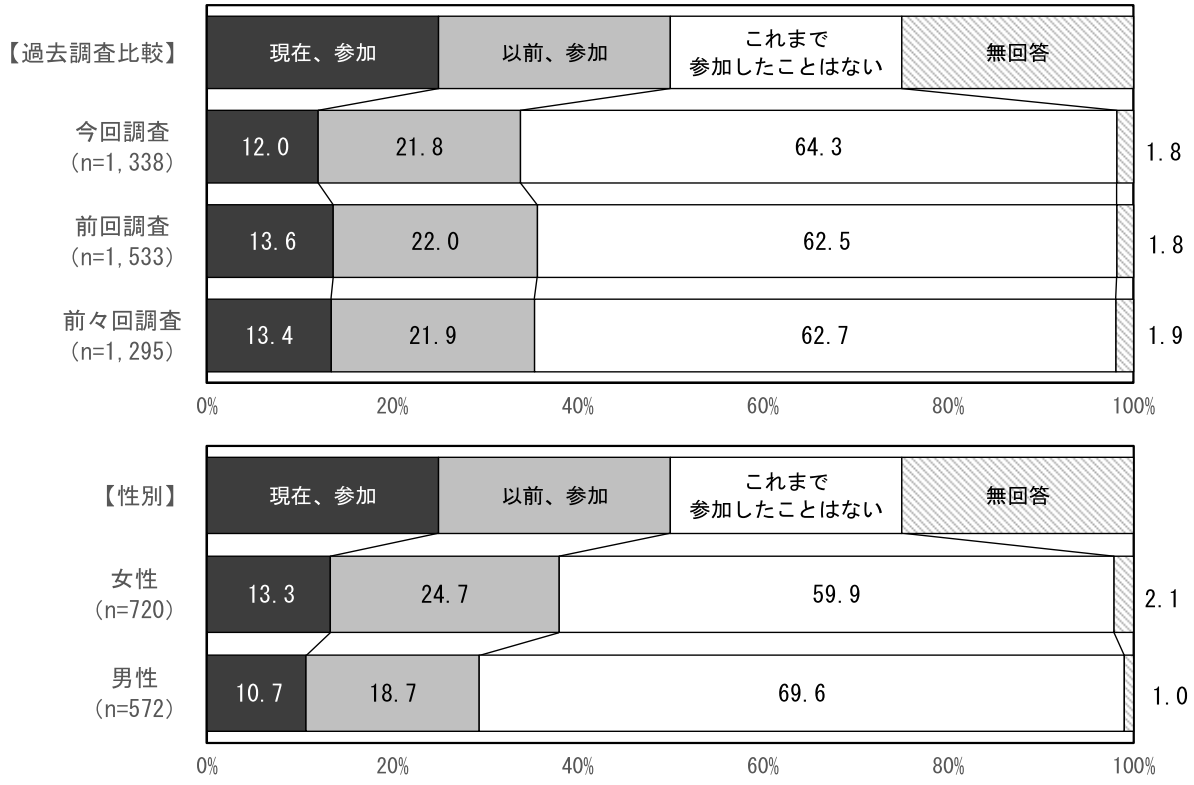


図１-20　参加経験の有無（【上】前回・前々回調査比較、【下】性別）

年代別では、「10 歳代」では「以前は参加していたが、現在は参加していない」が約４割を占める。また、「20 歳代」以上では、年代が上がるほど参加経験率が高くなっている。

市民活動の関心度別では、市民活動に「大いに関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた「関心層」では参加経験率が 48.8％を占める一方、未経験率は 48.4％に達している（図１-21）。

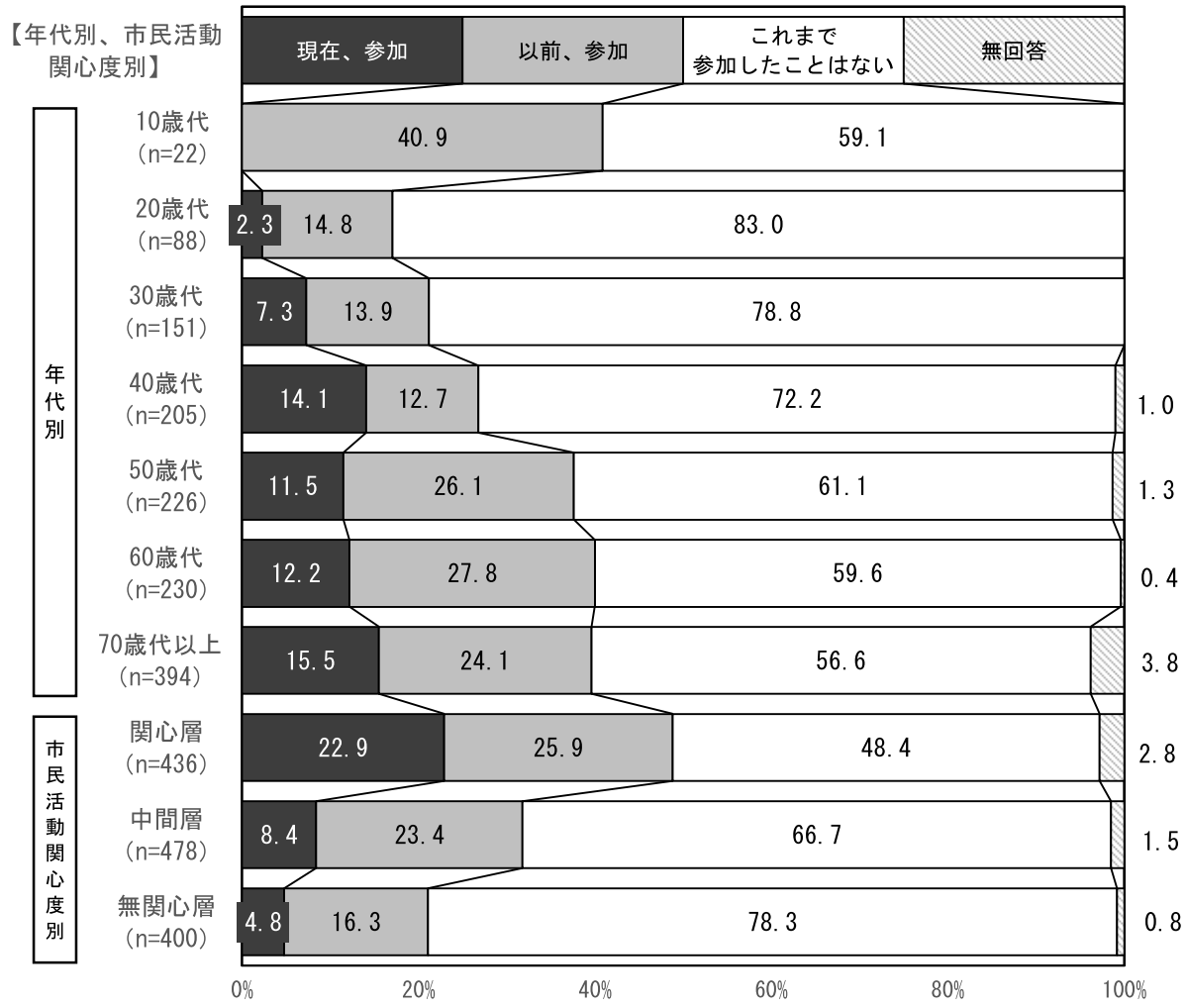


図１-21　参加経験の有無（年代別、市民活動への関心度別）

家族構成別では、「自分と子どもの世帯」「自分と配偶者と子どもと親世帯」の参加経験率が４割を超えている（図１-22）。

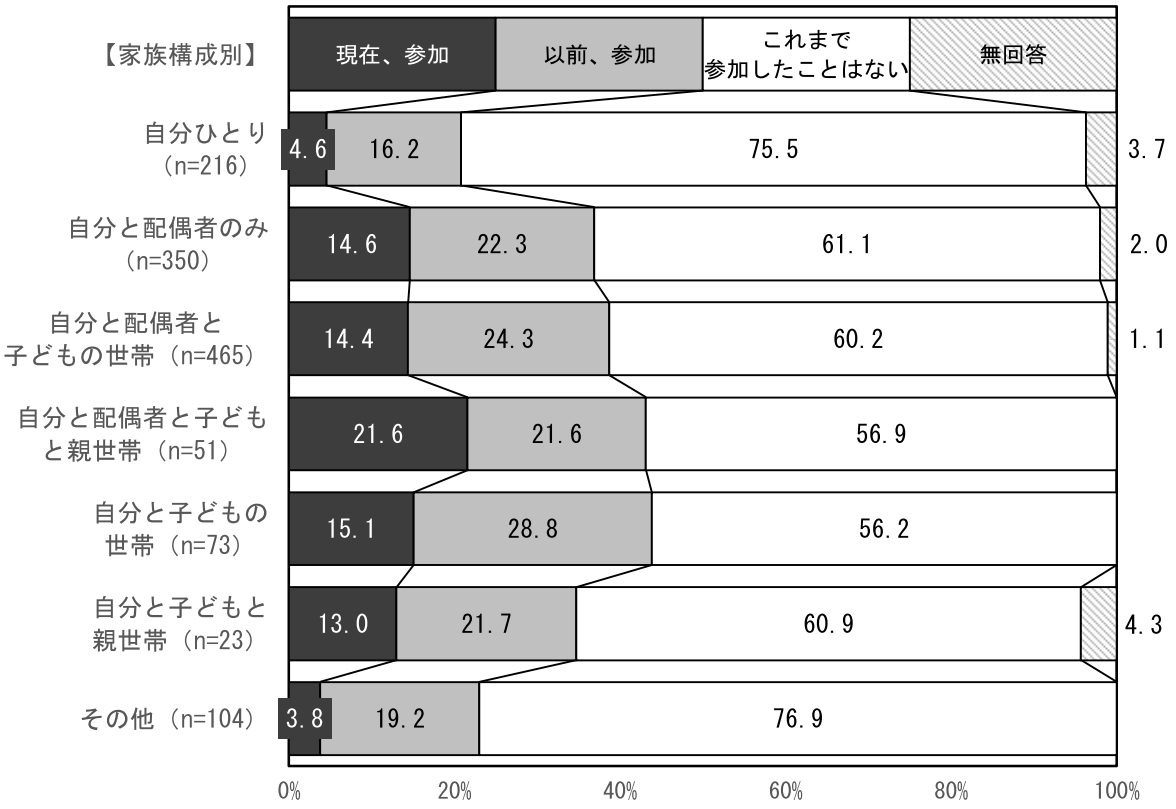


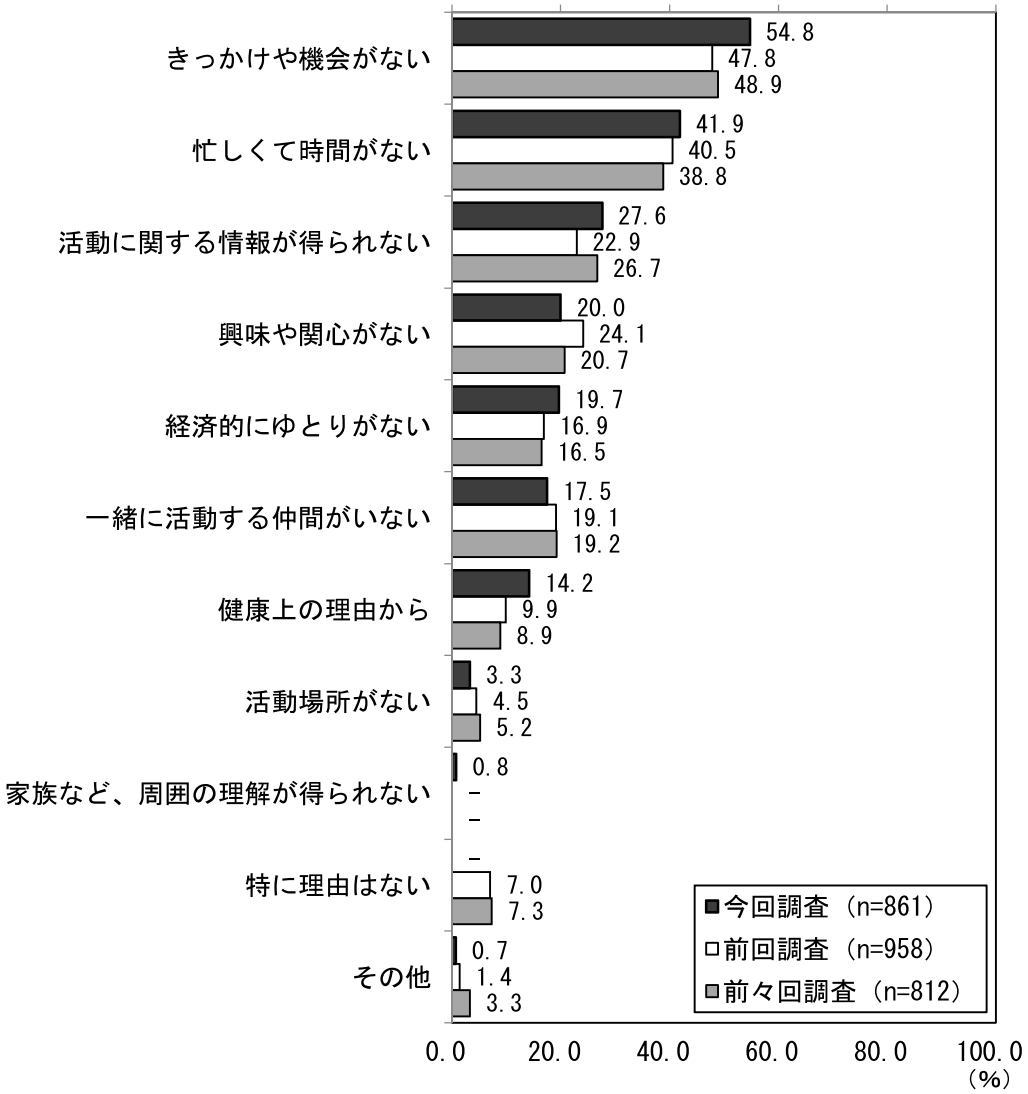
図１-22　市民活動への参加状況（家族構成別）

②参加したことがない理由

問８－１　あなたがこれまで、市民活動に参加したことがない理由は何ですか。（○はいくつでも）

市民活動への参加状況に「これまで参加したことはない」と回答した 861 人を対象に参加したことがない理由を聞いたところ、「きっかけや機会がない」（54.8%）が最も高く、次いで「忙しくて時間がない」（41.9%）、「活動に関する情報が得られない」（27.6%）、「興味や関心がない」（20.0%）となっている。

また、前回・前々回調査と比較すると、上位３項目は増加している（図１-23）。



＊「家族など、周囲の理解が得られない」は今回調査のみ、「特に理由はない」は今回調査にはない。

図１-23　参加したことがない理由（前回・前々回調査比較）

性別では、「女性」「男性」ともに「きっかけや機会がない」が最も高い。
年代別では、全ての年代で「きっかけや機会がない」が最も高い。
住民同士の交流意向別では、「大いに持ちたい」「どちらかといえば持ちたい」を合わせた「肯定的評価層」で「きっかけや機会がない」が最も高い（表１－２）。

表１－２　参加したことがない理由（性別、年代別、住民同士の交流意向別）

		n	きっかけや機会がない	忙しくて時間がない	活動に関する情報が得られない	興味や関心がない	経済的にゆとりがない
性別	女性	431	57.8	44.8	28.1	16.0	20.2
	男性	398	52.5	38.2	26.4	24.1	18.1
年代別	10歳代	13	69.2	15.4	15.4	23.1	23.1
	20歳代	73	61.6	46.6	24.7	28.8	15.1
	30歳代	119	58.0	54.6	34.5	25.2	18.5
	40歳代	148	62.8	51.4	31.1	19.6	22.3
	50歳代	138	55.1	52.9	30.4	22.5	18.1
	60歳代	137	56.9	35.0	32.8	16.8	17.5
	70歳代以上	223	43.5	25.6	17.9	15.7	21.1
交流意向	肯定的評価	421	60.8	46.3	33.7	10.5	17.1
	中間的評価	337	51.0	36.5	23.4	24.0	23.1
	否定的評価	80	43.8	40.0	15.0	51.3	20.0

		n	一緒に活動する仲間がいない	健康上の理由から	活動場所がない	家族など周囲の理解が得られない	その他
性別	女性	431	14.4	12.8	3.2	1.2	0.9
	男性	398	20.1	15.6	3.0	0.3	0.5
年代別	10歳代	13	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	73	17.8	0.0	0.0	0.0	1.4
	30歳代	119	13.4	1.7	3.4	0.0	0.8
	40歳代	148	15.5	3.4	2.0	1.4	0.7
	50歳代	138	13.8	10.1	5.1	0.0	0.7
	60歳代	137	16.1	10.9	3.6	0.7	1.5
	70歳代以上	223	22.9	37.2	3.1	1.8	0.0
交流意向	肯定的評価	421	19.0	11.6	3.8	0.7	0.2
	中間的評価	337	17.8	16.6	2.7	1.2	1.5
	否定的評価	80	10.0	12.5	3.8	0.0	0.0

市民活動の参加意向別では、「参加したい」「どちらかといえば参加したい」を合わせた「肯定的評価層」で「きっかけや機会がない」が最も高く、「中間的評価層」でも「きっかけや機会がない」が最も高いが、「否定的評価層」では「興味や関心がない」が最も高い（図１-24）。

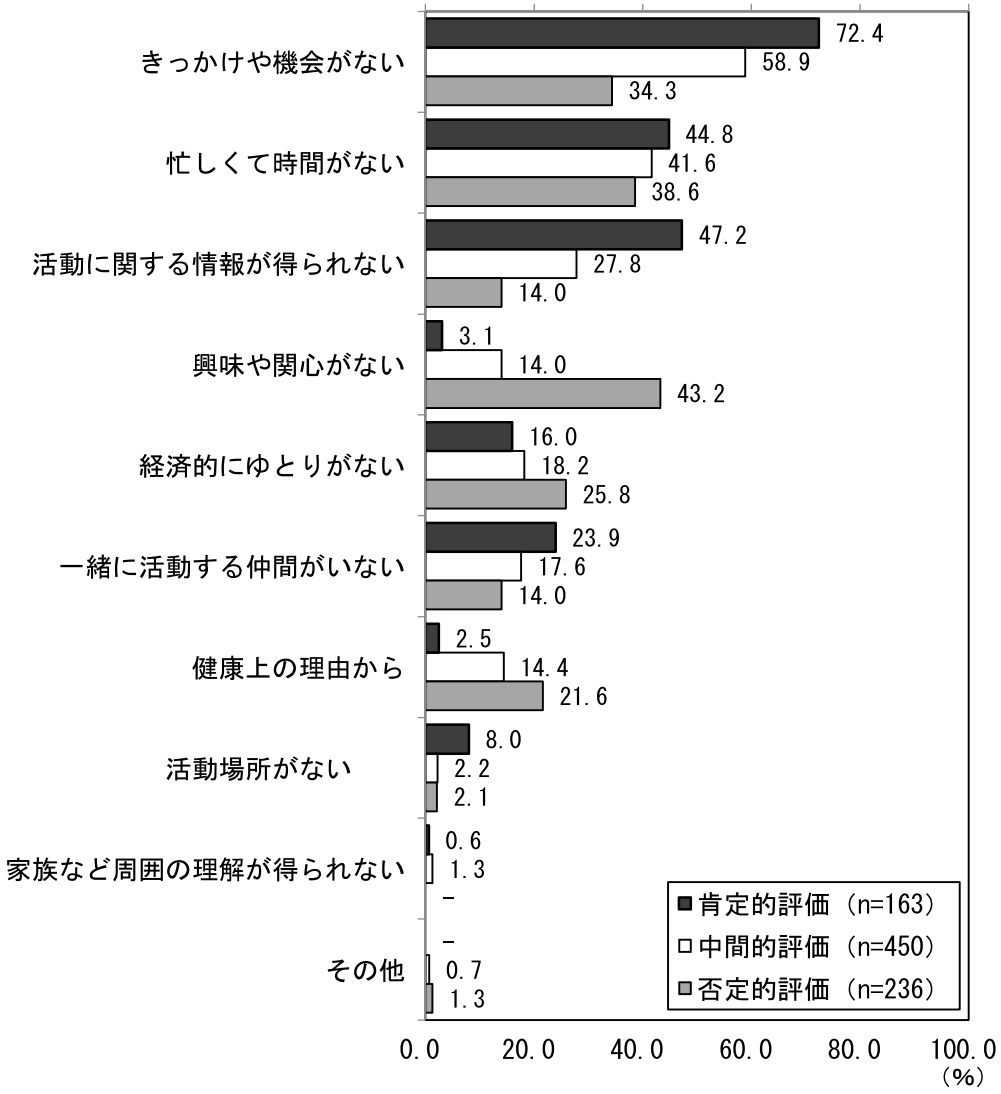


図１-24　参加したことがない理由（市民活動の参加意向別）

③参加のきっかけ

問９　あなたが市民活動に参加したきっかけは、主にどのようなことでしたか。（○は１つだけ）

市民活動に「現在、参加している」または「以前は参加していたが、現在は参加していない」と回答した 453 人に参加のきっかけを聞いたところ、「学校の保護者会・ＰＴＡ、町会・自治会などで役員になったので」(52.9%)が最も高く、次いで「家族、友人の勧めで」(19.0%)となっている（図１-25)。

性別では、「女性」「男性」ともに「学校の保護者会・ＰＴＡ、町会・自治会などで役員になったので」が最も高い。また、年代別では、「10 歳代・20 歳代」「30 歳代」では「家族、友人の勧めで」が最も高く、「40 歳代」「50 歳代」「60 歳代」「70 歳代以上」では「学校の保護者会・ＰＴＡ、町会・自治会などで役員になったので」が最も高い（表１－３)。

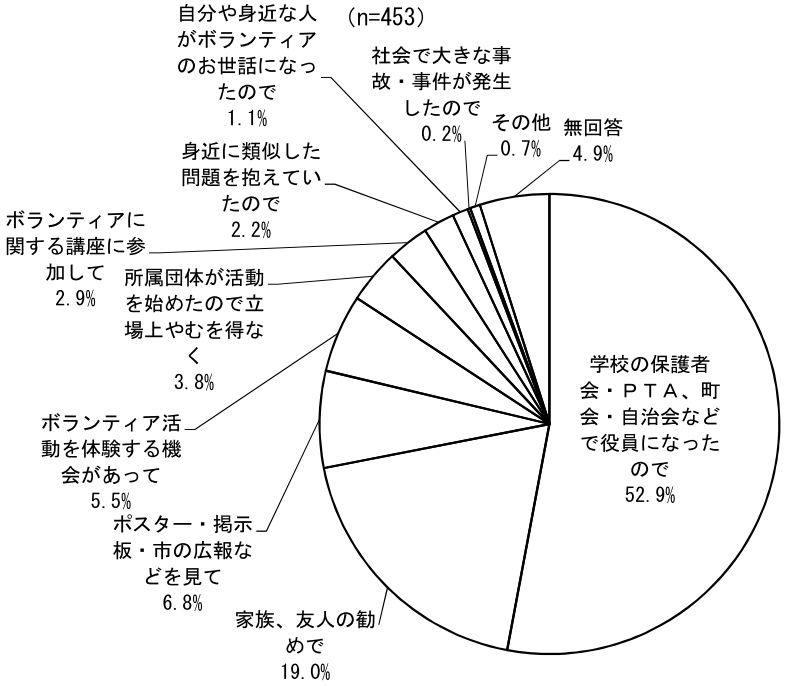


図１-25　参加のきっかけ

表１－３　参加のきっかけ（性別、年代別：上位５項目）

		n	学校の保護者会・ＰＴＡ、町会・自治会などで役員になったので	家族、友人の勧めで	ポスター・掲示板・市の広報などを見て	ボランティア活動を体験する機会があって	所属団体が活動を始めたので立場上やむを得なく
性別	女性	274	57.3	13.1	7.3	6.9	3.3
	男性	168	45.8	28.0	6.5	3.6	4.8
年代別	10歳代・20歳代	24	4.2	62.5	4.2	16.7	8.3
	30歳代	32	21.9	31.3	15.6	12.5	3.1
	40歳代	55	60.0	18.2	9.1	0.0	1.8
	50歳代	85	62.4	10.6	3.5	2.4	3.5
	60歳代	92	71.7	9.8	3.3	5.4	3.3
	70歳代以上	156	48.7	19.2	9.0	6.4	4.5

＊回答数が少ないため「10 歳代」と「20 歳代」を合算した。

④参加方法

問 10　あなたは、これまでどのような組織やルートを通じて、市民活動に参加しましたか。
（○はいくつでも）

市民活動に「現在、参加している」または「以前は参加していたが、現在は参加していない」と回答した 453 人に参加方法を聞いたところ、「町会・自治会で」（66.7%）が最も高く、次いで「学校の保護者会・ＰＴＡで」（31.6%）、「子ども会・老人会・商店会などの地域の組織で」（26.3%）となっている（図１-26）。

性別では、「女性」「男性」ともに「町会・自治会で」が最も高い。また、年代別では、全ての年代で「町会・自治会で」が最も高い（表１－４）。

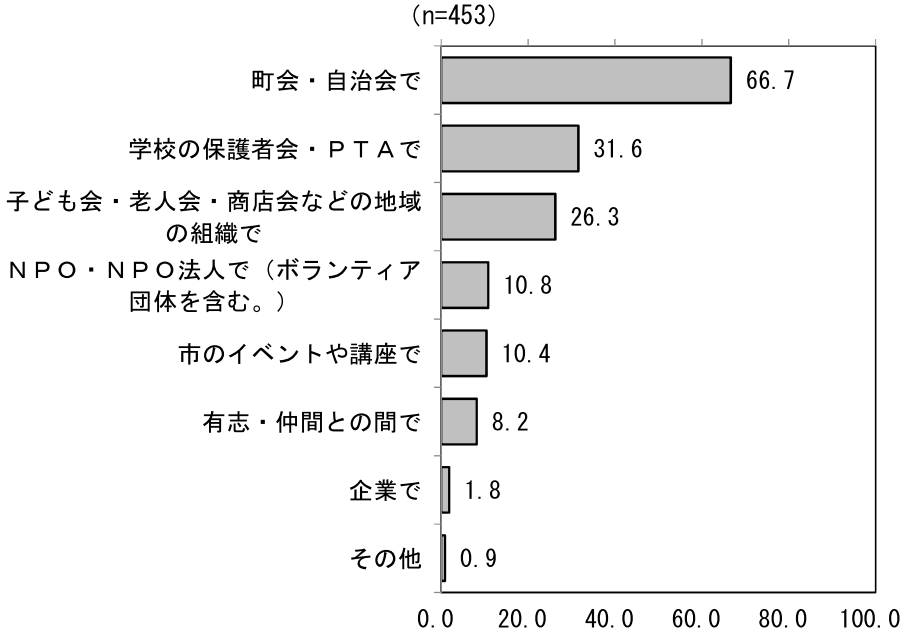


図１-26　参加方法（全体）

表１－４　参加方法（性別、年代別：上位５項目）

		n	町会・自治会で	学校の保護者会・ＰＴＡで	子ども会・老人会・商店会などの地域の組織で	ＮＰＯ・ＮＰＯ法人で（ボランティア団体を含む。）	市のイベントや講座で
性別	女性	274	61.7	43.8	31.4	12.8	12.4
	男性	168	73.2	11.9	17.3	7.7	6.5
年代別	10歳代・20歳代	24	50.0	16.7	37.5	8.3	8.3
	30歳代	32	53.1	9.4	40.6	12.5	9.4
	40歳代	55	63.6	38.2	23.6	9.1	5.5
	50歳代	85	72.9	43.5	22.4	12.9	9.4
	60歳代	92	68.5	41.3	30.4	10.9	9.8
	70歳代以上	156	67.9	25.0	21.2	10.3	13.5

⑤市民活動の評価

問 11　あなたが市民活動に参加してどのようなことを感じましたか。（○は３つまで） ア．よかったと感じていること、イ．課題だと感じていること

市民活動に「現在、参加している」または「以前は参加していたが、現在は参加していない」と回答した 453 人に市民活動の「よかったと感じていること」を聞いたところ、「多世代、他職種の人と交流ができた」(47.2%)が最も高く、次いで「友人を得ることができた」(37.3%)、「活動そのものが楽しかった」(21.6%) となっている（図１-27)。

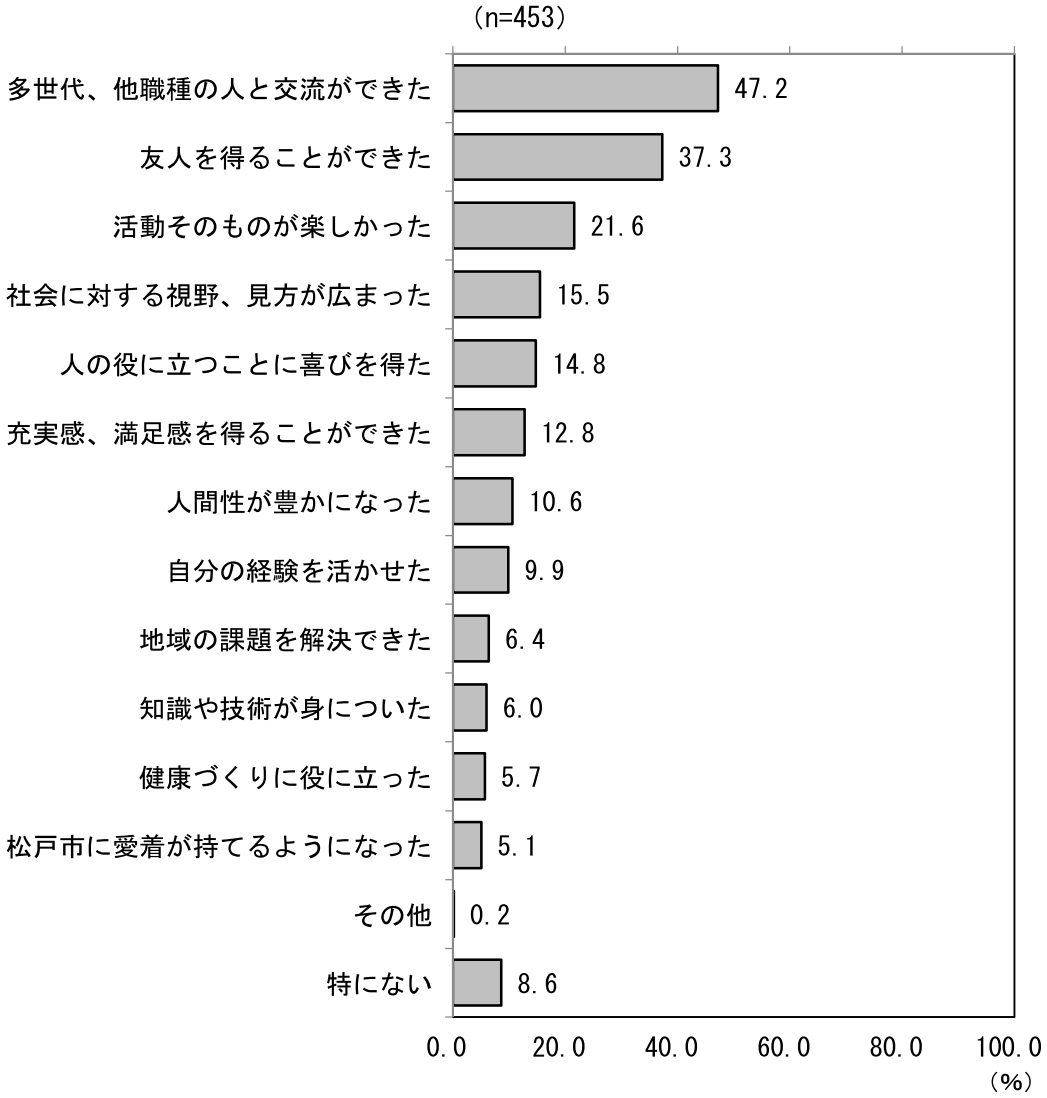


図１-27　市民活動の評価（よかったと感じていること）

「課題だと感じていること」については、「新しく参加してくれる人が少ない」(35.8%)が最も高く、次いで「自分の都合のつく時間に活動できない」(30.5%)、「団体の事務など特定の人に負担がかかる」(26.0%)となっている(図1-28)。

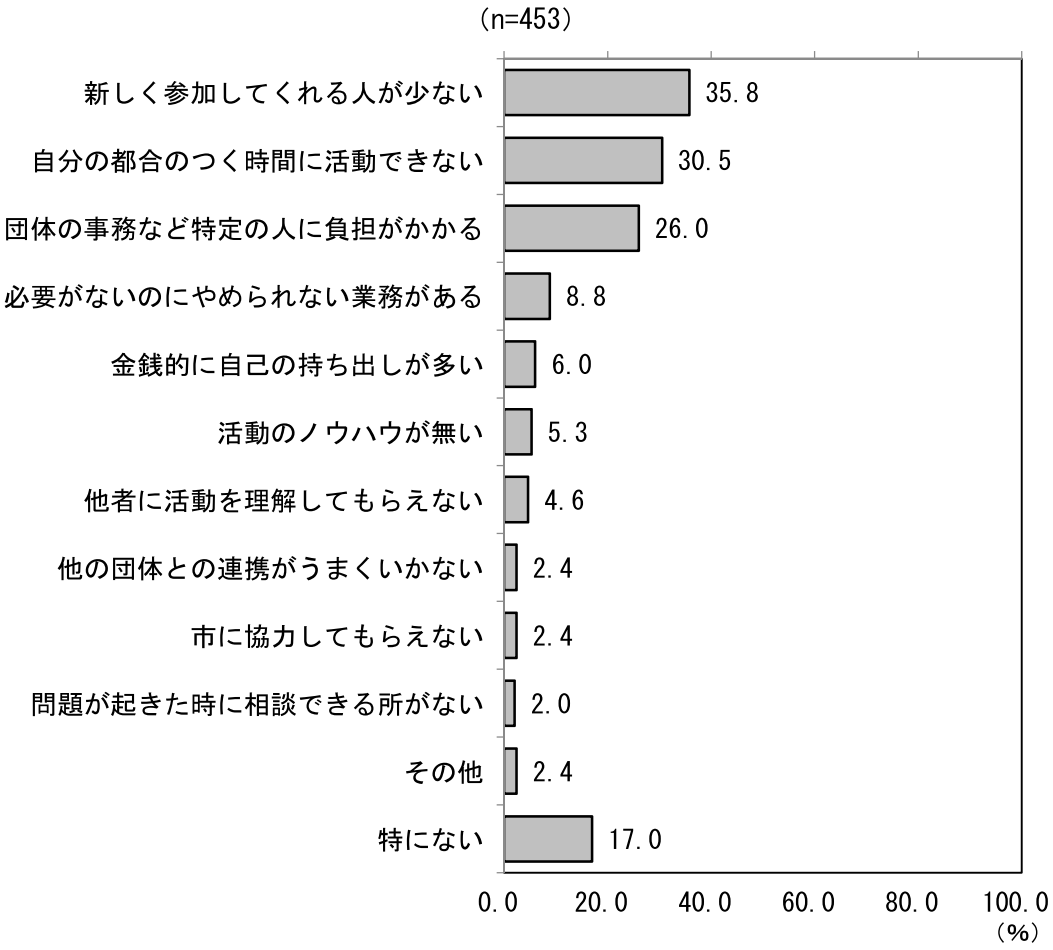


図1-28　市民活動の評価(課題だと感じていること)

（４）市民活動の参加意向

①参加意向

問 12　あなたは、今後、市民活動に参加したいと思いますか。（○は１つだけ）

市民活動への参加意向については、「どちらともいえない」（46.6%）が最も高く、「参加したい」「どちらかといえば参加したい」を合わせた「肯定的評価」が 28.1%、「どちらかといえば参加したくない」「参加したくない」を合わせた「否定的評価」が 22.9%となっている。

性別では、「女性」「男性」ともに「どちらともいえない」が高いが、「肯定的評価」と「否定的評価」を比較した場合、若干、「肯定的評価」の方が高い。

年代別では、全ての年代で「どちらともいえない」が高いが、「肯定的評価」と「否定的評価」を比較した場合、「50 歳代」「60 歳代」「70 歳代以上」では「肯定的評価」の方が高いが、「20 歳代」「30 歳代」「40 歳代」では「否定的評価」の方が高い（図１-29）。

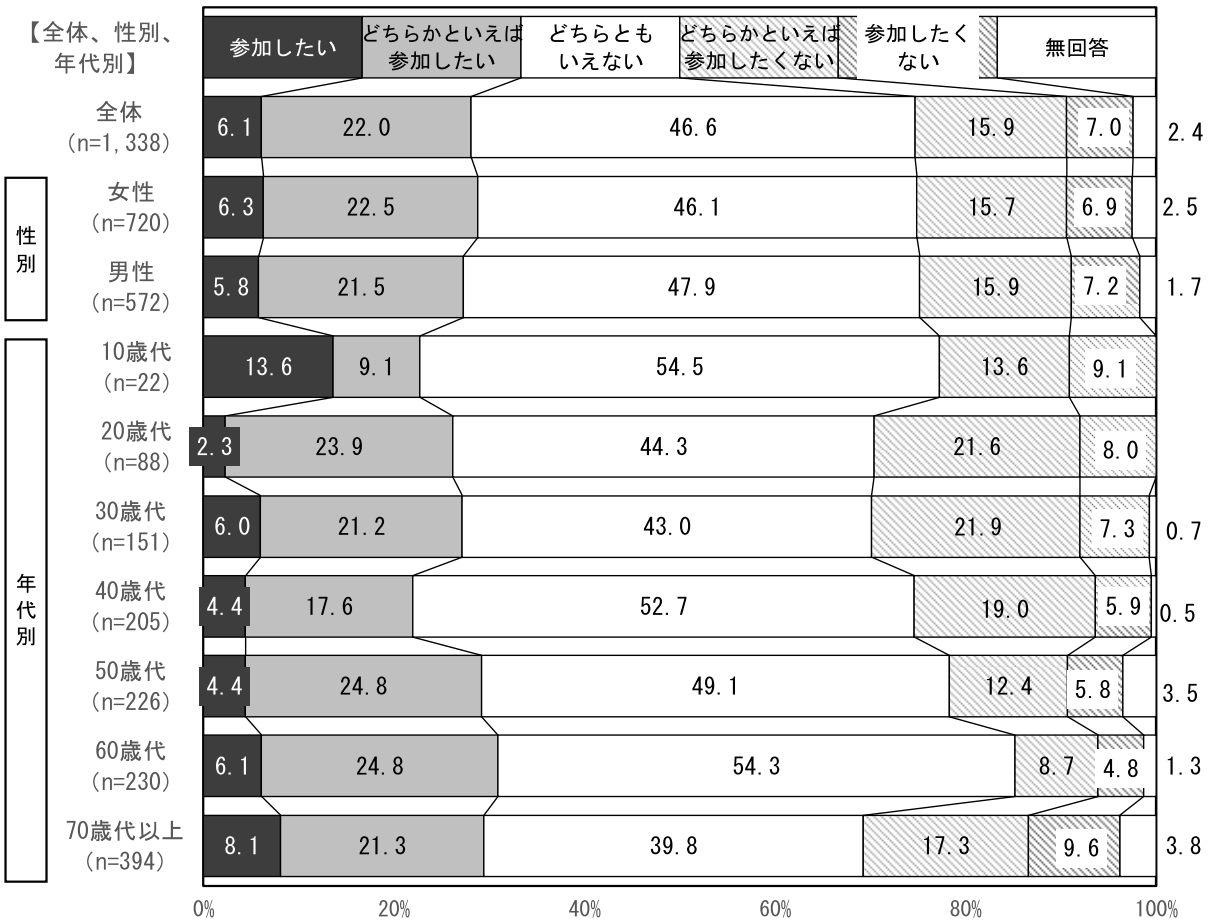


図１-29　市民活動の参加意向（全体、性別、年代別）

市民活動の関心度別では、「大いに関心がある」「ある程度関心がある」を合わせた「関心層」において「肯定的評価」が約６割を占める。

市民活動の参加状況別では、「以前は参加していたが、現在は参加していない」において「肯定的評価」が３割を超える。

家族構成別では、「自分と配偶者のみ」での「肯定的評価」が最も高い（図１-30）。

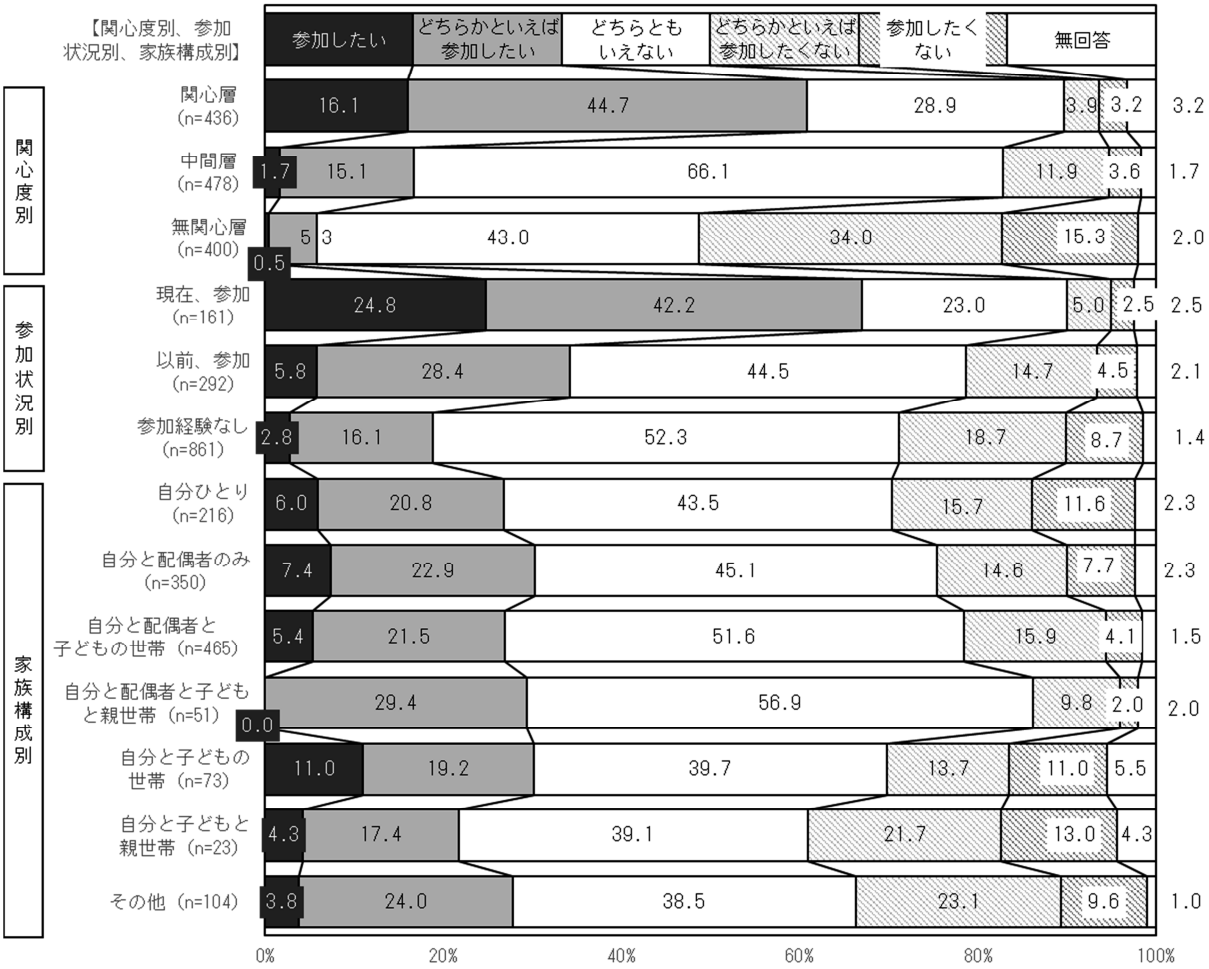


図１-30　市民活動の参加意向

（市民活動の関心度別、市民活動の参加状況別、家族構成別）

②参加したい方法

問 12-１　あなたは、今後どのような組織やルートを通じて、市民活動に参加したいと思いますか。（○は１つだけ）

市民活動への参加意向について、「参加したい」または「どちらかといえば参加したい」と回答した 376 人に今後参加したい組織・ルートを聞いたところ、「町会・自治会で」(27.4%)が最も高く、次いで「機会があれば、どれでも」(23.1%)、「市のイベントや講座で」(15.2%)となっている（図１-31)。

性別では、「女性」において「機会があれば、どれでも」、「男性」において「町会・自治会で」が最も高い。また、年代別では、「30 歳代」「40 歳代」「50 歳代」において「機会があれば、どれでも」、「10 歳代・20 歳代」「60 歳代」「70 歳代以上」において「町会・自治会で」が最も高い（表１－５）。

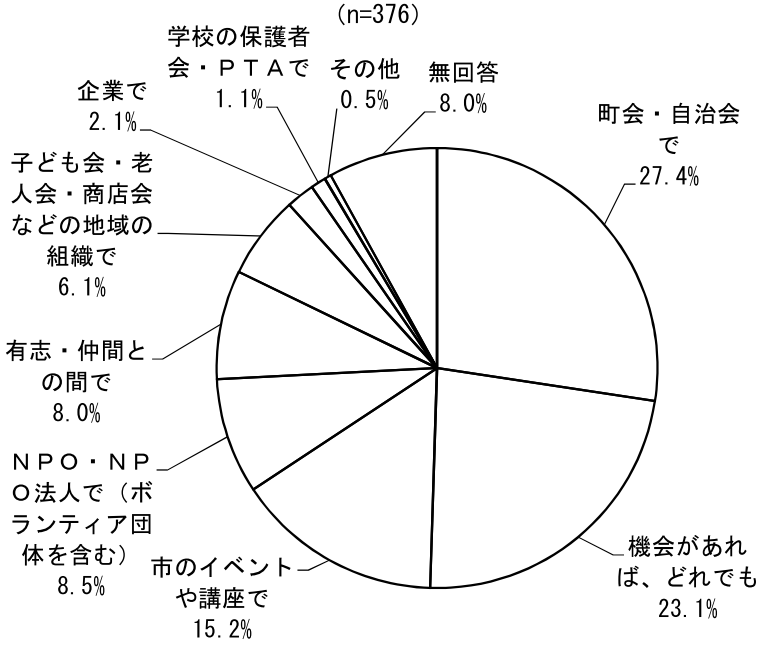


図１-31　参加したい方法（全体）

表１－５　参加したい方法（性別、年代別：上位５項目）

		n	町会・自治会で	機会があれば、どれでも	市のイベントや講座で	ＮＰＯ・ＮＰＯ法人で（ボランティア団体を含む）	有志・仲間との間で
性別	女性	207	20.8	28.0	18.4	7.7	8.7
	男性	156	35.3	17.3	12.2	9.6	7.1
年代別	10歳代・20歳代	28	25.0	10.7	7.1	7.1	10.7
	30歳代	41	24.4	29.3	14.6	0.0	2.4
	40歳代	45	17.8	35.6	17.8	13.3	0.0
	50歳代	66	22.7	24.2	12.1	10.6	12.1
	60歳代	71	28.2	26.8	15.5	9.9	8.5
	70歳代以上	116	34.5	17.2	18.1	7.8	9.5

③参加したい分野

問 19　あなたが市民活動を行うと仮定した場合、どのような分野の活動に参加したいと思いますか。（○はいくつでも）

市民活動を行うと仮定した場合に参加した活動分野については、「文化、学習、芸術等の活動」（24.3%）が最も高く、次いで「地域の清掃や美化の活動」（22.3%）、「防犯・防災・交通安全活動」（21.7%）となっている（図１-32）。

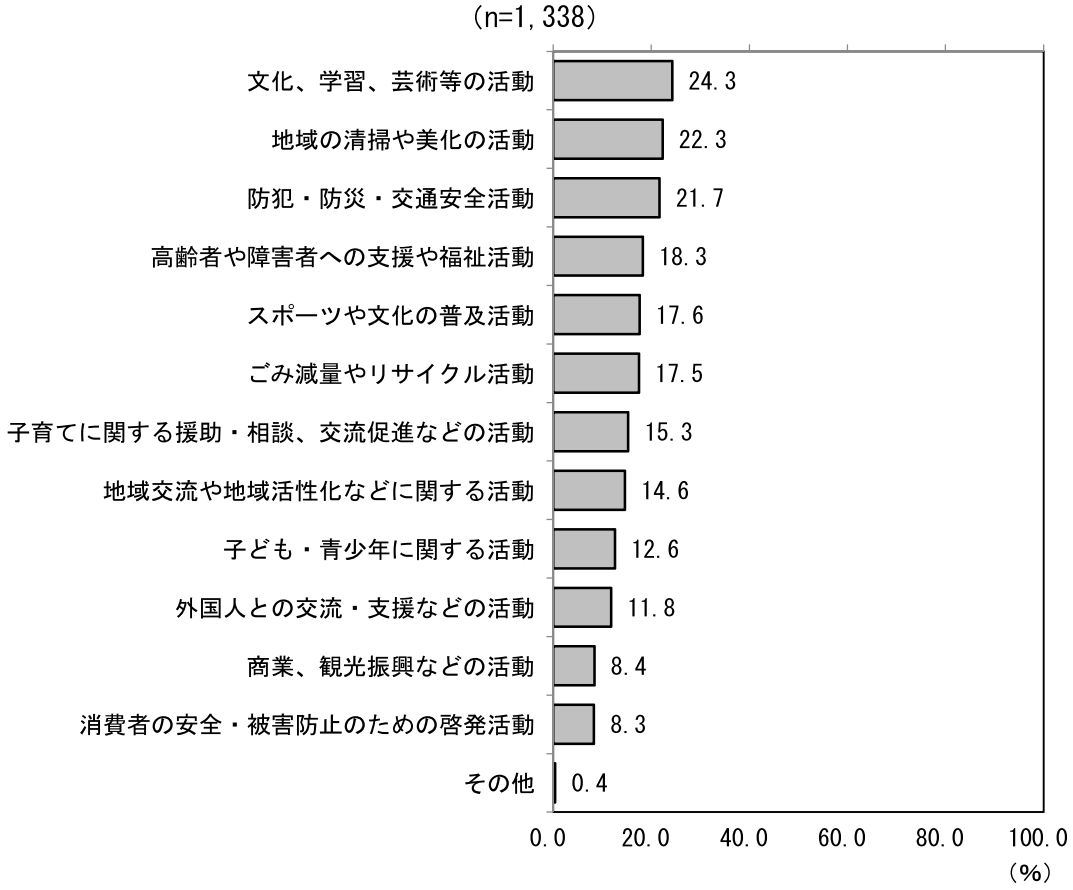


図１-32　参加したい分野

（５）市民活動の有効度

問 14　あなたは、市民活動が社会貢献につながっていると思いますか。（○は１つだけ）

市民活動が社会貢献につながっているかについては、「大いにそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定的評価」が 65.0％である一方、「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた「否定的評価」は 6.3％にとどまっている。

性別では、「女性」「男性」ともほぼ同様の結果である。

また、年代別では、全ての年代で「肯定的評価」が６割を超える（図１-33）。

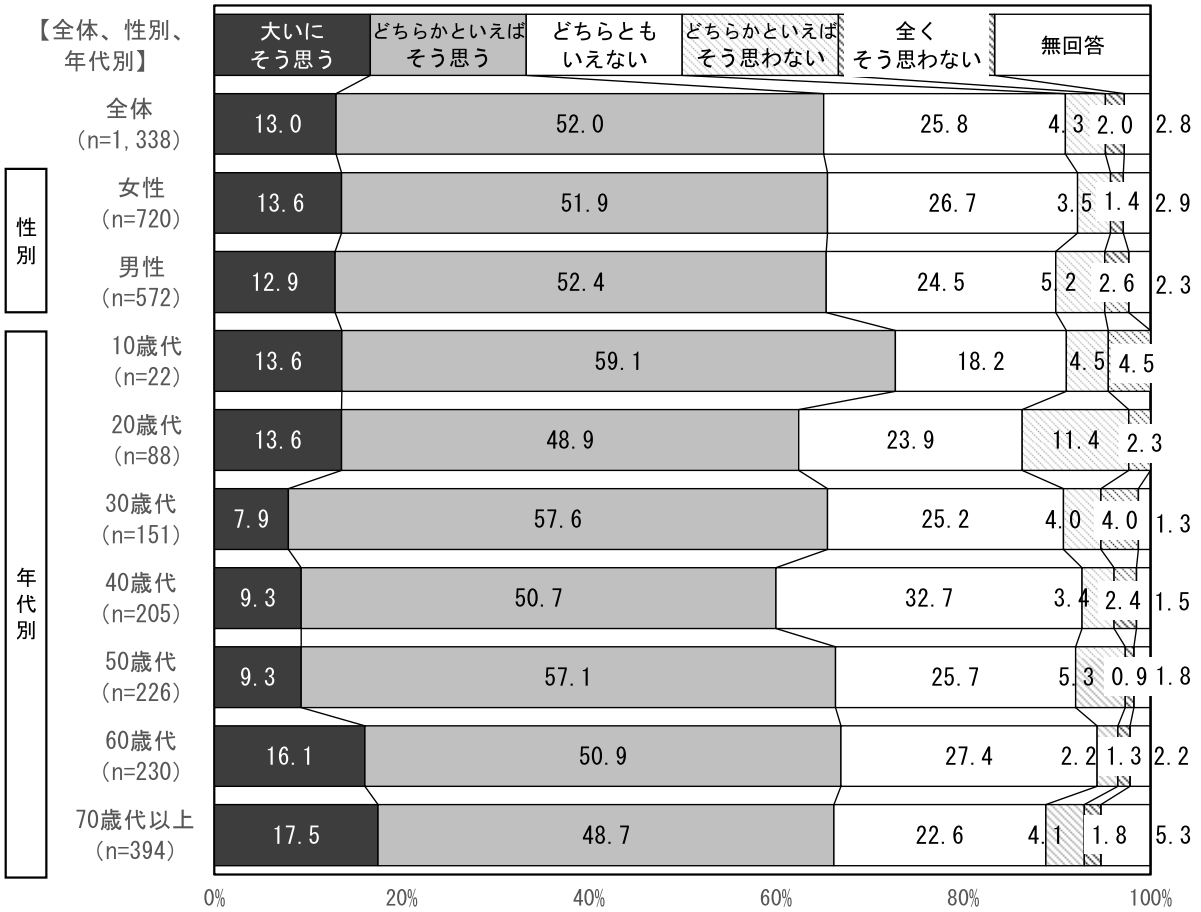


図１-33　市民活動の有効度（全体、性別、年代別）

４．協働のまちづくりへの意識

（１）協働のまちづくりの進捗評価

問 15　あなたは、松戸市において、市民、市民活動団体、民間事業者及び市の協力・連携が図られ、協働のまちづくりが進んでいると思いますか。（○は１つだけ）

問 15-１　あなたが松戸市において協働のまちづくりが進んでいないと思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

松戸市において協働のまちづくりが進んでいるかについては、「どちらともいえない」（49.5%）が最も高く、「大いにそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定的評価」が 20.0%、「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた「否定的評価」は 28.2%となっている。

進んでいない理由としては、「協働のまちづくりの事例がどのようなものか分からないから」（65.9%）が最も高く、「松戸市全体に協働のまちづくりの意識が浸透していないから」（49.7%）となっている（図１-34）。

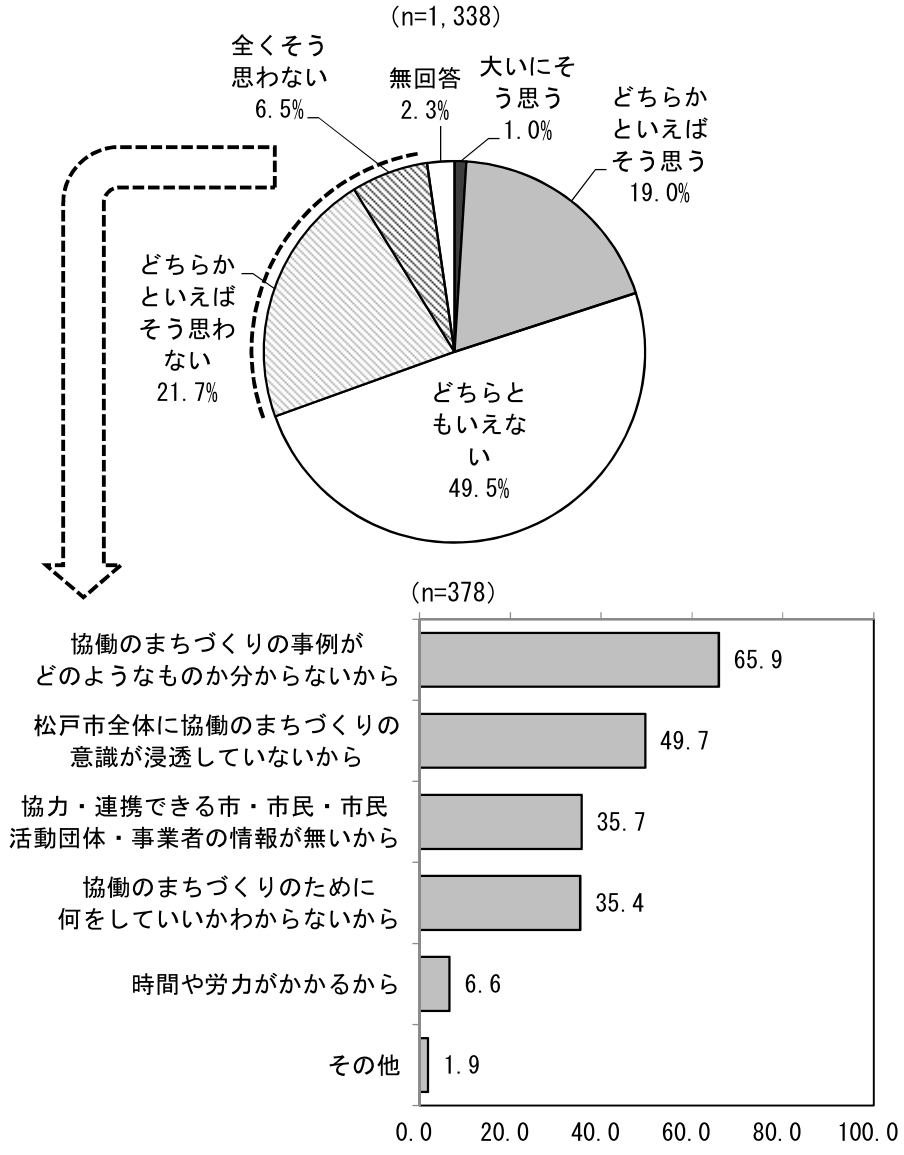


図１-34　松戸市の協働のまちづくりの進捗評価と進んでいない理由

（２）協働のまちづくりの関心度

問 16　あなたは、協働のまちづくりにどの程度関心がありますか。（○は１つだけ）

協働のまちづくりへの関心度については、「どちらともいえない」（38.6%）が最も高く、「大いに関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた「関心層」が 29.4%、「どちらかといえば関心がない」「全く関心がない」を合わせた「無関心層」は 29.6%となっている。

性別では、「女性」「男性」ともに「どちらともいえない」が最も高く、「男性」の「関心層」が若干高い。また、年代別では、「10 歳代」「40 歳代」「50 歳代」「60 歳代」「70 歳代以上」では「どちらともいえない」が最も高いが、「20 歳代」「30 歳代」では「無関心層」が約４割を占め最も高い（図１-35）。

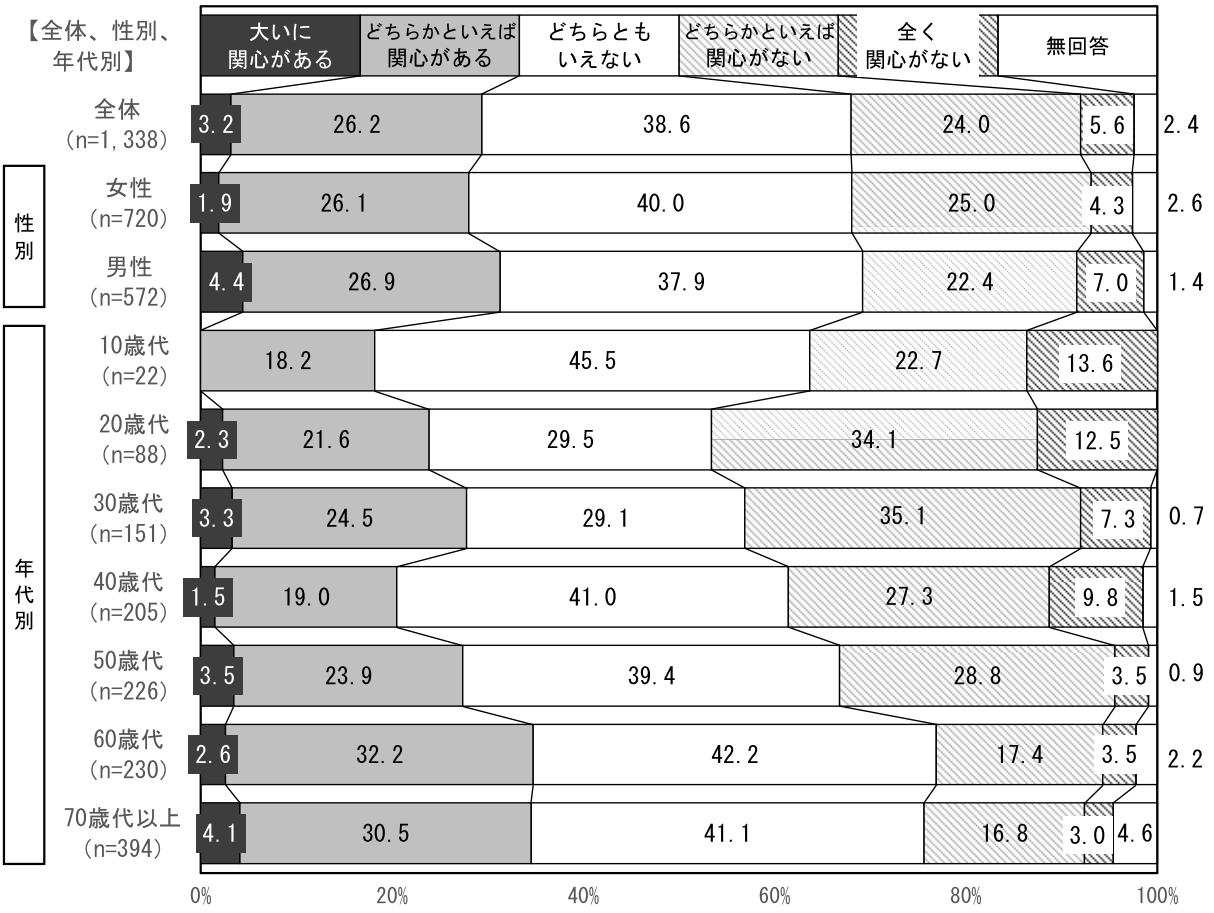


図１-35　協働のまちづくりの関心度（全体、性別、年代別）

地域への愛着別では、「肯定的評価層」では「関心層」が最も高いが、「否定的評価層」では「無関心層」が最も高い。

市民活動の参加状況別では、「現在、参加している層」では「関心層」が最も高いが、「以前は参加していたが、現在は参加していない」「これまで参加したことはない」では「中間層（どちらともいえない）」が最も高い（図１-36）。

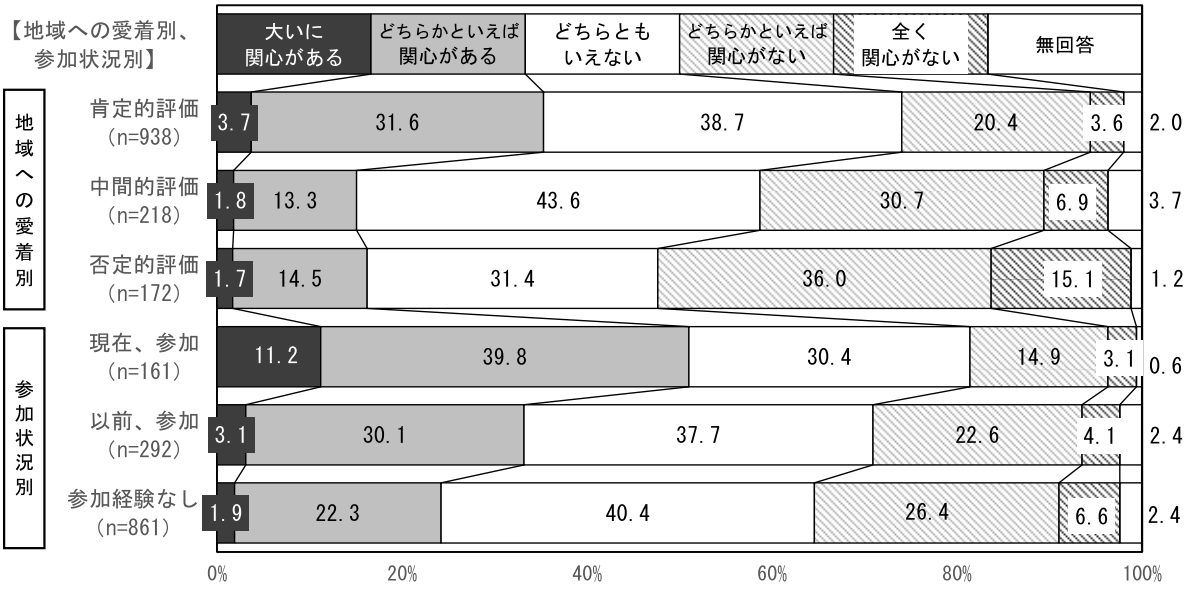


図１-36　協働のまちづくりの関心度（地域への愛着別、市民活動の参加状況別）

（３）協働のまちづくりの有効度

問 17　あなたは、本市が推進する「協働のまちづくり」が地域の課題解決につながっていくと思いますか。（１つに○）

市が推進する「協働のまちづくり」が地域の課題解決につがるかどうかについては、「大いにそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定的評価」が 47.4%、「どちらともいえない」が 40.4%、「否定的評価」が 10.0%となっている。

性別では、「女性」の方が「男性」よりも「肯定的評価」が高い。

年代別では、「20 歳代」「30 歳代」「50 歳代」「60 歳代」「70 歳代以上」では「肯定的評価」が最も高く、「10 歳代」「40 歳代」では「どちらともいえない」が最も高い（図１-37）。

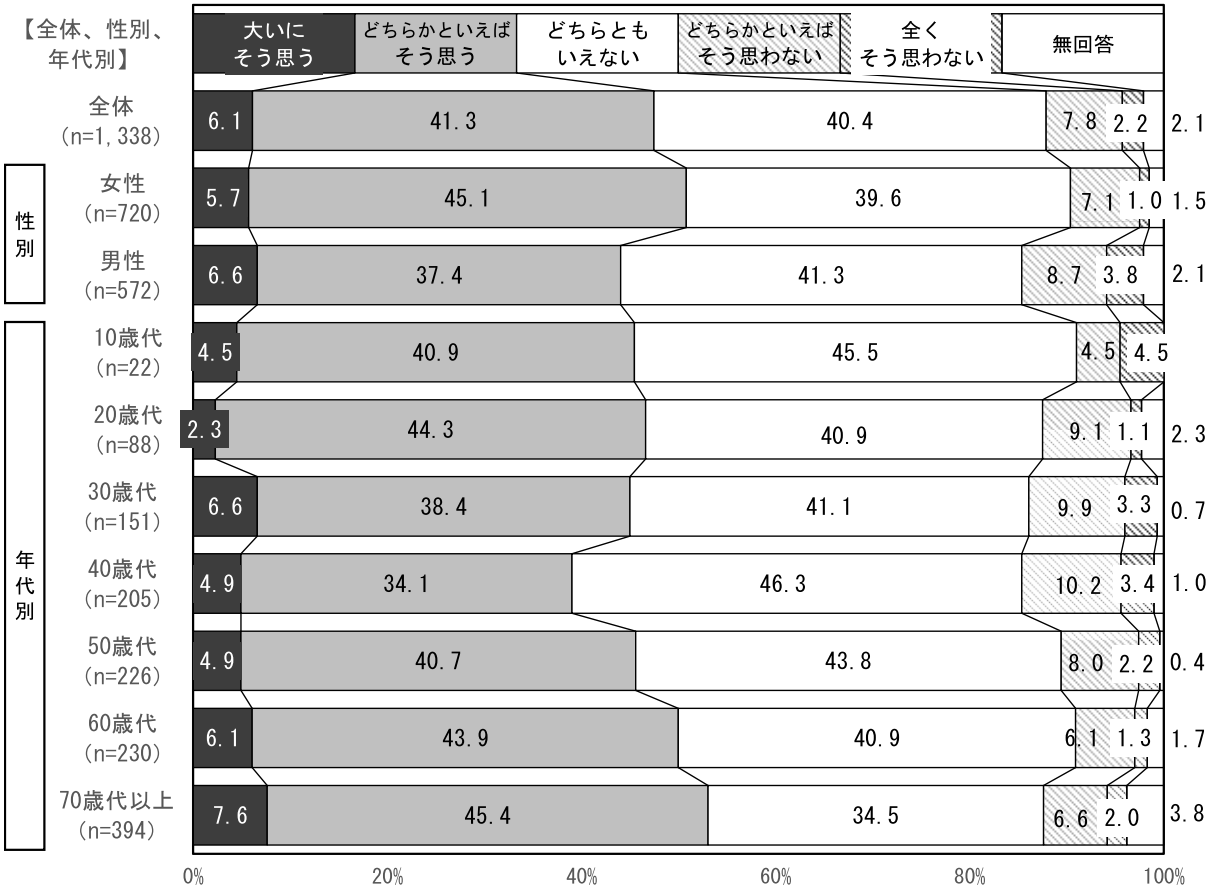


図１-37　協働まちづくりの有効度（全体、性別、年代別）

市民活動の有効度別では、市民活動が社会貢献につながっているかについて「大いにそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定的評価層」において、「協働のまちづくり」が地域の課題解決につがるという「肯定的評価」が６割を占める。

また、協働のまちづくりへの関心度別では、「関心層」において「肯定的評価」が７割を超える（図１-38）。

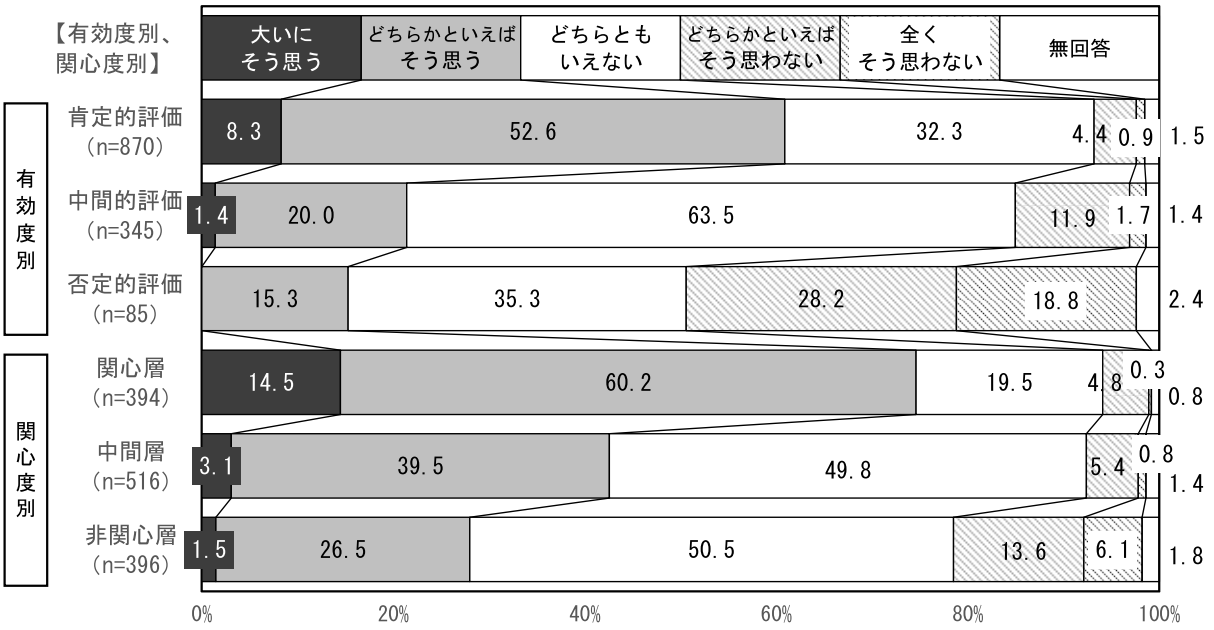


図１-38　協働まちづくりの有効度（市民活動の有効度別、協働のまちづくりへの関心度別）

（４）協働が必要な分野

問 19　どのような分野の活動で市民、市民活動団体、民間事業者、市の「協働（協力・連携）」が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

協働が必要な分野については、「高齢者や障害者への支援や福祉活動」（56.7%）が最も高く、次いで「防犯・防災・交通安全活動」（56.3%）、「子育てに関する援助・相談、交流促進などの活動」（48.7%）、「ごみ減量やリサイクル活動」（48.6%）、「地域の清掃や美化の活動」（44.5%）、「子ども・青少年に関する活動」（43.3%）、「消費者の安全・被害防止のための啓発活動」（42.2%）となっている（図１-39）。

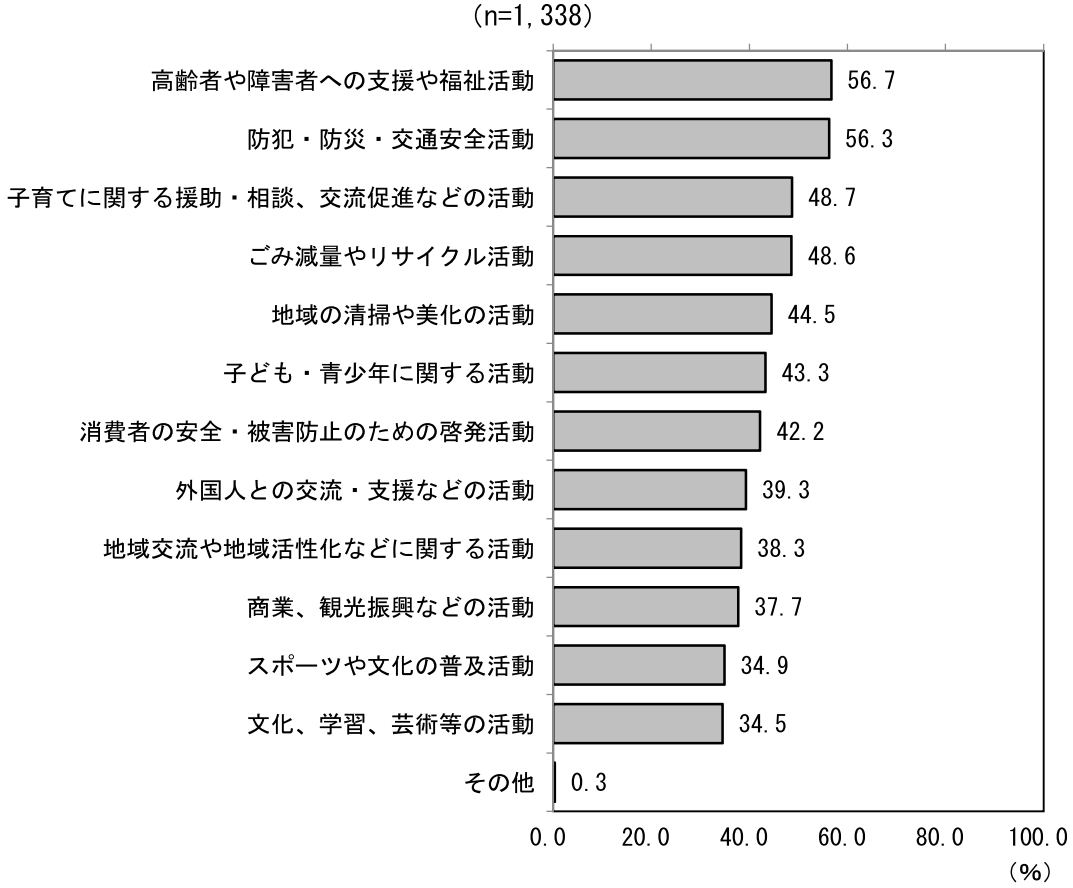


図１-39　協働が必要な分野

５．政策評価

（１）まつど市民活動サポートセンターの認知状況

①サポートセンターの認知状況

問 13　市民活動の支援、発展を目的とした「まつど市民活動サポートセンター」をご存知ですか。（○は１つだけ）

まつど市民活動サポートセンターの認知状況については、「知っており、既に利用している」が 3.0%、「知っているが、利用したことはない」が 13.3%であり、認知度は 16.3%にとどまる一方、「名前も存在も知らない」が８割を超えている。また、前回・前々回調査と比較すると、認知度は微減している。

性別では、「女性」の認知度が 18.6%、「男性」が 13.4%となっている（図１-40）。

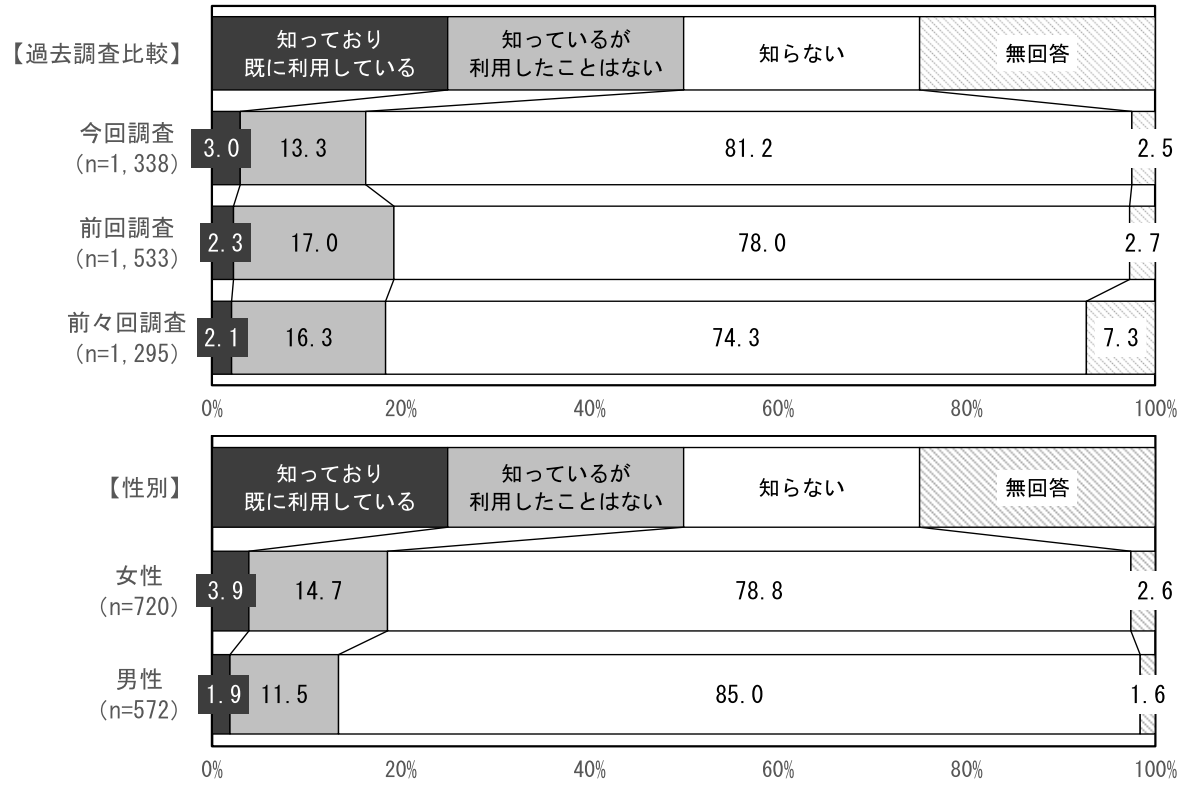


図１-40　まつど市民活動サポートセンターの認知状況（前回・前々回調査比較、性別）

年代別では、「70 歳代以上」においての認知度が２割を超え最も高い。

市民活動の参加状況別では、「現在、参加している層」であっても「知らない」が６割を超えている（図１-41）。

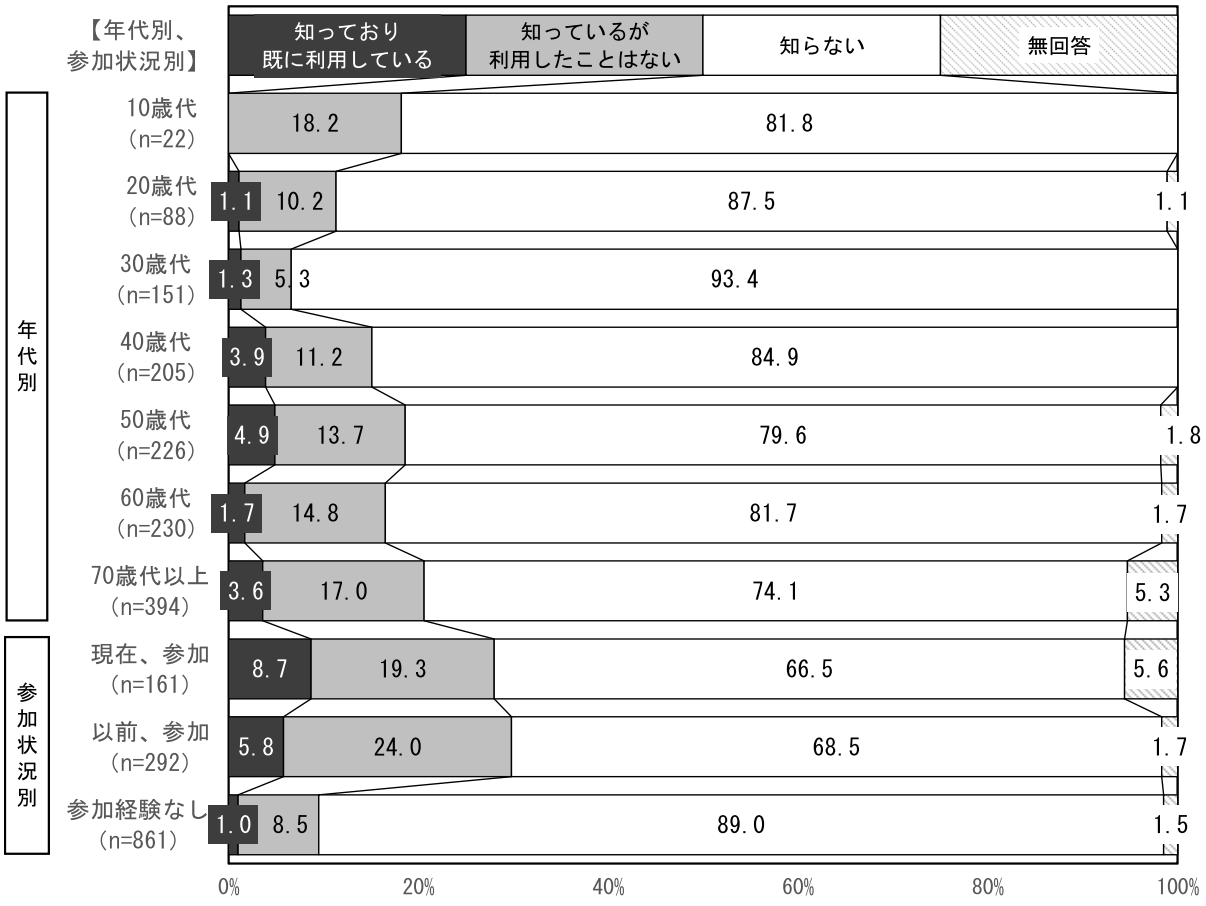


図１-41　まつど市民活動サポートセンターの認知状況（年代別、市民活動の参加状況別）

②サポートセンターの事業の認知状況

問 13-１　まつど市民活動サポートセンターの事業についてどの程度ご存知ですか。 （○は１つだけ）

まつど市民活動サポートセンターを「知っており、既に利用している」または「知っているが、利用したことはない」と回答した 218 人に同センターの事業について聞いたところ、「知っている」では、「イベントや講座が実施されていること」(72.5%) が最も高く、次いで「ホームページや情報紙での情報発信を行っていること」(53.7%)、「ボランティアや市民活動の相談を行っていること」(49.5%) となっている（図１-42)。

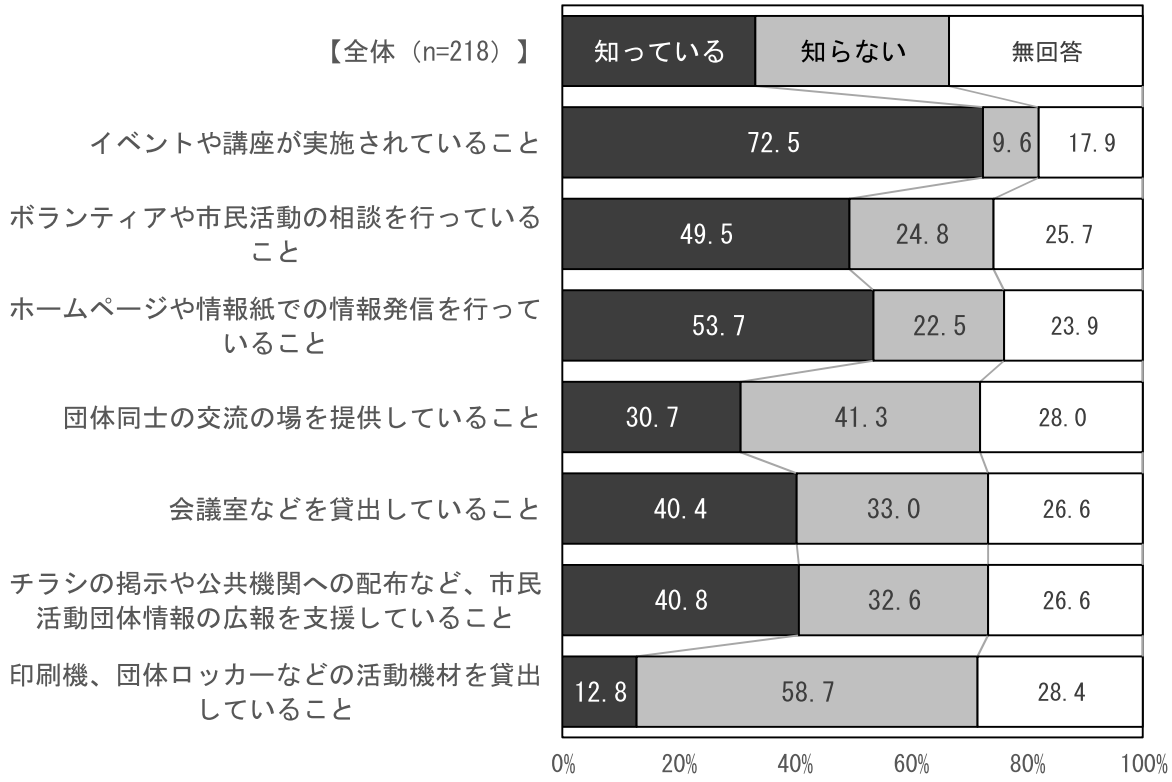


図１-42　まつど市民活動サポートセンターの認知状況

（２）協働のまちづくりへの賛成度

問 18　本市が「協働のまちづくり」を推進することについて、あなたはどのように思いますか。
（１つに○）

本市が「協働のまちづくり」を推進することについては、「大いに推進すべきである」「ある程度推進すべきである」を合わせた「肯定的評価」が約７割で最も高いが、前回・前々回調査と比較すると、減少傾向にある。一方、「どちらともいえない」が 26.7%であり、前回調査よりも約 13 ポイント上昇している。

性別では、「女性」の「肯定的評価」が「男性」よりも若干高い（図１-43）。

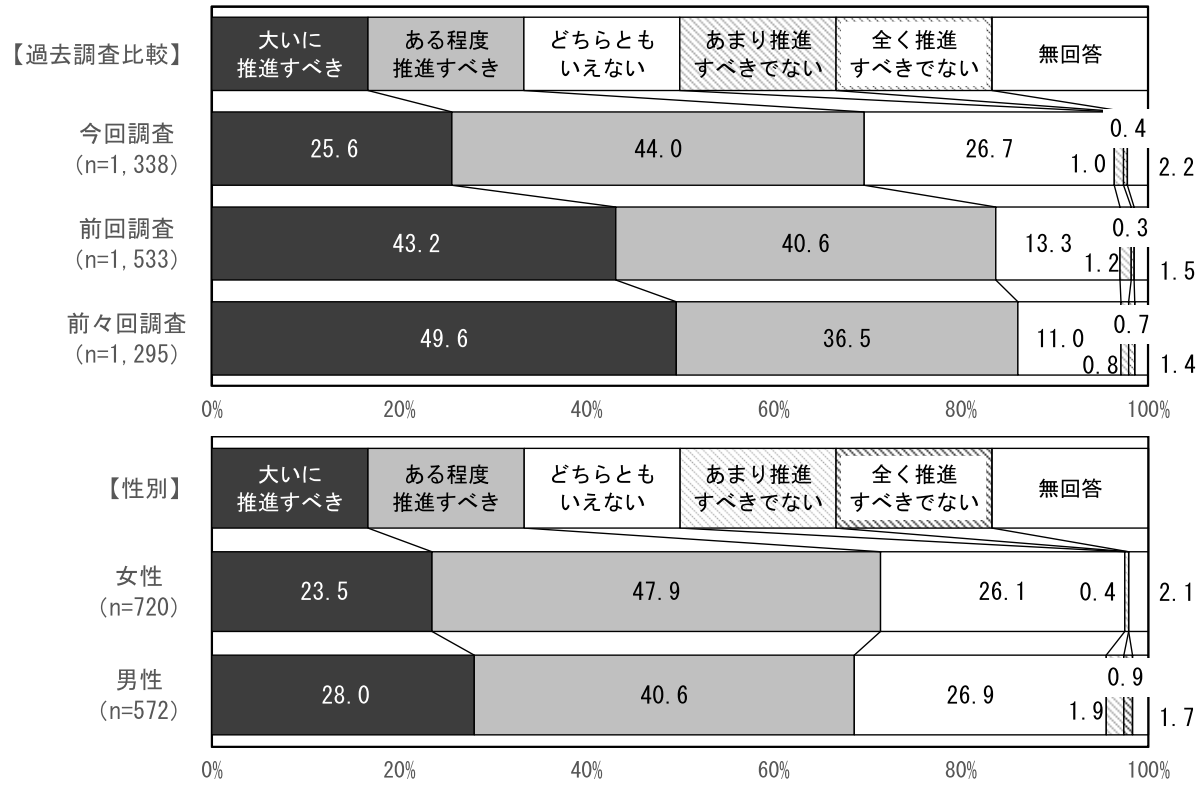


図１-43　協働のまちづくりへの賛成度（前回・前々回調査比較、性別）

年代別では、「20 歳代」「50 歳代」「70 歳代以上」において「肯定的評価」が７割を超える。

市民活動の有効度別では、市民活動が社会貢献につながっているかについて「大いにそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定的評価層」において、「協働のまちづくり」を推進することに賛成な「肯定的評価」が８割を占める。

協働のまちづくりへの関心度別では、「関心層」において「肯定的評価」が９割を超える（図１-44）。

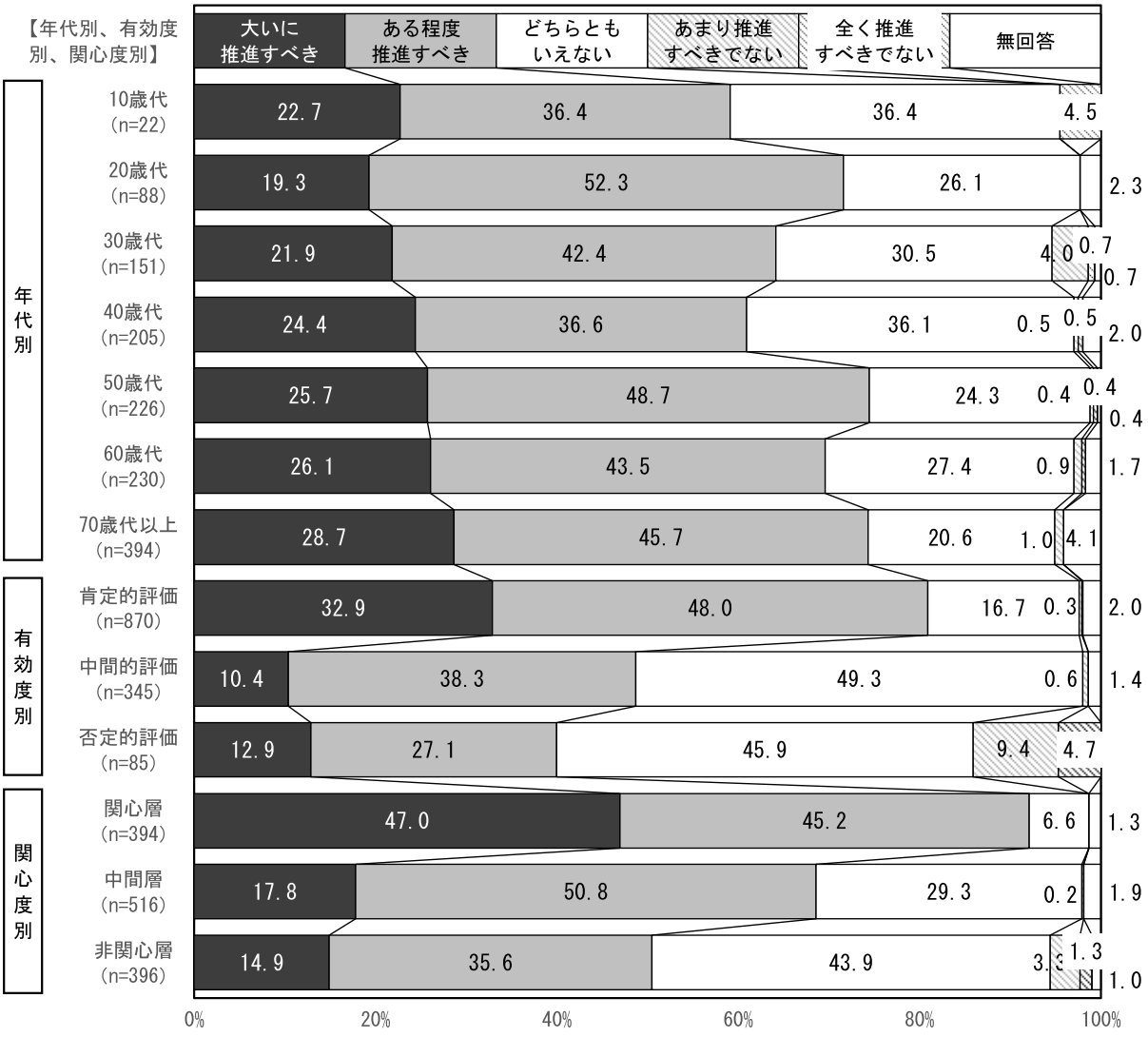


図１-44　協働のまちづくりへの賛成度

（年代別、市民活動の有効度別、協働のまちづくりへの関心度別）

（３）施策の認知状況

問 20　あなたは、市が取り組む施策について知っていますか。（○は１つだけ）

市が取り組む施策の認知状況については、「協働のまちづくり条例」「市民活動助成制度」「協働推進計画」「協働のまちづくり基金」「協働事業提案制度」の全ての施策において、「知らない」が約８割を占め、「知っている」が１割未満となっている（図１-45）。

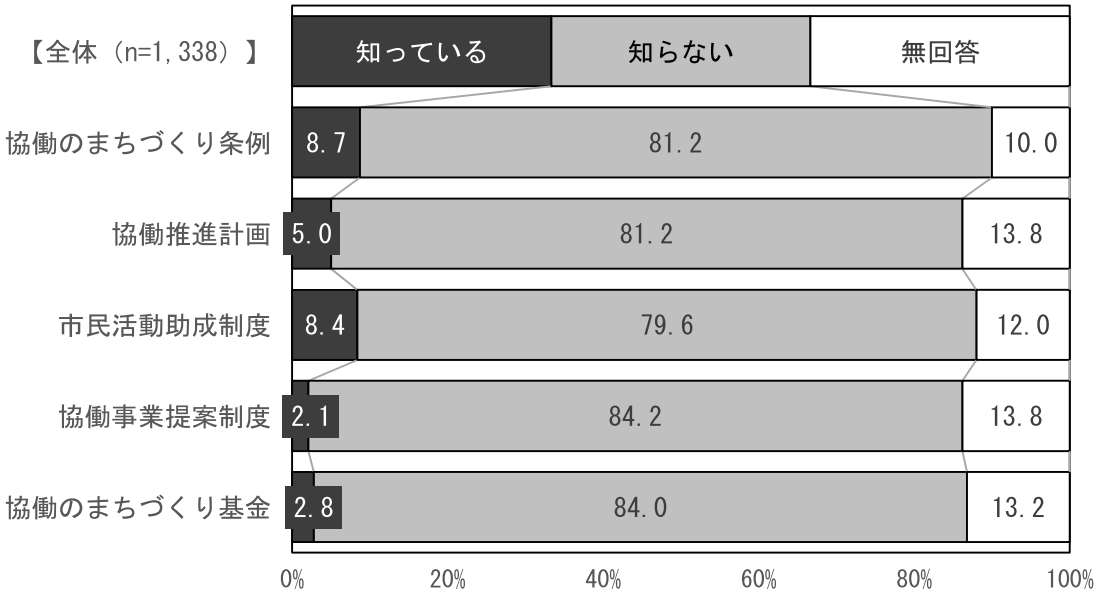


図１-45　施策の認知状況

（４）施策へのニーズ

問 21　あなたは、「協働のまちづくり」を推進するために市が行うものとして、どのような取り組みが有効だと思いますか。（○はいくつでも）

「協働のまちづくり」を推進するために市が行う有効な取り組みについては、「広報まつどやホームページ等でボランティア情報や協働に関する情報の発信」（51.5%）が最も高く、次いで「市の現状や課題などの情報の積極的な公開」（41.6%）、「協働に関する市民向けイベント、シンポジウム等の実施」（28.2%）、「協働のまちづくりの市内の好事例集の配布や公開」（27.3%）となっている（図１-46）。

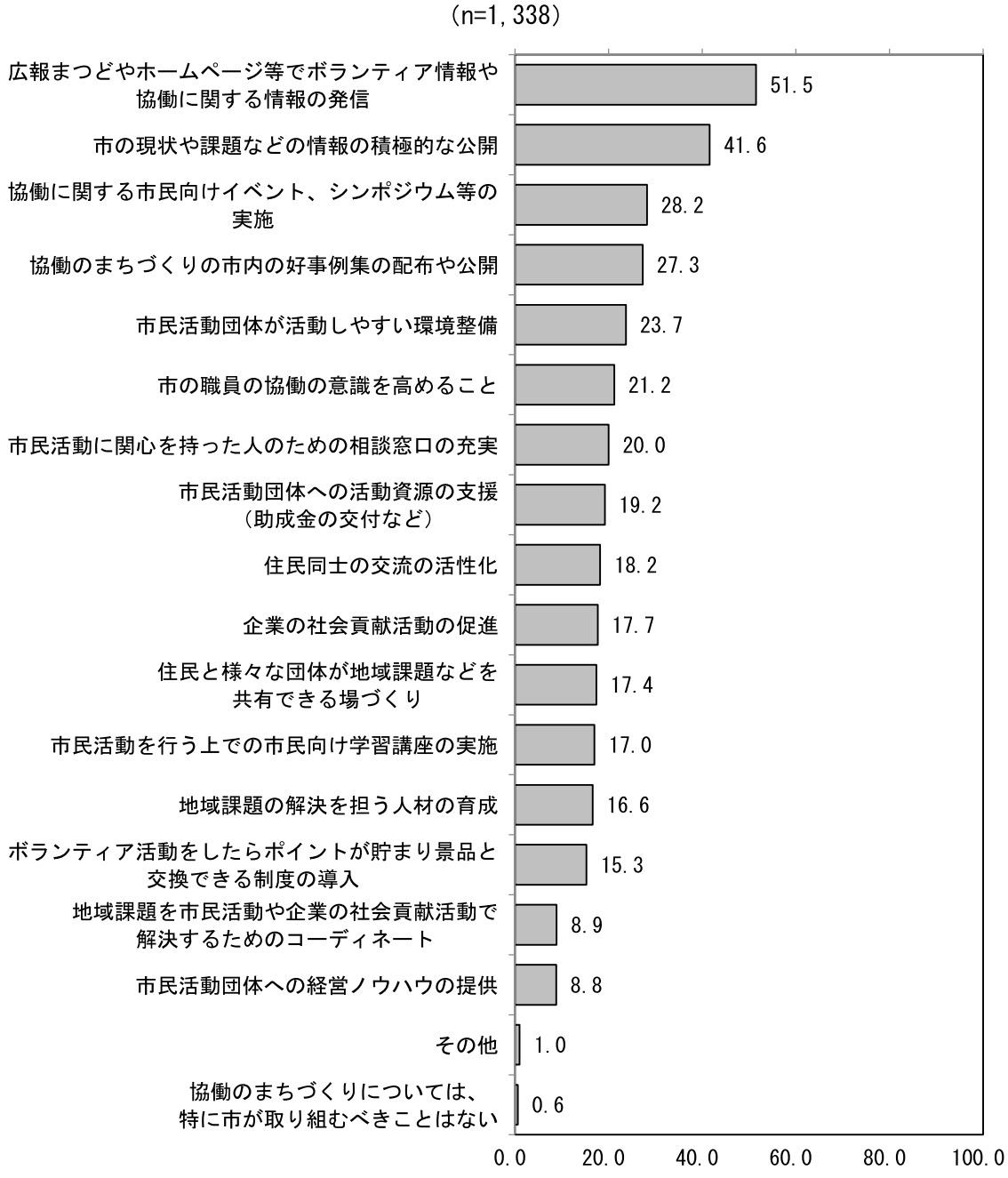


図１-46　施策へのニーズ

性別では、「女性」「男性」ともに「広報まつどやホームページ等でボランティア情報や協働に関する情報の発信」が最も高い。

年代別では、「10 歳代」において「住民同士の交流の活性化」、「20 歳代」において「広報まつどやホームページ等でボランティア情報や協働に関する情報の発信」と「市の現状や課題などの情報の積極的な公開」、「30 歳代」「40 歳代」「50 歳代」「60 歳代」「70 歳代以上」において「広報まつどやホームページ等でボランティア情報や協働に関する情報の発信」が最も高い（表１－６）。

表１－６　施策へのニーズ（性別、年代別：上位 10 項目）

		n	広報まつどやホームページ等でボランティア情報や協働に関する情報の発信	市の現状や課題などの情報の積極的な公開	協働に関する市民向けイベント、シンポジウム等の実施	協働のまちづくりの市内の好事例集の配布や公開	市民活動団体が活動しやすい環境整備
性別	女性	720	55.1	38.5	28.3	25.7	25.3
	男性	572	47.9	46.0	28.1	29.5	21.5
年代別	10歳代	22	27.3	27.3	22.7	18.2	13.6
	20歳代	88	48.9	48.9	31.8	29.5	26.1
	30歳代	151	46.4	37.1	28.5	22.5	20.5
	40歳代	205	50.7	43.4	31.2	25.9	19.0
	50歳代	226	53.5	47.8	28.3	29.6	28.8
	60歳代	230	61.7	48.7	31.3	31.3	26.5
	70歳代以上	394	48.7	34.5	23.9	25.9	22.3

		n	市の職員の協働の意識を高めること	市民活動に関心を持った人のための相談窓口の充実	市民活動団体への活動資源の支援（助成金の交付など）	住民同士の交流の活性化	企業の社会貢献活動の促進
性別	女性	720	20.1	19.0	17.9	17.1	16.3
	男性	572	22.9	20.6	21.0	19.9	20.3
年代別	10歳代	22	13.6	22.7	22.7	31.8	18.2
	20歳代	88	21.6	18.2	21.6	17.0	26.1
	30歳代	151	13.9	26.5	19.2	17.9	21.9
	40歳代	205	20.0	18.5	19.0	15.6	16.6
	50歳代	226	21.7	21.7	25.2	17.7	23.5
	60歳代	230	22.2	19.6	20.0	13.5	16.1
	70歳代以上	394	23.9	17.5	14.7	22.1	13.5

６．市民活動の活性化、市民と行政の協働の推進、施策への提案や意見（自由回答）

市民活動の活性化や市民と行政の協働の推進、施策への提案や意見等について自由に記入してもらったところ、292 人からの意見が寄せられた。それらの意見を分類し、主な意見を掲載した。なお、複数の意見が記入されているため、意見数の合計は 292 を超えている。

■地域活動、市民活動、協働のまちづくりについて（98 件）

女性	20 歳代	協働のまちづくりの取り組みについて、あまり聞いたことがなかった。
女性	20 歳代	中高生までのボランティアなどの窓口は広く宣伝されているものの、それ以上（大学生や社会人）が参加するための広報が少なかったり、時間があまりない人でも少しでも参加できるようなもの、紹介があったら良い。
女性	30 歳代	仕事上で、地域づくり、まちづくりに携ることがよくある。ただ自分のプライベートで、地域のために何かするという時間や機会を作れない。若いうちからいかにそのような意識を持つか（持たせるか）が大切。いろいろな機関・団体がいろいろな活動をしている。時には、それぞれをつなぐコーディネートが必要だと思う。
女性	30 歳代	まずは地域の人同士が仲良くなり、交流することで市全体への協力や興味が生まれてくると思う。今はほとんどの人が自分や家族との生活で精一杯で、地域や他の住民まで心を配ることができない状況にある。松戸市で暮らして良かったと感じられるようなつながりや活動に出会えれば毎日が充実してくる。
女性	40 歳代	一部の人だけの協力しかない。意見交換ができていない。活動している町会、していない町会がある。情報が伝わっていない、伝わりにくい。一部だけでしか動いてない。安心できない。
女性	40 歳代	市民と行政が協働で取り組むということで、障がいのある児童や生徒の個性をもっと伸ばしてあげる場というものが何かできないか。
女性	50 歳代	学校での PTA 役員等の参加も無意味と言われている時代で、協働のまちづくりが実現されたら素晴らしい事だと思う。人との関わりが難しくなっている中で、松戸市と市民が手を取り合う事が出来ると良い。
女性	50 歳代	協働という言葉が何をするのかイメージしにくい。子供でも分かるような表現でサブタイトルをつけるとか、コンセプトがパッとわかるようにしてほしいし、何よりこの施策を知らなかった。
女性	50 歳代	協働のまちづくり条例についてほとんど知らずに過ごしていたが、これからは地域のつながりのようなものが大事になってくると思う。
女性	50 歳代	協働のまちづくりのためには、世代・性別・立場を超えた協力関係が成り立たないと困難だと思う。一部だけが盛り上がり満足するのではなく、市民全体がまちを愛し、人を大切に思えるような気持ちが持てるよう、繰り返し情報を発信してもらいたい。
女性	50 歳代	サポートセンターの場所を増やして欲しい。新京成線沿いや JR 線近くに何か所かあると利用しやすいと思う。
女性	50 歳代	地域のコーディネーターが多種の業務を担っており、1つのことに専念できない傾向にある。同一人物が何役もやると、広がりに欠ける。形だけの配置やイベントになりかねない。
女性	50 歳代	有志で行う活動について、以前市民センターの掲示をしてもらえない事があった。営利目的の活動を排除したい意図は理解するが、住民同士の交流及び自由な活動を市が後押しする姿勢が望ましいと思う。市民活動団体としての要件についても、気軽に地域で何かをやりたいと思う人にとってはハードルが高いと思う。
女性	60 歳代	協働のまちづくりをもっと前に出してアピールして欲しい。広報等でもっと目立つように載せる。市民の意識を高める。
女性	60 歳代	市民活動に参加したい気持ちはあるが、活動に関する情報が得られない。興味の沸くような市民活動を発信して欲しい。
男性	20 歳代	協働のまちづくりを応援したい。
男性	30 歳代	協働のまちづくりのことを初めて知った。地域の人とコミュニケーションを取りながら助け合うことが、生きる上で必要だと思う。

男性	30 歳代	行政と市民が一体になることにより、市民の士気が上がり自ら松戸市（自分の住んでいる地区）がどうすれば住みやすい街になるのか考えるきっかけになるものと考える
男性	40 歳代	市民が積極的に社会問題解決に参画することは重要であり、行政のサポートなしにはなし得ないので、是非頑張って良い松戸市に育てていただきたい。ただし、特定の考え（思想）や利益を求めて行政の仕組みを悪用されることのないよう、制度設計には十分配慮していただければと思う。
男性	40 歳代	市民活動サポートセンターは知っているが、どんな活動をしているのか、参加の仕方や申込方法がわかりづらいので、もっとわかりやすくHP 等で表示して欲しい。
男性	40 歳代	働く世代にとっては、市民活動を身近に感じるのは難しい。比較的に時間にゆとりがある高齢者や専業主婦が大部分を占めると思う。似たような団体には同じ人たちで構成されているので、新たに入るにしても入りづらいのでは

■生活環境の整備について （50 件）

女性	40 歳代	ゴミの分別について、もう少し負担を軽くして頂きたい。細々としていて、難しい。また、可燃のゴミ袋が、ビニールが弱すぎてすぐ伸びる。使い勝手が悪い。他の市ではもっと使いやすいものを利用している。他と比べてもう少し工夫して頂きたい。１枚１枚取り出すのも使いづらく、利用する人の立場になって考えて頂きたい。
女性	40 歳代	自転車の乗り方が危険な人が多過ぎる。左側通行の徹底を広報に載せるとか、学校や幼稚園で指導するなどして欲しい。
女性	50 歳代	松戸市駅及び周辺の活用と美化（JR と協力して東西連絡通路など）
女性	70 歳代以上	病気をして身体が不自由になった。大きな道路ができて便利そうにみえるが、今まであった信号がなくなり、反対側の知り合いのところに行くのに遠回りしなければならず、足の悪い私には不便。商店もなくなり、買物にも困っている。
男性	50 歳代	車椅子になって3年経過し、松戸市内が段差だらけで買物も飲食もままならなず、どこがやさシティまつどなのかと思う。
男性	50 歳代	松戸駅周辺の再開発を積極的にやって欲しい。

■情報提供、広報活動について （44 件）

女性	30 歳代	学習支援、お楽しみイベントなど、企画を募集する広告を Web 上、SNS 上にアップしていただきたい。
女性	30 歳代	協働というキーワードがあることを知らなかった。せっかく SNS を稼働させているのだから、もう少しアピールしても良いのではと思う。
女性	30 歳代	新聞や広報を読まないので、情報発信はインターネットでしてくれないと、わからない。伝わらない。ホームページよりも SNS（twitter、インスタグラム等）にもっと力を入れて欲しい。年寄り向けの発信の仕方だけだと、若い世代には情報が入らない。
女性	50 歳代	新聞をとっている若年層が減っている中で、広報まつどの配布方法を再考して欲しい。ネット社会からも取り残されている人もまだ少数ではあるがいると思う。
女性	60 歳代	広報は新聞の折り込みで手に入れるので定期購読していなければ読む機会がない。情報は自ら取りにいかないと世の中から取り残されるとつくづく感じた。
男性	20 歳代	もっと多くの人にそう思ってもらうためには、市がどんな活動をしているのか、もっと市民の目に見える形で表されることが大切かと思う。
男性	30 歳代	もっと時間を市のために使っても良いと思う人はいると思う。しかし、それは各々の世代に向けてアプローチしないといけない。例えば、子育て世代なら「ふれあい 22」で呼びかけをしたり、学生では学校の自由授業のなかで市の活動はこんなことをしていると分けて明確に説明しないと意味がないとは言わないけど、効率的ではないと思う。あきらめず、根気強くアプローチすることを期待している。
男性	40 歳代	市外の参考、見本となる事例を市民に知らせることも有効だと思う。興味・関心のない市民を引き込んでいくことで、活力が大きくなっていくと思う。

男性	40 歳代	地域で何か一緒に出来るイベントをコーディネートしてもらえると良い。
男性	50 歳代	協働のまちづくりのための具体的な問題点や課題について広く知らしめる事をして欲しい。また、市民の声を拾い上げて、たくさんの方の知恵と経験を活かして解決していき、住んで良かった街と思われるような市にして欲しい。

■市政全般について（42 件）

女性	40 歳代	生活をしながら、少しずつ思い出が増え、松戸への愛着も高まってきた。市民一人ひとりが、安心して笑顔で、長く暮らせるまちづくりをしていけたら幸い。良き文化は大切にしつつ、進化が必要。
女性	40 歳代	将来的に障がいがある人もない人も活躍できることが松戸をより良くしていくことにつながると思う。
女性	40 歳代	市立病院の跡地を早く活用して欲しい。治安上もとても不安に感じている。各駅に図書館の返却ポストの設置を希望する。図書館の駐車場が不足している。
女性	50 歳代	松戸市が住民に優しく住みたいまちになるよう、心から希望する。
男性	30 歳代	長期引きこもりへの支援や福祉を充実して欲しい。
男性	40 歳代	全てのものが暮らしやすい住みやすいまちづくり、そのようなまちになるように市が率先して行動くださると助かる。すぐやる課、保育士の給料アップのように、全国の市区町村のお手本となるような市、常に襟元を正して行動できる市であることを望む。
男性	60 歳代	各年代に応じたスポーツイベントをもっと盛んにすべき。堅苦しい協働のまちづくりといっても言葉遊びにすぎない。スポーツまたは遊びを通じてまちづくりをしてほしい。感覚、イメージとしては柏市の方が進んでいるのでは。
男性	70 歳代以上	松戸市が住みやすく、ますます発展してく都市になることを期待している。

■アンケートについて（19 件）

女性	20 歳代	アンケートを通して初めて「協働のまちづくり」を松戸市が取り組んでいる事を知った
女性	30 歳代	住んで 3 年になるが、自分が何も知らないと気付くきっかけになり、興味が少し沸いた。
女性	40 歳代	ネットでアンケートを出来ると良い。記入、投函の手間がなくなる。
女性	60 歳代	アンケートを記入するにあたり、「協働のまちづくり条例」等、ホームページをみたり、知ることが出来て良かった。
男性	30 歳代	アンケートで初めて協働のまちづくりについて知った。知らない方も多数いる（私含めて）と思うので、今後の普及活動に期待している。
男性	50 歳代	協働のまちづくりの取り組み内容と、目指す方向性がわからないため、アンケート自体回答しづらかった。

■子育て、若者支援について（14 件）

女性	10 歳代	高齢者の増加に合わせて、高齢者向けの施設は増えているが、若者向けの施設も作ってほしい。無料の学習スペースなど。
女性	70 歳代以上	最近、子供の置かれている社会環境が悪い方へ向かっていると思う。子供食堂の広がりは良いサポートだと思う。松戸には児童相談所が無いと聞いたが本当なのだろうか。
男性	30 歳代	子育てをもう少ししやすいまちにして欲しい。保育園までは良いが、小学生になった後の病児や学級閉鎖時の子どもの預け先に困ることがある。子どもを預けないと働けず、会社で休み調整するのが困難な時がある。
男性	70 歳代以上	少子化対策として、若者を中心の考え方、安心できる社会になれば良いと思う。

■防犯・防災について（13 件）

女性	40 歳代	松戸市は治安が悪いとよく言われるので、夜のパトロールや犯罪になりそうな地域のピックアップなど、治安を良くして欲しい。
男性	50 歳代	松戸市役所が先導し、千葉県、警察、消防との連携強化
男性	70 歳代以上	江戸川の防災について力を入れて欲しい。

■市役所・職員について（11 件）

女性	40 歳代	市の職員が多過ぎるのでは。営業時間中に無駄話をしている職員が目立つ。
女性	70 歳代以上	市議会議員、職員の削減と給与の削減
男性	50 歳代	市の施設を利用した時に、市の職員の行動を目の当たりにして、意識の低さを痛感することがある。民間のレベルと比べると、相当低い。
男性	70 歳代以上	50 万市民のため大変な活動をされている職員の皆々様の日頃からの努力を感謝したい。

■高齢者福祉について（7 件）

女性	70 歳代以上	後期高齢者の人が多い駅の近くに図書館または人が集まれるコーナーがあると良い。
男性	70 歳代以上	介護保険が高すぎる。

■医療の充実について（4 件）

女性	40 歳代	市立病院の跡地を早く活用して欲しい。治安上もとても不安に感じている。

■その他について（49 件）

女性	60 歳代	今は自分が生きていく事で精一杯。今後余裕が出来たら何らかの形で関わっていけたらと思う。
女性	70 歳代以上	新松戸に住んで 44 年目で感じることは、とても住み良い環境と、自然災害がないのでホッとしている。
男性	30 歳代	松戸市はとても過ごしやすい環境だと思う。

Ⅱ．市民活動団体

１．回答団体プロフィール

（１）活動分野・最も力を入れている活動分野

活動分野については、前回３位の「保健、医療または福祉の増進を図る活動」が最も高く、次いで「学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動」、「子どもの健全育成を図る活動」となっている。

また、最も力を入れている活動分野については、前回調査・今回調査ともに、「保健、医療または福祉の増進を図る活動」が最も高く、次いで「学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動」、「子どもの健全育成を図る活動」となっている（図２－１）。

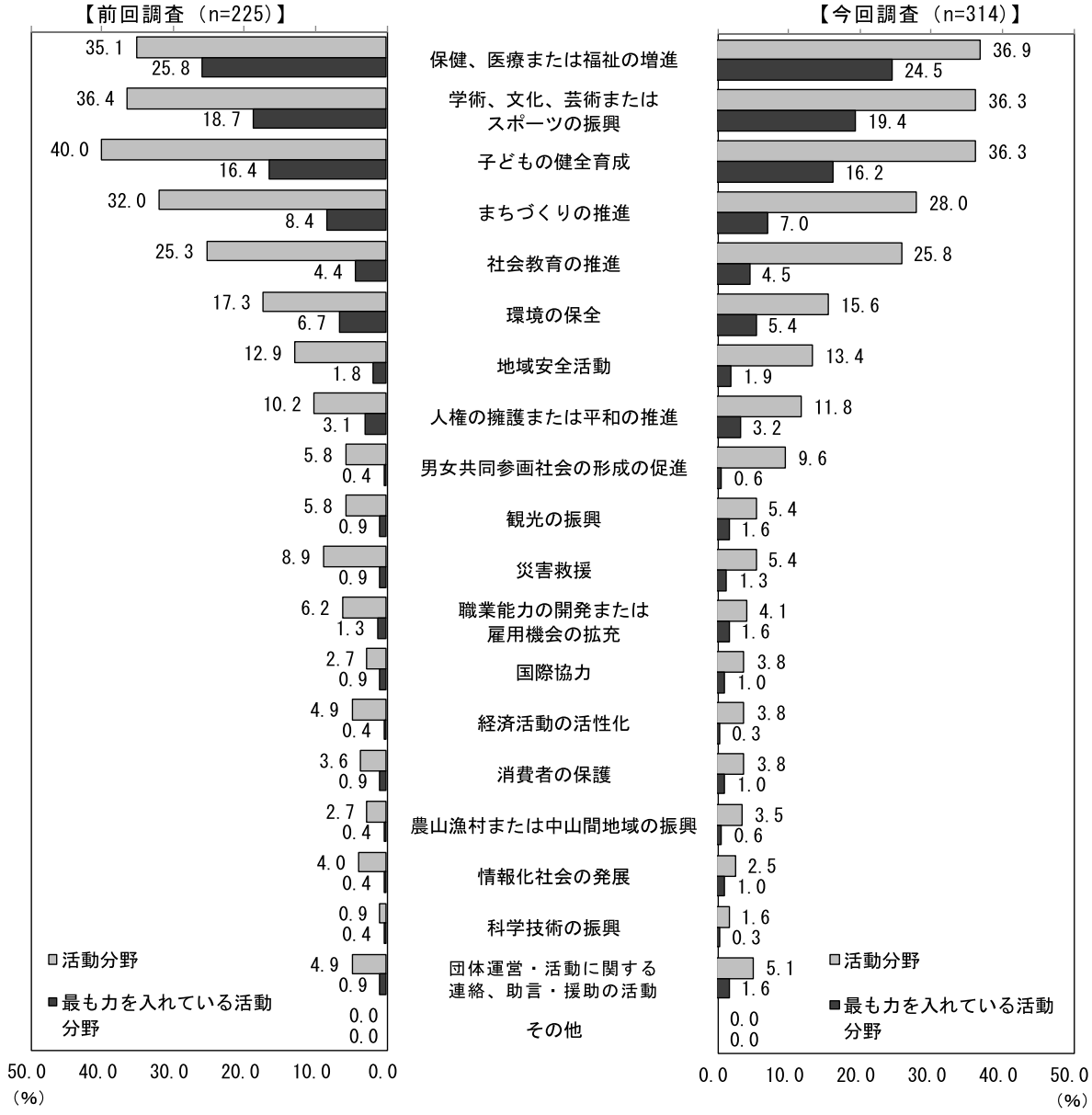


図２－１　活動分野・最も力を入れている活動分野（前回調査比較）

（２）団体属性、一番多い会員の年代

団体属性については、「法人格のない任意団体」が 58.4％で最も高く、次いで「特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）」が 25.8％となっている。

一番多い会員の年代については、「70 代」（29.6％）が最も高く、次いで「60 代」（29.0％）となっており、「60 代以上」が約６割を占める（図２－２）。

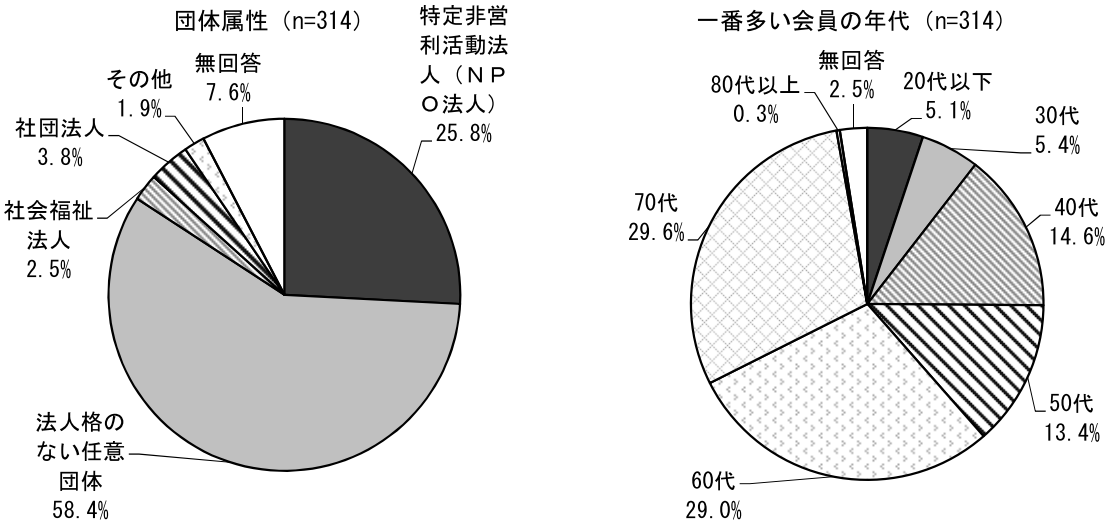


図２－２　【左】団体属性、【右】一番多い会員の年代

（３）個人会員数、有給職員数

個人会員数については、「49 人以下」が約７割を占める。

有給職員数については、「０人」（77.4％）が最も高く、「１人以上」は２割未満にとどまっている（図２－３）。

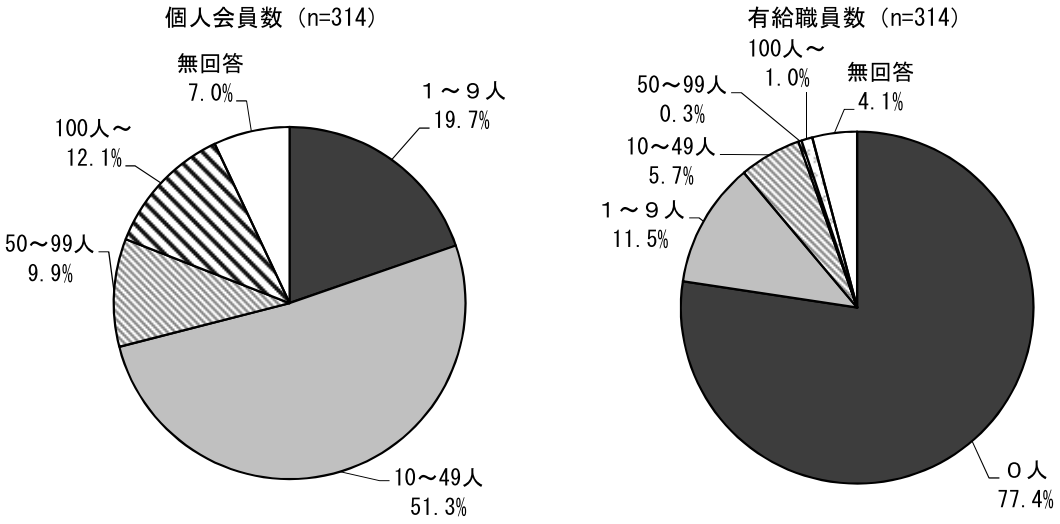


図２－３　【左】個人会員数、【右】有給職員数

（４）活動頻度、活動年数

活動頻度については、「週に１，２回程度」(27.1%)が最も高く、「週に３，４回程度」(10.5%)と「週に５回以上」（15.0%）を合わせて５割を超える。

活動年数については、「10 年以上」が約６割を占め最も高い（図２－４）。

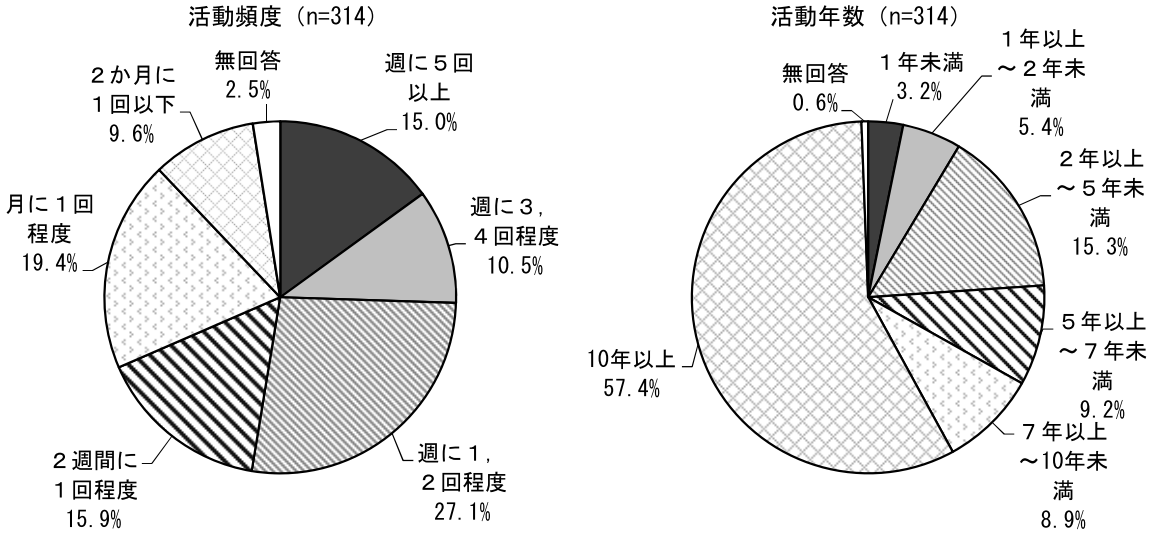


図２－４　【左】活動頻度、【右】活動年数

（５）日常的な活動場所

日常的な活動場所については、「団体の事務所（会員の自宅を含む）」(26.1%)が最も高く、次いで「松戸市内の市民センター」（13.7%）、「まつど市民活動サポートセンター」（9.9%）となっている（図２－５）。

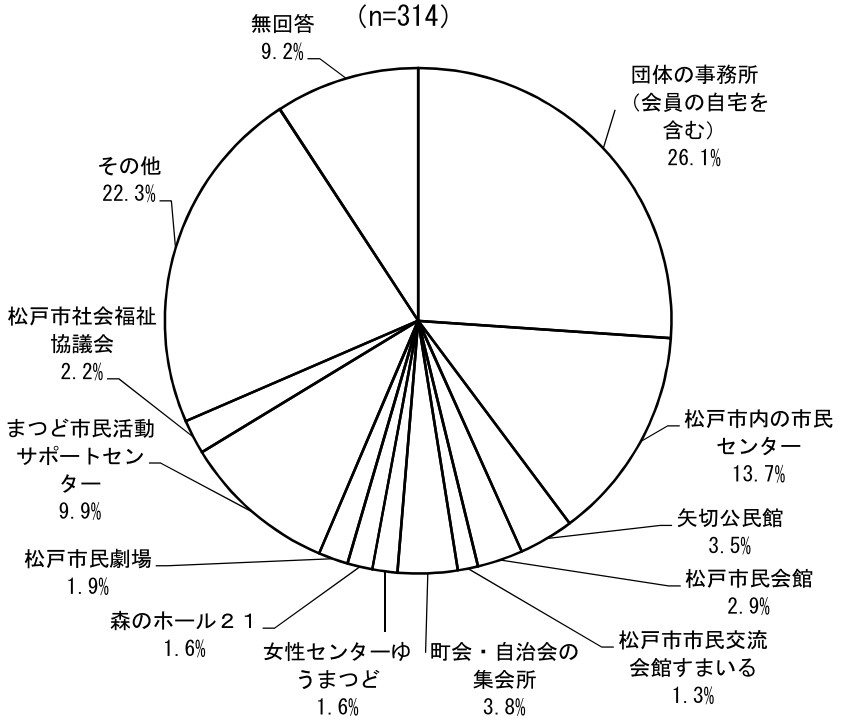


図２－５　日常的な活動場所

（６）主な活動エリア

主な活動エリアについては、「複数エリア」(23.2%)が最も高く、次いで「矢切地区」(12.1%)、「本庁地区」（10.5%）となっている。（図２－６）。

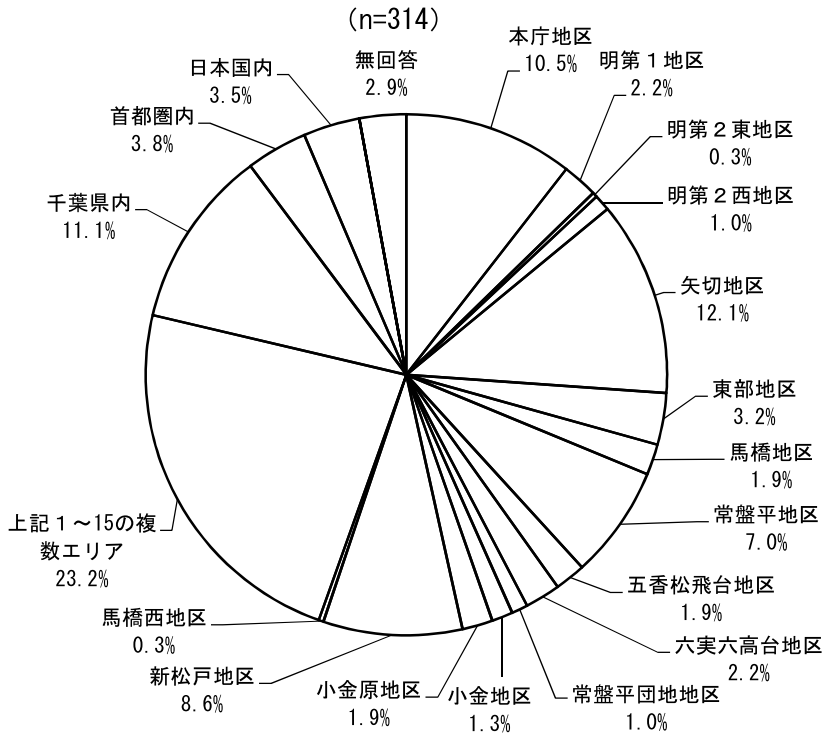


図２－６　主な活動エリア

２．活動運営状況

（１）最も大きな収入源

問１　貴団体の収入源のうち、最も大きなものは何ですか。（○は１つだけ）

最も大きな収入源については、「会員からの会費」（54.5%）が最も高く、次いで「自主事業による収入」（14.0%）、「行政からの助成や補助による収入」（12.7%）となっている。

また、行政・企業を問わず「助成や補助による収入」は 14.9%、行政・企業を問わず「委託事業による収入」は 5.7%となっている。

前回調査と比較すると、若干の増減と順位の入れ替えはあるものの、上位３項目は概ね同様の結果となっている（図２－７）。

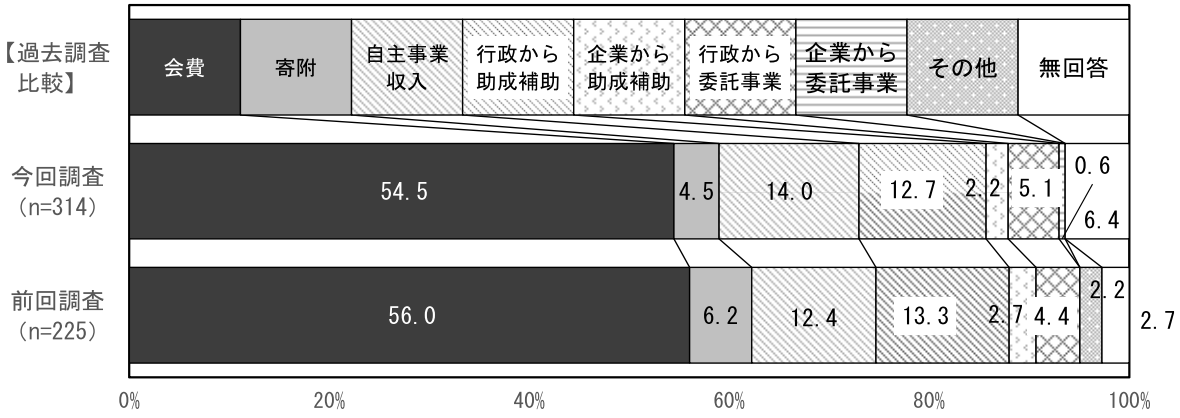


図２－７　最も大きな収入源（過去調査比較）

（２）直近の総支出額

Ｆ７　貴団体の、直近の事業年度の総支出額（財政規模）は、おおよそどのくらいでしたか。（○は１つだけ）

直近の事業年度の総支出額については、「10 万円未満」（31.8%）が最も高く、次いで「10 万円以上 50 万円未満」（30.3%）であり、「50 万円未満」が６割を超える。

前回調査と比較すると、「50 万円未満」が約８ポイント上昇している（図２－８）。

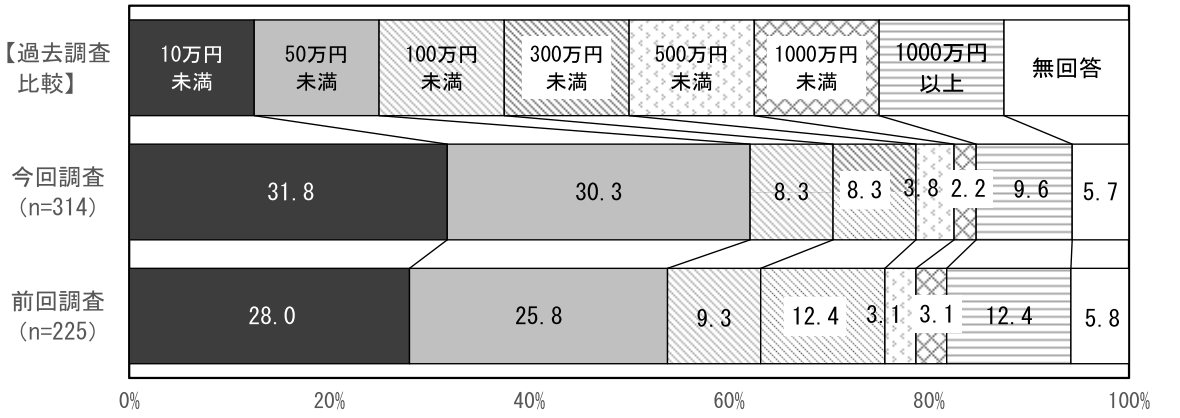


図２－８　直近の事業年度の総支出額（過去調査比較）

（３）活動方針のとおり活動できたかどうか

問２　貴団体の活動は、貴団体の活動方針のとおりに活動ができましたか。（○は１つだけ）

活動方針のとおり活動できたかどうかについては、「大いにできた」「どちらかといえばできた」を合わせた「肯定的評価」が 81.5%、「どちらかといえばできなかった」「全くできなかった」を合わせた「否定的評価」が 8.6%となっている（図２－９）。

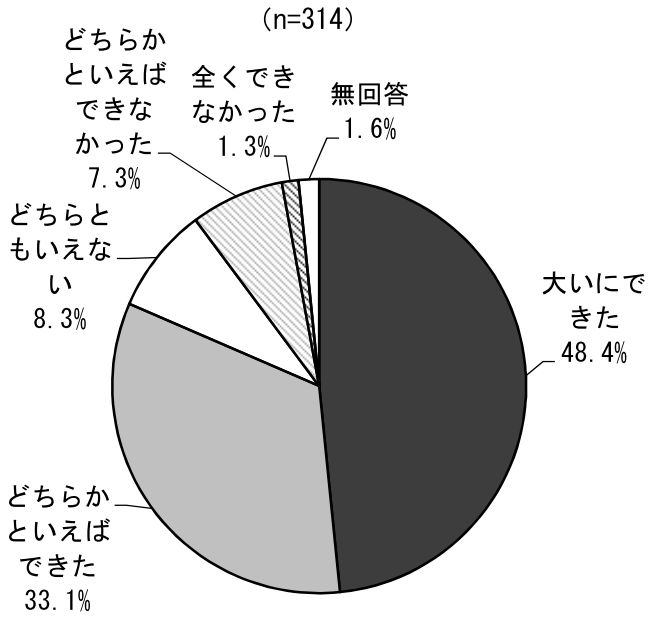


図２－９　活動方針のとおりに活動できたかどうか

（４）活動の発展に必要なこと

問３　貴団体の活動が今より発展するために必要だと思うことは何ですか。（〇はいくつでも）

活動が今より発展するために必要なことについては、「自分たちの活動をうまく広報できること」（53.2%）が最も高く、次いで「リーダーや後継者を育成すること」（46.5%）、「活動資金が増えること」（41.7%）、「活動場所の確保ができること」（37.9%）となっている（図２-10）。

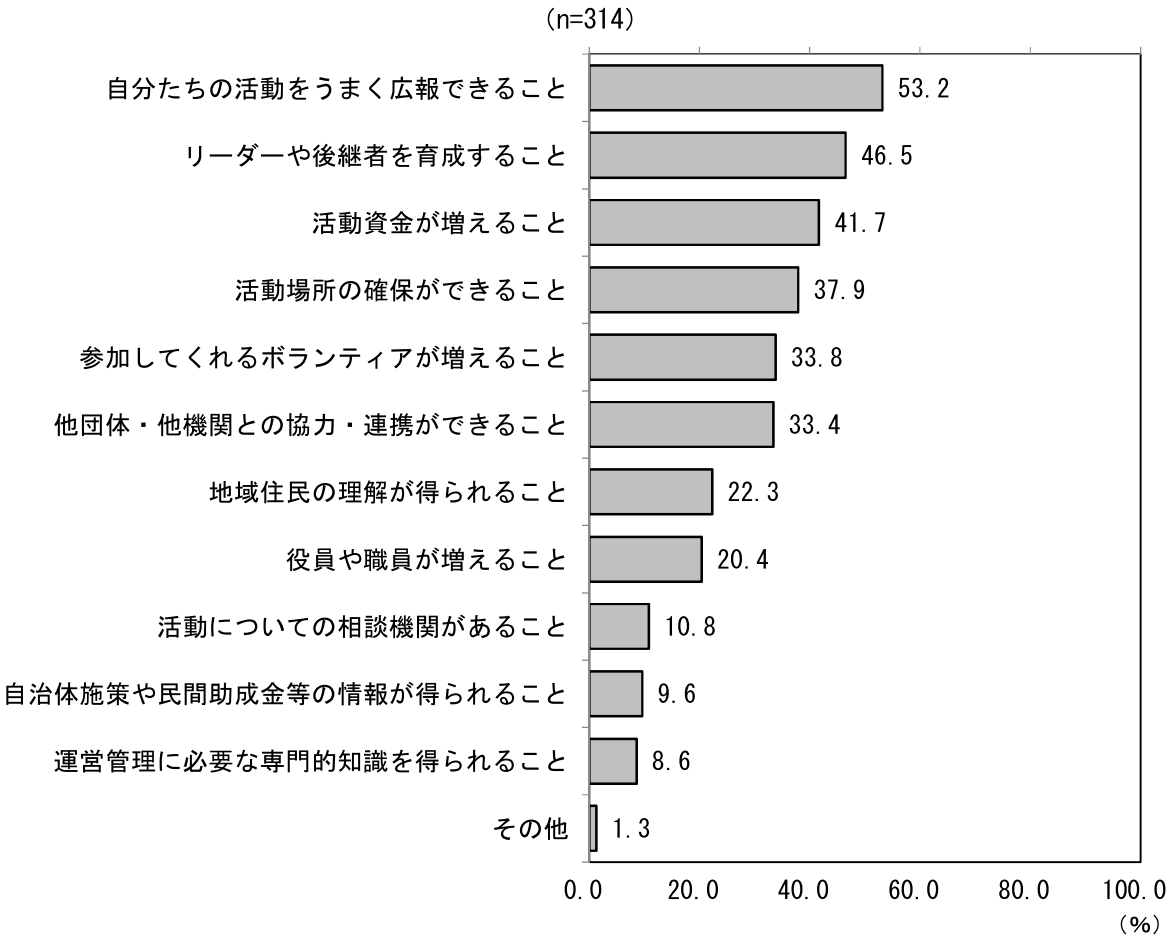


図２-10　活動の発展に必要なこと

３．団体の情報発信

（１）情報発信手段

問４　貴団体の活動を地域や社会に伝えるため、どのように情報発信をしていますか。 （○はいくつでも）

団体の活動を伝えるための情報発信の手段としては、「チラシの作成」（57.0％）が最も高く、次いで「ホームページ」（43.9％）、「松戸市の公共施設（市役所や「まつど市民活動サポートセンター」など）での情報の掲示」（39.5％）、「松戸市の「広報まつど」への情報掲載」（31.5％）となっている（図２-11）。

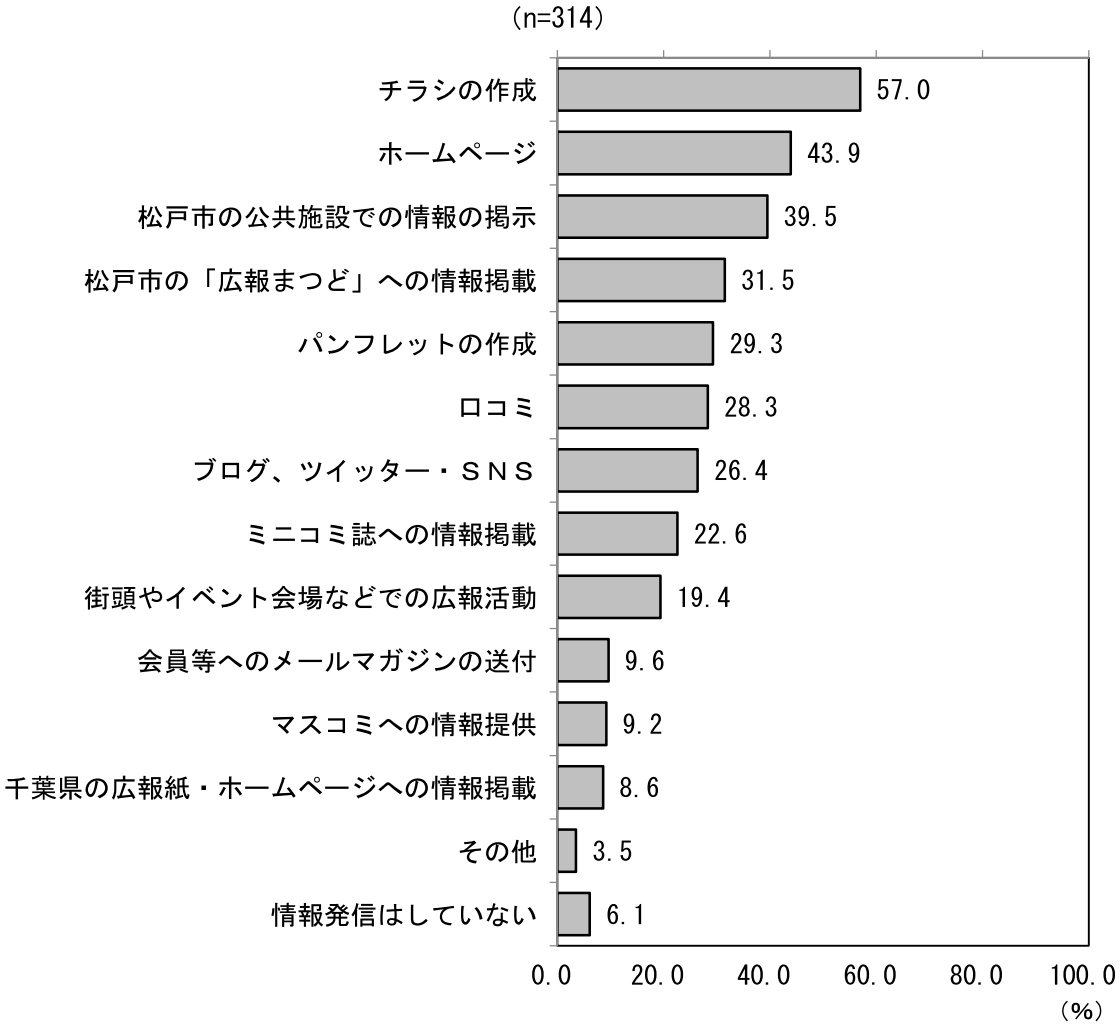


図２-11　情報発信手段

（２）発信情報の内容

問５　貴団体では、どのような内容の情報発信をしましたか。（○はいくつでも）

情報発信した内容については、「イベント（行事）の告知」（64.0%）が最も高く、次いで「活動の紹介あるいは報告」（62.7%）となっている（図２-12）。

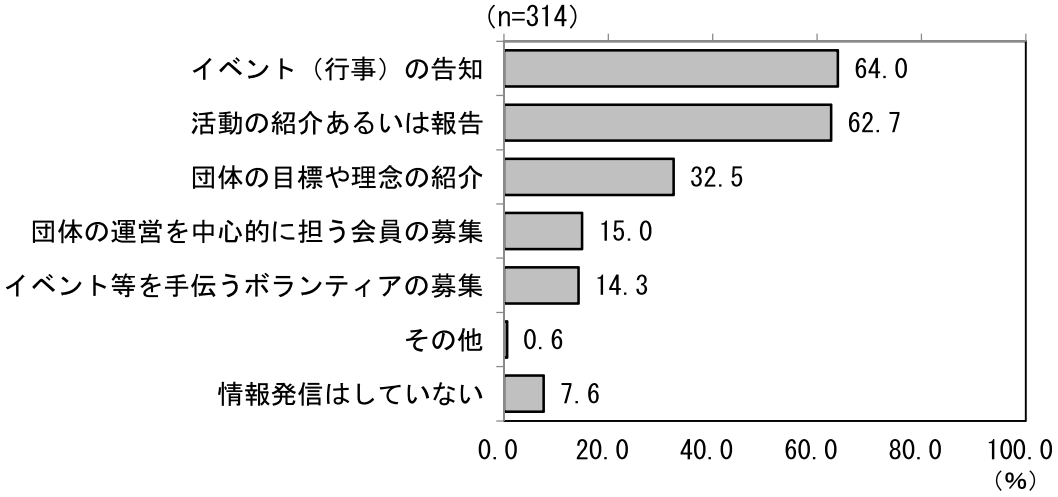


図２-12　発信情報の内容

（３）情報発信で困っていること

問６　貴団体では、情報発信にあたり、困っていることがありますか。（○はいくつでも）

情報発信で困っていることについては、「発信しても、市民からの反応に乏しいこと」（39.2%）が最も高く、次いで「情報発信の活動に関わることのできる人の数が限られていること」（32.2%）となっている（図２-13）。

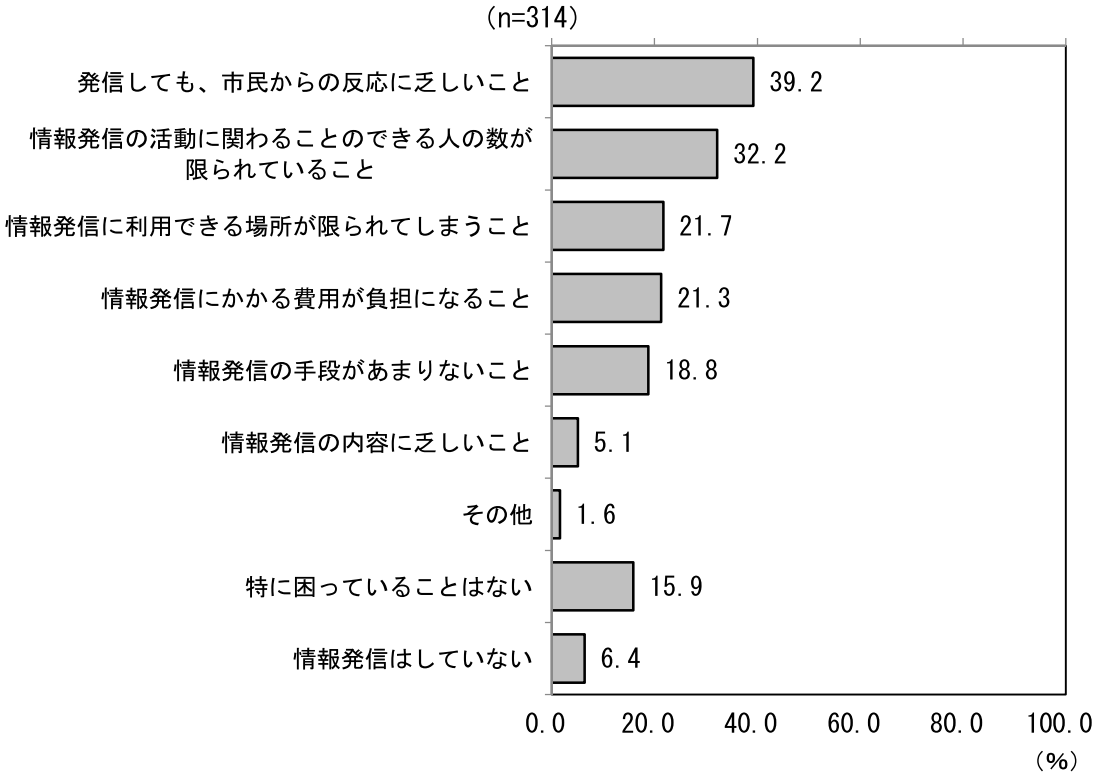


図２-13　情報発信で困っていること

４．協働のまちづくりと市の施策

（１）松戸市における協働のまちづくり

①認知状況

問７　松戸市では「協働のまちづくり」を進めています。貴団体は、この取り組みをご存知ですか。（○は１つだけ）

市が協働のまちづくりを推進していることについては、「知っている」が 57.0%、「知らない」が 41.4%となっている。

また、前回・前々回調査と比較してみると、「知っている」は約 15 ポイント低下している一方、「知らない」は約 14 ポイント上昇している（図２-14）。

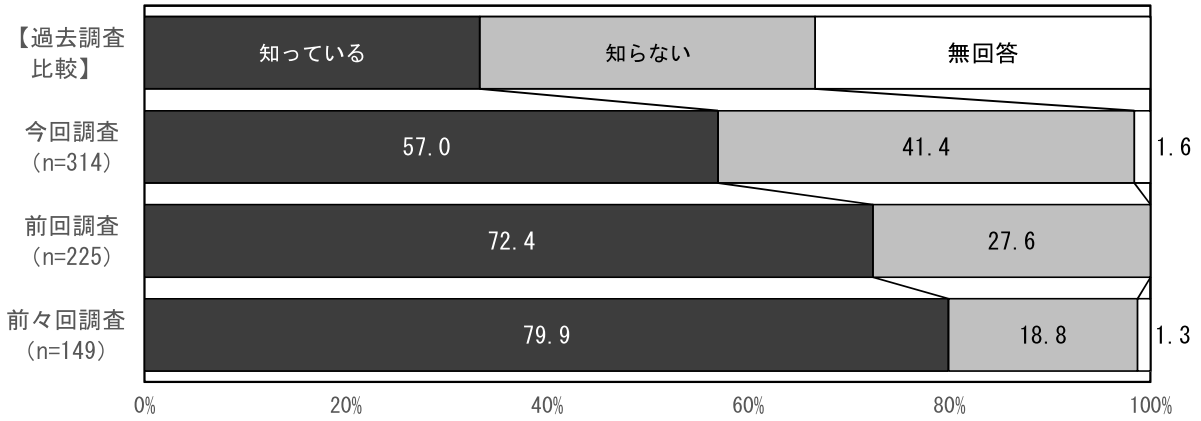


図２-14　協働のまちづくりの認知状況（過去調査比較）

②協働のまちづくりへの共感

問８　貴団体は、「協働のまちづくり」に共感できますか。（○は１つだけ）

協働のまちづくりに共感できるかについては、「大いに共感できる」「どちらかといえば共感できる」を合わせた「肯定的評価」が 74.5%である一方、「どちらかといえば共感できない」「まったく共感できない」を合わせた「否定的評価」は 3.1%にとどまっている。

また、前回・前々回調査と比較してみると、「肯定的評価」はほぼ同水準となっているが、「大いに共感できる」は減少傾向にある（図２-15）。

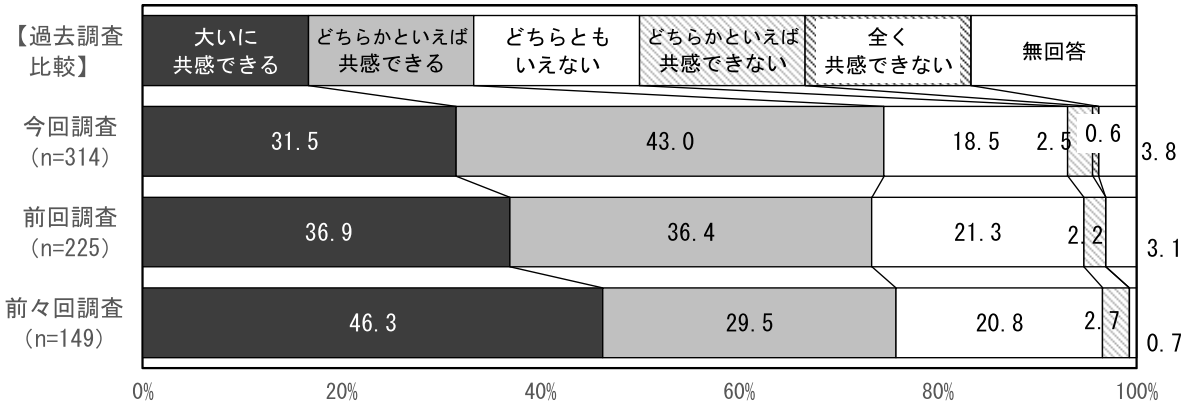


図２-15　協働のまちづくりの共感（過去調査比較）

③進捗評価

問９　貴団体は、松戸市において市民、市民活動団体、民間事業者及び市の協力・連携が図られ、協働のまちづくりが進んでいると思いますか。（○は１つだけ）
問９－１　貴団体が松戸市において協働のまちづくりが進んでいないと思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

松戸市において協働のまちづくりが進んでいるかについては、「大いにそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定的評価」が 36.9%、「どちらともいえない」が 32.5%、「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた「否定的評価」が 26.7%となっている。

また、「否定的評価」の 84 団体に進んでいないと思う理由を聞いたところ、「松戸市全体に協働のまちづくりの意識が浸透していないから」（67.9%）が最も高く、次いで「協働のまちづくりの事例がどのようなものか分からないから」（44.0%）となっている（図２-16）

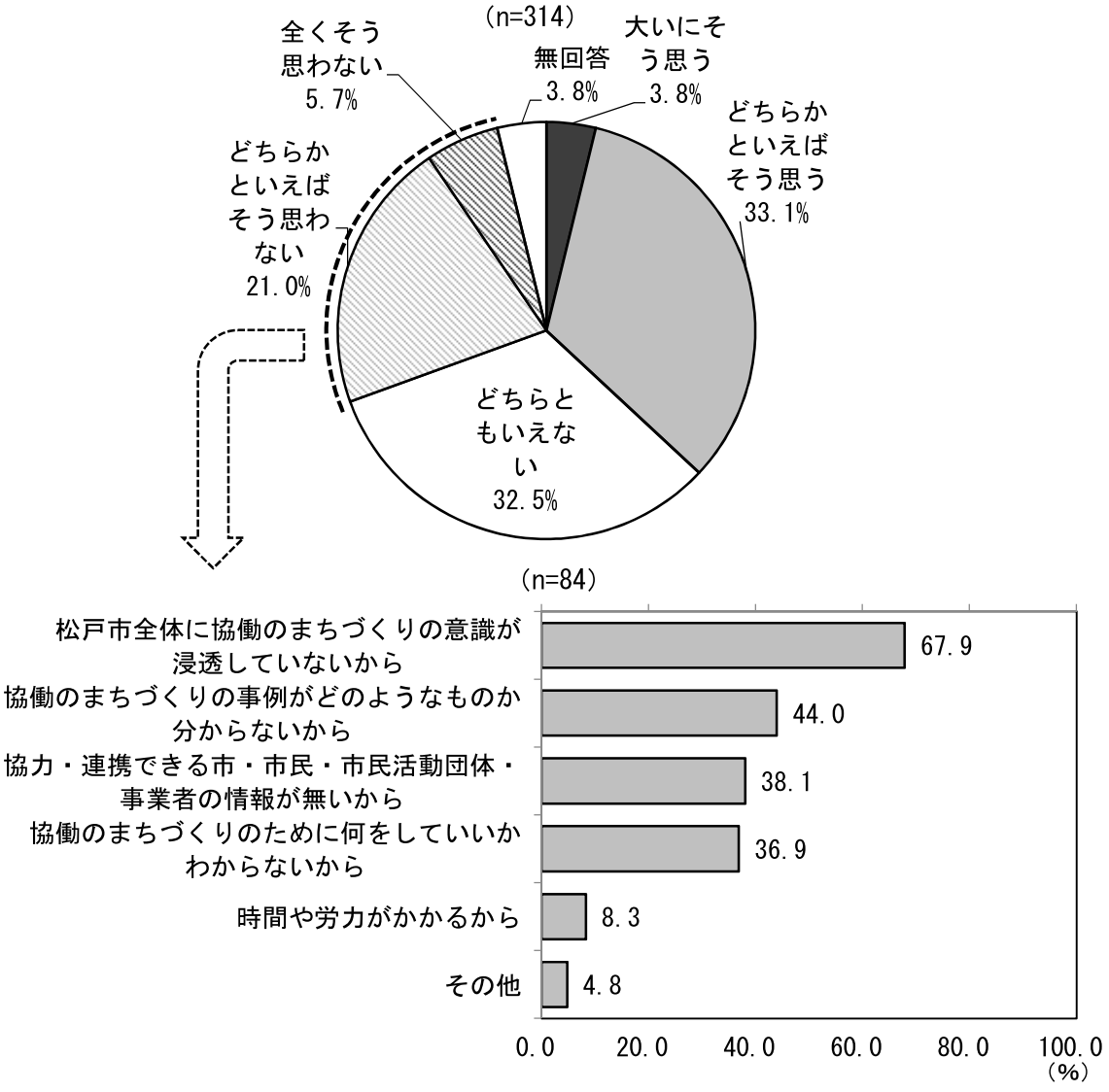


図２-16　【上】協働のまちづくりの進捗評価、【下】進んでいない理由

（２）松戸市「協働事業提案制度」

①活用状況

問 10　貴団体で、協働事業提案制度を使ったことがありますか。（○は１つだけ）
問 11　協働事業提案制度を使わない理由は何ですか。（○はいくつでも）

松戸市「協働事業提案制度」の活用状況については、「現在又は過去に使ったことがある」が 7.0%、「ない」が 91.4%となっている。

また、「ない」と回答した 287 団体に使わない理由を聞いたところ、「『協働事業』制度を知らなかったから」（28.6%）が最も高く、次いで「手続きが面倒だと思うから」（27.2%）、「申請する余裕がないから（構成員の不足など）」（26.8%）、「行政の基準に合わせると、活動内容に制約を受けると思うから」（24.7%）となっている（図２-17）。

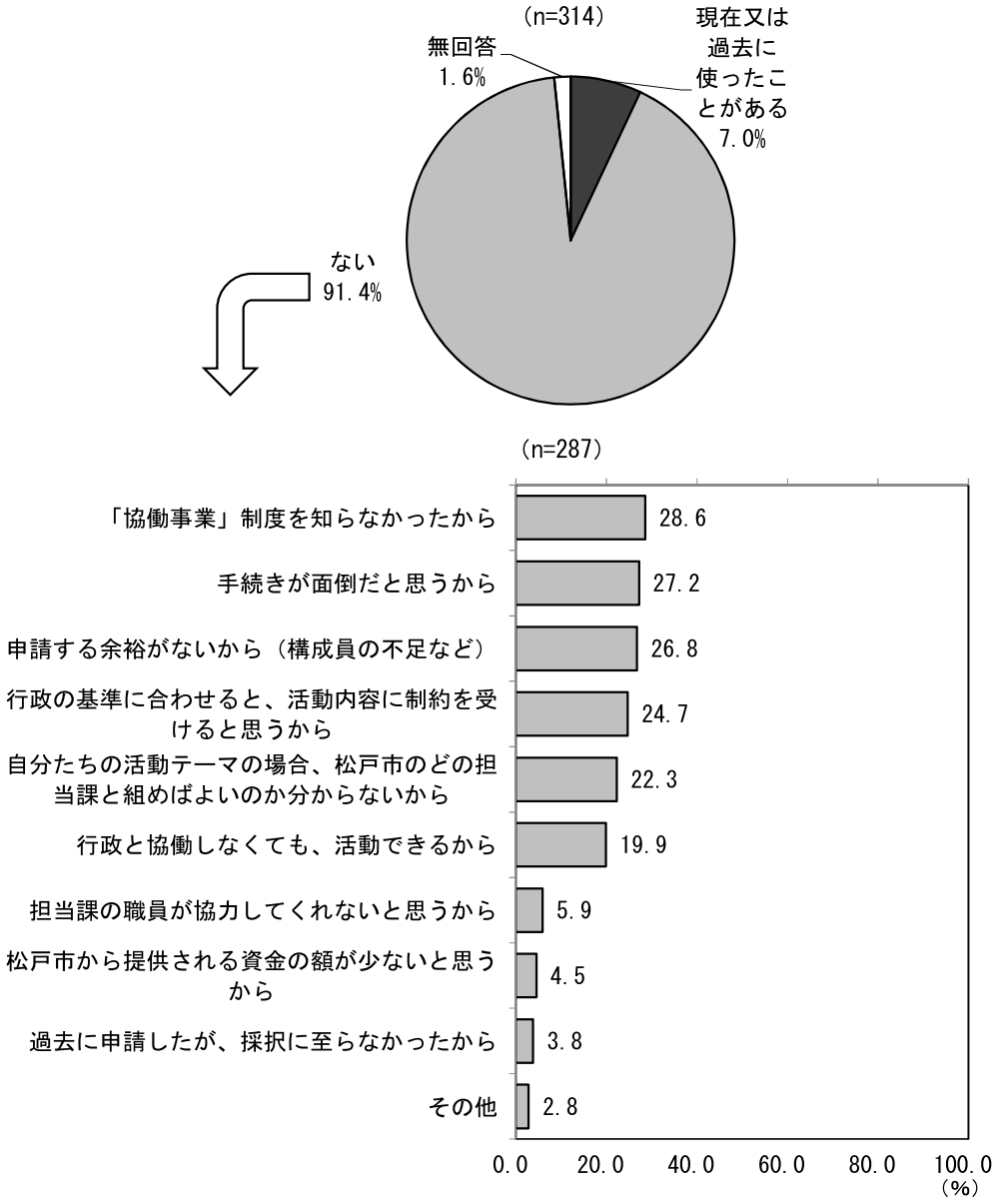


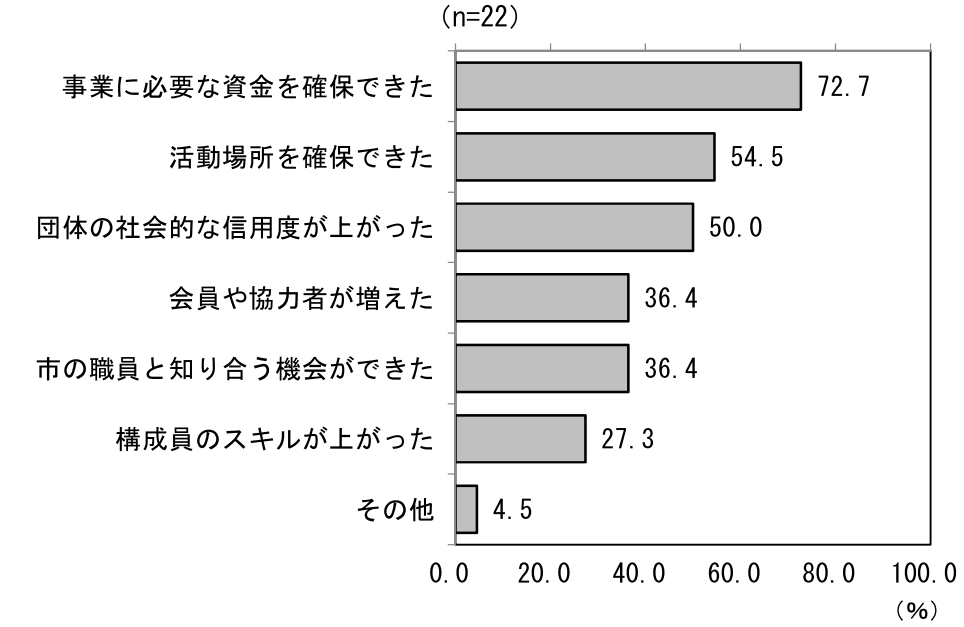
図２-17　【上】松戸市「協働事業提案制度」の活用状況、【下】使わない理由

②良かったこと、課題に感じたこと

問 10-1　協働事業提案制度を使ってみて、貴団体にとって良かったこと、課題に感じたことは何ですか。（○はいくつでも）

松戸市「協働事業提案制度」について「現在又は過去にやったことがある」と回答した22団体に良かったことを聞いたところ、「事業に必要な資金を確保できた」（72.7%）が最も高く、次いで「活動場所を確保できた（公共施設を無料で使用できたなど）」（54.5%）、「団体の社会的な信用度が上がった」（50.0%）となっている。

また、課題に感じたことは、「書類（申請書、報告書等）の作成が煩雑だった」（36.4%）が最も高く、次いで「市の職員の協力を得るのが大変だった」（22.7%）となっている（図２-18）。



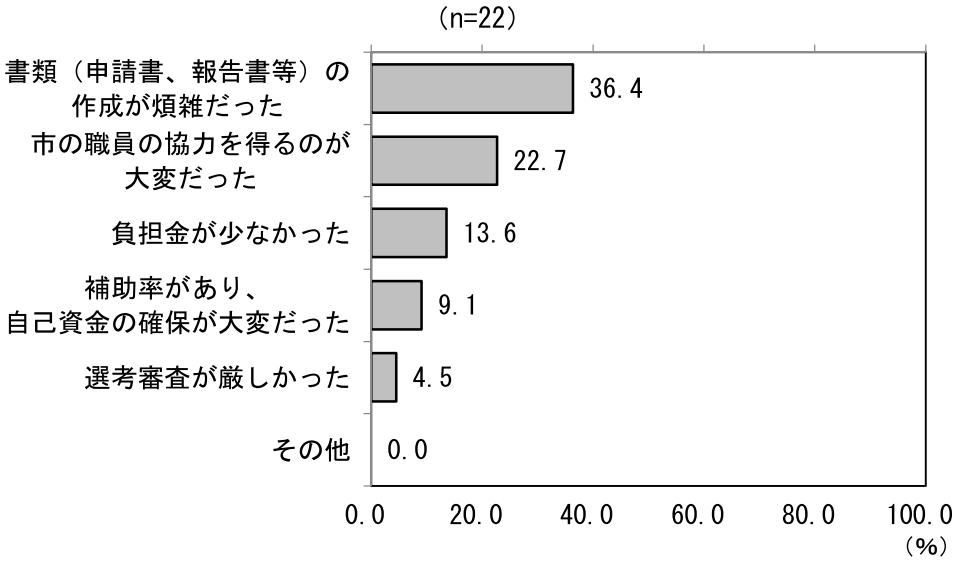


図２-18　松戸市「協働事業提案制度」の評価（【上】良かったこと、【下】課題に感じたこと）

（３）松戸市「市民活動助成金」

①活用状況

問 12　貴団体で、松戸市市民活動助成金を受けたことがありますか。（○は１つだけ）
問 13　松戸市市民活動助成金を受けない理由は何ですか。（○はいくつでも）

松戸市「市民活動助成金」の活用状況については、「現在又は過去に受けたことがある」が 15.3%、「ない」が 83.1%となっている。

また、「ない」と回答した 261 団体に受けない理由を聞いたところ、「『市民活動助成制度』を知らなかったから」（34.1%）が最も高く、次いで「手続きが面倒だと思うから」（32.2%）、「申請する余裕がないから（構成員の不足など）」（25.3%）となっている（図２-19）。

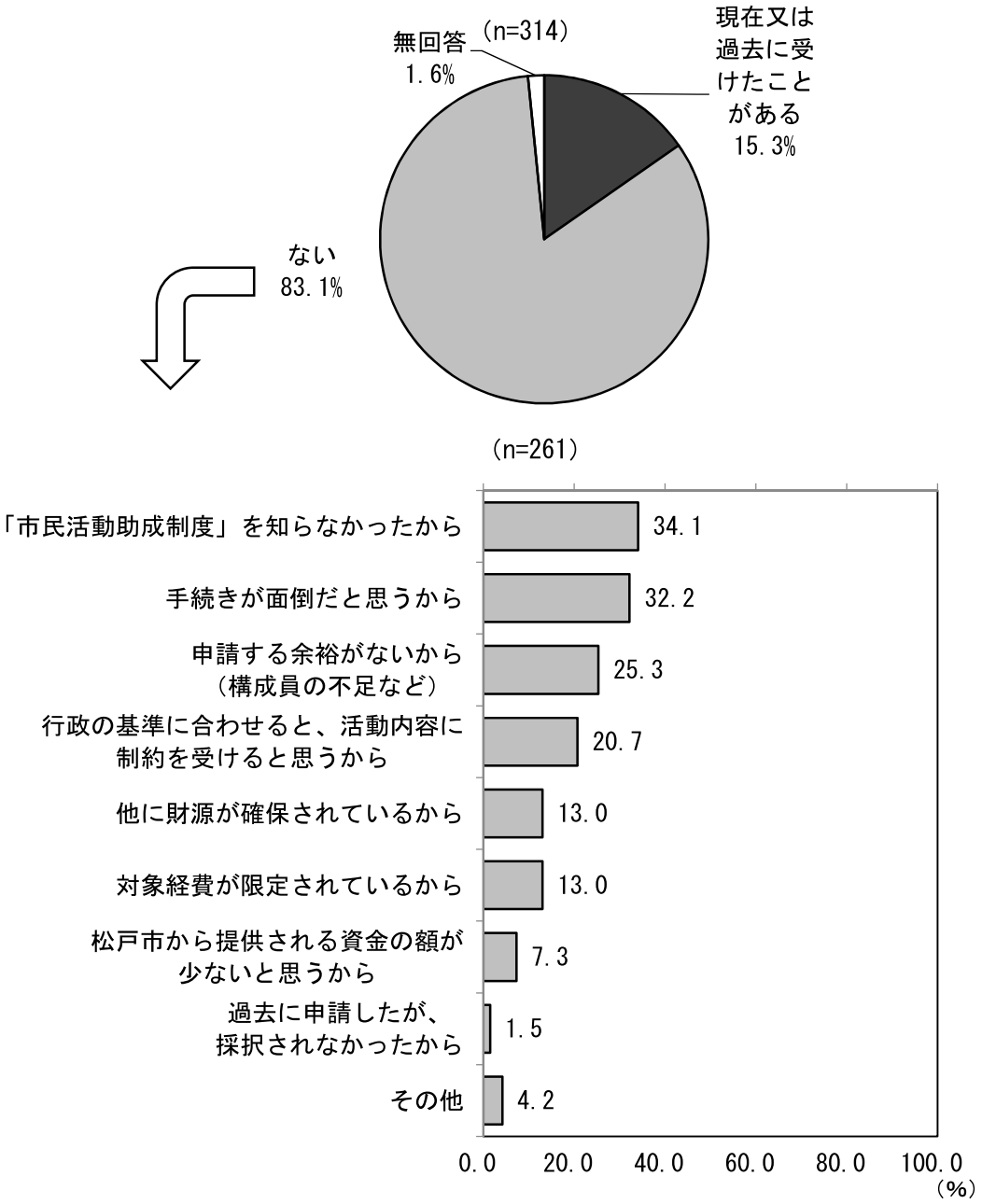


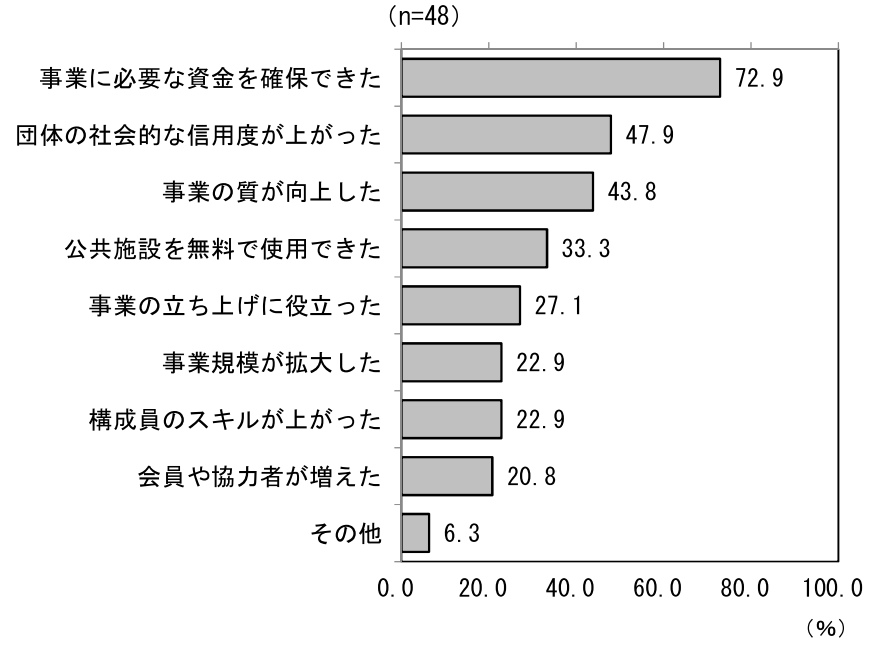
図２-19【上】松戸市「市民活動助成金」の活用状況、【下】受けない理由

②良かったこと、課題に感じたこと

問 12-１　助成金を受けて、貴団体にとって良かったこと、課題に感じたことは何ですか。 （○はいくつでも）

松戸市「市民活動助成金」について「現在又は過去に受けたことがある」と回答した 48 団体に良かったことを聞いたところ、「事業に必要な資金を確保できた」(72.9%) が最も高く、次いで「団体の社会的な信用度が上がった」(47.9%)、「事業の質が向上した」(43.8%) となっている。

また、課題に感じたことは、「書類（申請書、報告書等）の作成が煩雑だった」(35.4%) が最も高く、次いで「対象経費が限定されている」(27.1%) となっている（図２-20)。



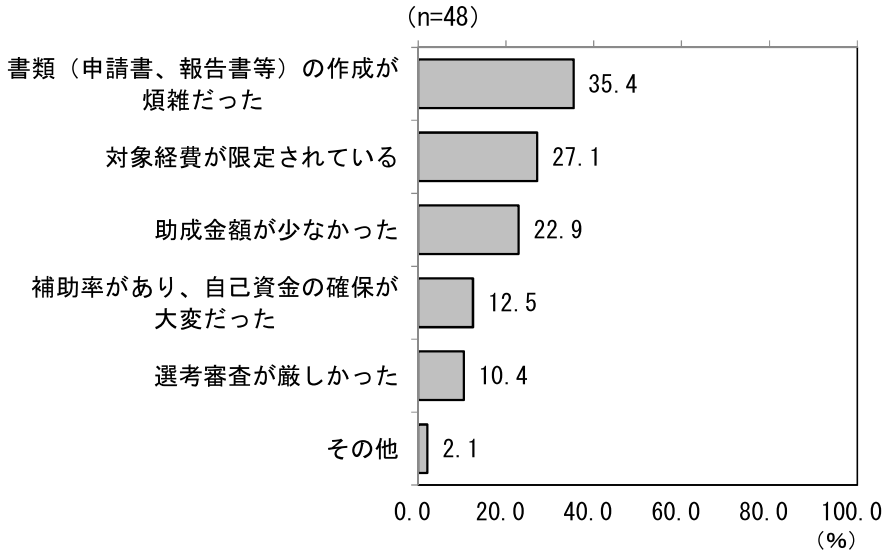


図２-20　松戸市「市民活動助成金」の評価（【上】良かったこと、【下】課題に感じたこと）

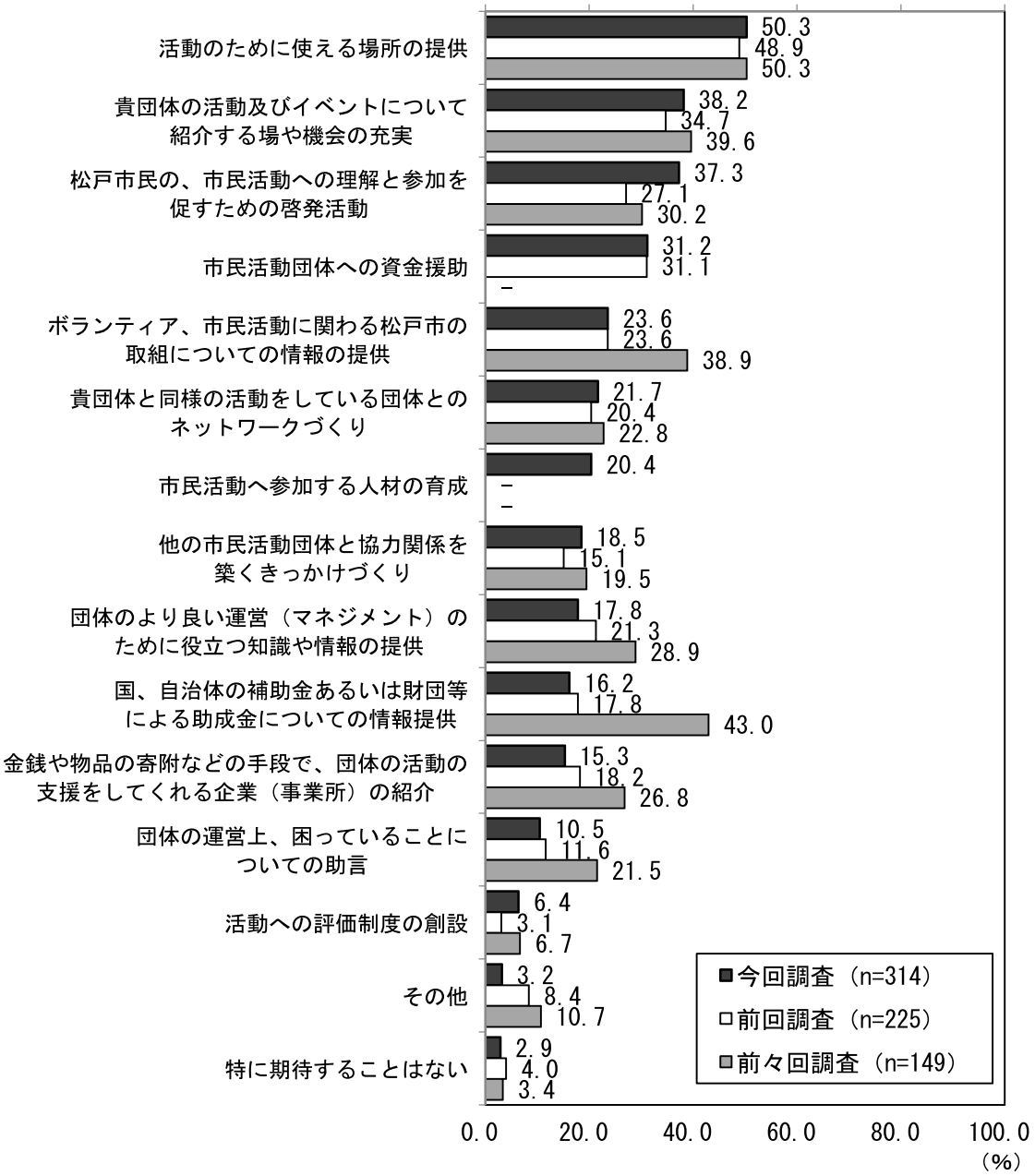
（４）市からの支援（市への期待）

①松戸市に期待すること

問 14　貴団体は、松戸市に対して、どのようなことを期待しますか。（○はいくつでも）

松戸市に期待することについては、「活動のために使える場所の提供」（50.3%）が最も高く、次いで「貴団体の活動及びイベントについて紹介する場や機会の充実」（38.2%）、「松戸市民の、市民活動への理解と参加を促すための啓発活動」（37.3%）、「市民活動団体への資金援助」（31.2%）となっている。

また、前回・前々回調査と比較してみると、１位・２位は前回・前々回調査と同様であり、３位・４位の順位の入替はあるものの、上位４項目に変動はない（図２-21）。



＊「市民活動へ参加する人材の育成」は今回調査のみ。

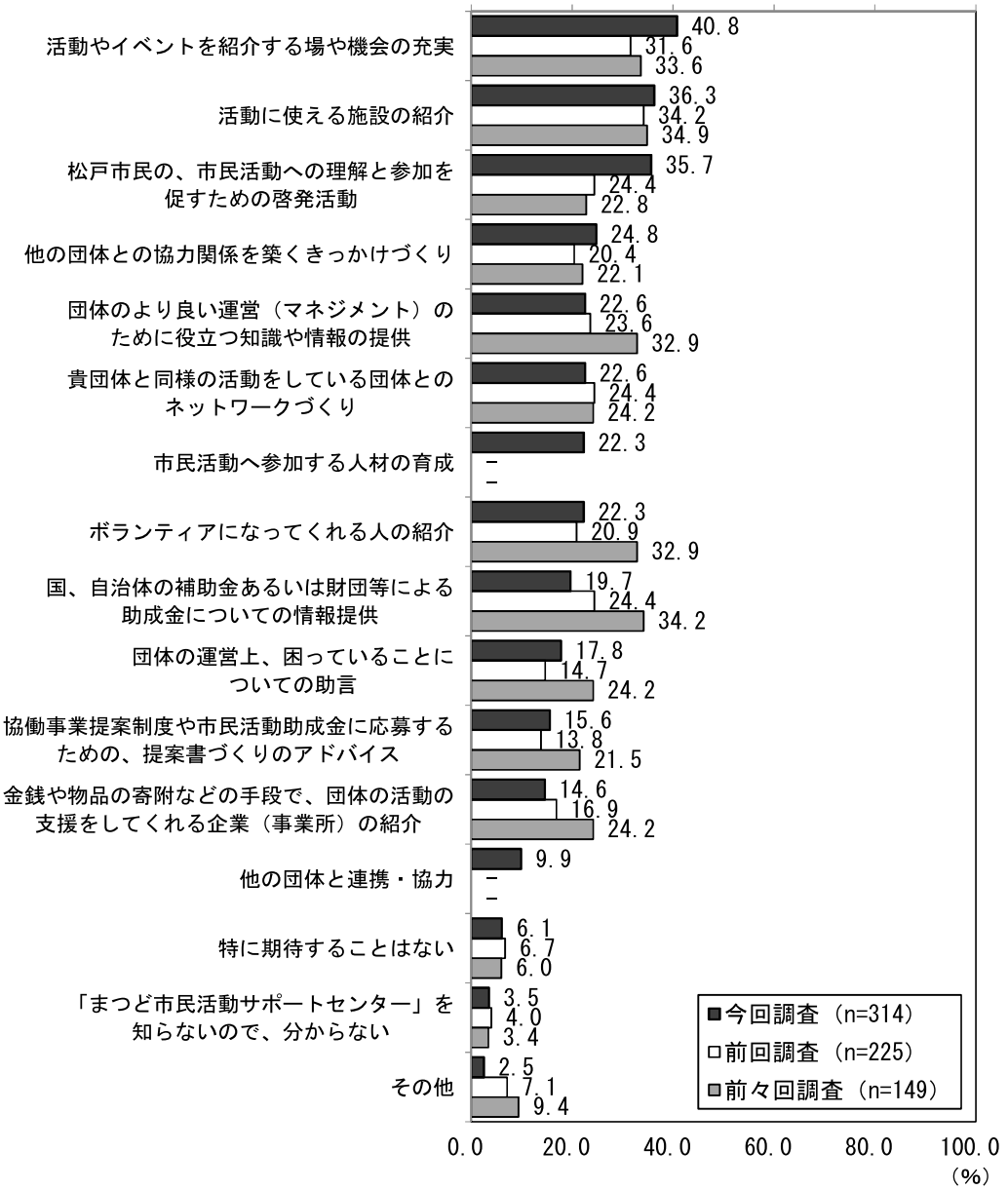
図２-21　松戸市に期待すること（過去調査比較）

②まつど市民活動サポートセンターに期待すること

問 15 貴団体は、市民活動団体を支援する「まつど市民活動サポートセンター」に対して、どのようなことを期待しますか。（○はいくつでも）

まつど市民活動サポートセンターに期待することについては､「活動やイベントを紹介する場や機会の充実」（40.8%）が最も高く、次いで「活動に使える施設の紹介」（36.3%)、「松戸市民の、市民活動への理解と参加を促すための啓発活動」（35.7%）となっている。

また、前回・前々回調査と比較してみると、上位３項目は全て前回調査よりも増加しているが、その中でも「松戸市民の、市民活動への理解と参加を促すための啓発活動」は約 11 ポイント上昇している（図２-22)。



＊「市民活動へ参加する人材の育成」「他の団体と連携・協力」は今回調査のみ。

図２-22　まつど市民活動サポートセンターに期待すること（過去調査比較）

５．他団体との関わり

（１）連携・協力の現状

問 16　貴団体は、他の団体（民間事業者・町会・自治会・ＮＰＯ・行政等）と連携・協力して活動をしていますか。（○は１つだけ）

他の団体（民間事業者・町会・自治会・ＮＰＯ・行政等）との連携・協力については、「している」が 49.4%、「今はしていないが、かつてはしていた」が 3.5%であり、連携・協力経験がある団体が約５割を占める。

前回・前々回調査と比較してみると、連携・協力経験がある割合は、前々回よりも高いが、前回よりは 7.1 ポイント減少している（図２-23）。

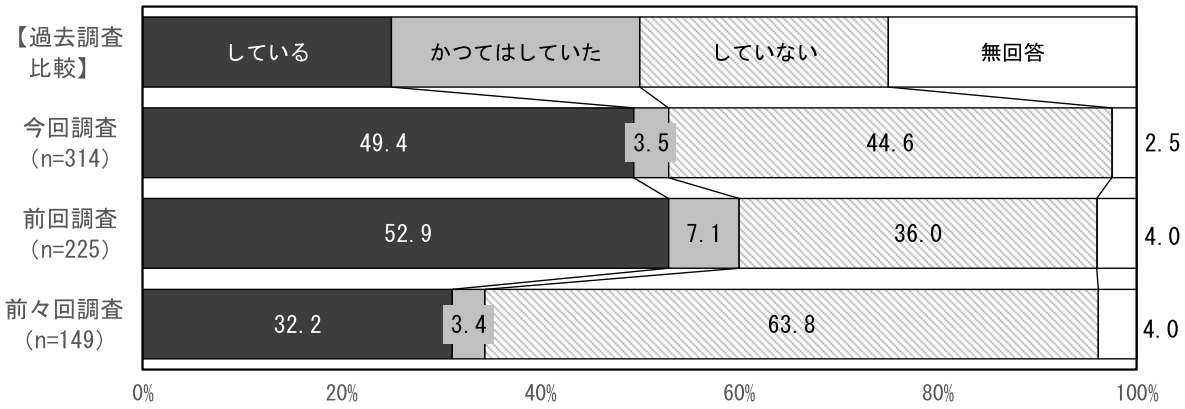


図２-23　連携・協力の現状（過去調査比較）

（２）内容、連携・協力先、良かったこと、しない理由

問 16-１　その活動の内容は、どのようなものですか。（○はいくつでも）
問 16-２　その活動の連携・協力先の団体は、どのような団体ですか。（○はいくつでも）
問 16-３　他団体と連携・協力して良かったと思うこと。（○はいくつでも）

連携・協力経験があると回答した 166 団体に連携・協力の内容を聞いたところ、「連携して事業（イベント）を実施する」（67.5%）が最も高く、次いで「連携して事業（イベント）を企画する」（48.2%）となっている。

連携・協力先の団体については、「市民活動団体（ＮＰＯ、ボランティア団体、任意団体など）」（68.1%）が最も高く、次いで「県・市等の行政」（44.0%）となっている（図２-24）。

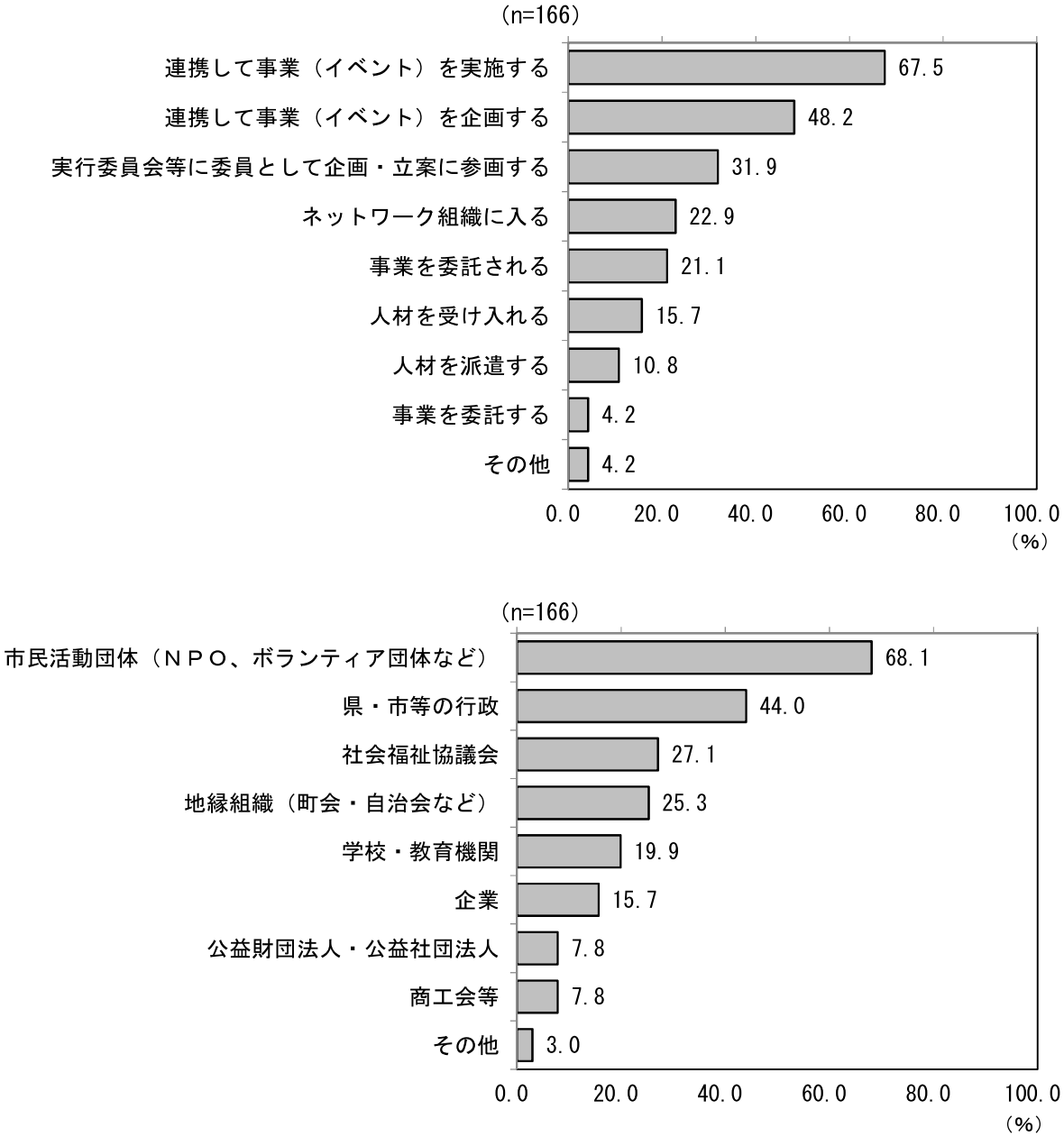


図２-24　【上】活動内容、【下】連携・協力先団体

連携・協力して良かったことについては、「自団体のみで行うより事業規模が拡大できた」（44.0%）が最も高く、次いで「有益な情報を得ることができた」（41.6%）となっている（図２-25）。

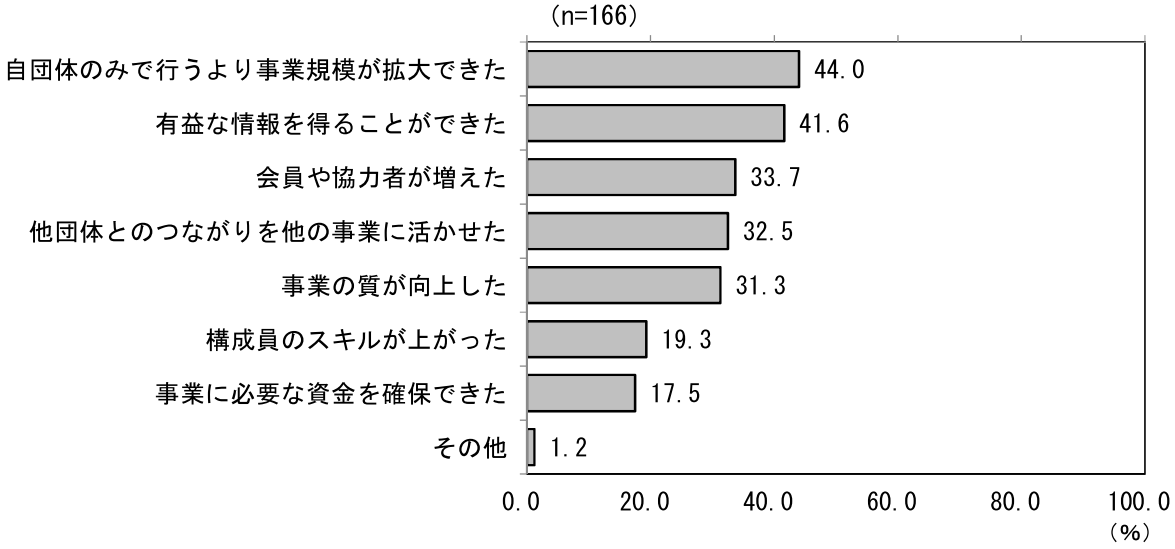


図２-25　連携・協力して良かったこと

（３）連携・協力しない理由

問 17　他団体と連携・協力しない理由はなんですか。（○はいくつでも）

連携・協力経験がない 140 団体に連携・協力しない理由を聞いたところ、「他団体のことを知らないから」（31.4%）が最も高く、次いで「連携・協力して事業を行う効果がわからないから」（29.3%）、「どうやったら連携できるのかわからないから」（27.1%）となっている（図２-26）。

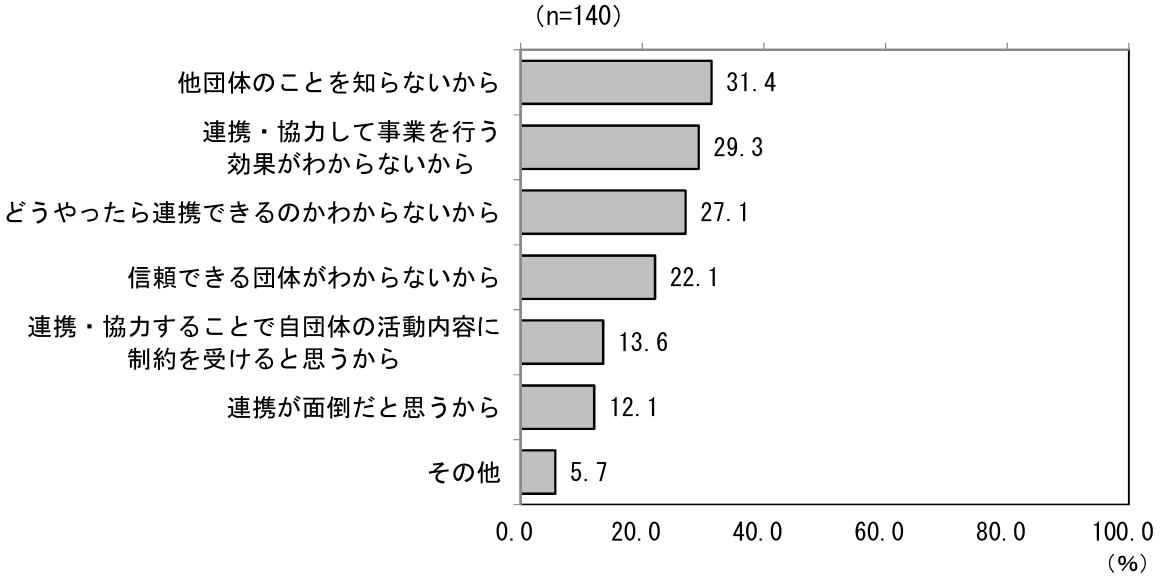


図２-26　連携・協力しない理由

６．協働のまちづくりへの意見、アイデア等（自由意見）

協働のまちづくりへの意見、アイデア等について自由に記入してもらったところ、117 団体からの意見が寄せられた。それらの意見を分類し、主な意見を掲載した。なお、複数の意見が記入されているため、意見数の合計は 117 を超えている。

■活動運営状況について（51 件）

〇会場の確保に大変苦労している。個人名での申し込みをしているが優先してほしい。
〇共同で使える事務所が欲しい。独自での事務所管理は負担が多くてできない。
〇今現在、私達の活動するメンバーが減り、活動できていない。
〇運営している団体を維持するので精一杯。
〇どれだけ良い活動であっても、会場費（１回 3,000 円～）、雑費（2,000 円～）を今も個人で出している。市からも良い活動なので頑張れと言われるが、会場費等は借りられないので、困る事ばかり。
〇やはり苦労する事は、周知の事。資金がないとできないし、多くの市民の皆様に知ってもらっての活動なので、とても大切だと実感した。
〇少子化・高齢化の影響で年間事業をこなすことで四苦八苦で余裕がないのが現状。

■協働のまちづくりについて（41 件）

〇今まで協働のまちづくりの存在を充分知らなかった。
〇市の協働まちづくりの基本構想・目的は知らせて欲しい。
〇地域の市民活動の推進とネットワークを築く人が足りない。
〇若者の地域活動参加をもっと増やす必要がある。
〇協働事業（提案制度）について、対象経費に、講師謝金が内部につけられないことが残念。団体の専門性を活かせるようなお金の使い方ができるようになることを望む。
〇協働のまちづくりについてあまり理解していないので何をしていいかわからない。
〇同じ考え方、類似内容の活動団体とのネットワークは活動規模の拡大、質の向上のため必要だと考えている。現在は自分達でネットワーク作りのために第一歩として、座談会などを企画したい。
〇行政ではやりきれない部分は市民団体にどんどん協力要請を進めていく。
〇行政の方にもぜひ参加していただき、一緒に創りあげていくことで、共に感じることをしていただけると幸い。
〇協働のまちづくりとは具体的にどんなものなのか、先行して実施しているところの具体的な例を示して頂けると理解しやすい。
〇助成を受けた後、市からの依頼に対応するだけの機能を有する団体が少ないと思う。小さな力で頑張っている団体が協働できるまで、宣伝や通信費補助、スタッフ、ノウハウの提供をいただけたらありがたい。
〇個々の団体だけでは実現できない事も、他団体との連携と協力により、新しい事が生まれる。
〇子供達の世代、その親（お父さん、お母さん）の世代が忙しい中でもうまく地域の活動に気軽に参加、参画できる仕組作りが出来ると良い。
〇市民活動団体が 200 近く登録されているが、それぞれどの程度、協働のまちづくりを理解しているのか、かなり差が大きいのではないか。登録時に意識づけが必要ではないか。他団体と連携するのは共通する大きな目標が必要。
〇市民活動とサークル活動の区別が出来ていない。
〇連携、協力、助成金当の申請、報告書類提出等、手続きに時間がかかり、二の足を踏んでしまう。活動を活発に頻度多く動いていく為に手続きを簡便にして頂きたい。
〇市民活動の敷居が高い。掲示板のイベント掲示においても決まりが多く、一般市民の活動を妨げているとさえ感じられた。

■行政の支援全般について（25 件）

〇助成金による支援も使用できる回数、金額を増やして欲しい。
〇広報まつどの制約が多過ぎる。
〇市の職員には公正な立場での公務としてのサポートをお願いしたい

〇他団体・行政との協力事業の活動となると企画などに時間がかなり必要となり、助成金申請など期限があると、そのためだけに時間を費やす事が難しいので、申請の期間などを定めず、いつでも申請できると有難い。
〇市民や団体の声、意見を取り入れられる市職員・各課であって欲しい。
〇イベントを実施するにあたり、一般市民への PR を充実して欲しい。
〇公共施設でのイベント開催をもう少し柔軟にさせていただけたら嬉しい。
〇広報まつどの記載などで、市民活動センター系の団体記事は多いが、既にある登録団体の紹介や活動記事が少なく、会員増を図るにも苦戦している現状であり、行事開催記事などの欄は倍増するなどして既存の団体を知らしめる方法をとっていただきたい。
〇民間で活動している団体の情報発信ももっと支援して欲しい。
〇各団体リーダー活動員同士と行政を交えた意見交換・交流の場があれば良い。
〇市民活動の紹介ページ（HP）で活動風景や代表者などの（希望者のみ）写真を載せ、活動の見える化により安心感につなげていったら良いと思う。

■まつど市民活動サポートセンターについて（12 件）

〇まつど市民活動センターのスタッフのおかげで色々な面でサポートしてもらい助かっている。センターの活動をもっと広報して周知して欲しい。
〇サポートセンターはとても理解があり、分け隔てなく情報を発信させてくれていると思う。また、交流サロンも広くて、明るい雰囲気で、そういう所で新たな交流が生まれたりするのでとても良いと思う。相談もしやすい親しみやすいスタッフの方々でとても助かっている。
〇コーディネーターの方も親切で助かる。
〇市民活動サポートセンターのようなものが松戸市西口～古ヶ崎エリアにあればとても助かる。
〇中間支援を行うまつど市民活動サポートセンターのスタッフの方は、自身も市民活動を行いながらコーディネーターとして様々な支援をしてくださっている。
〇サポセンは立地が悪く、主催事業に注力するあまり団体のサポートが充分行き届いているとは思わない。
〇いつも感じるのは、サポセンの受付の対応をはじめ、他の職員の行動や言葉が他の施設より優れていること。いつも感謝している。より利用者に寄り添い臨機応変な対応を望む。
〇矢切の市民活動サポートセンターのような施設が市内にもっとあると良い。特に新松戸地区に欲しい。

■アンケートについて（４件）

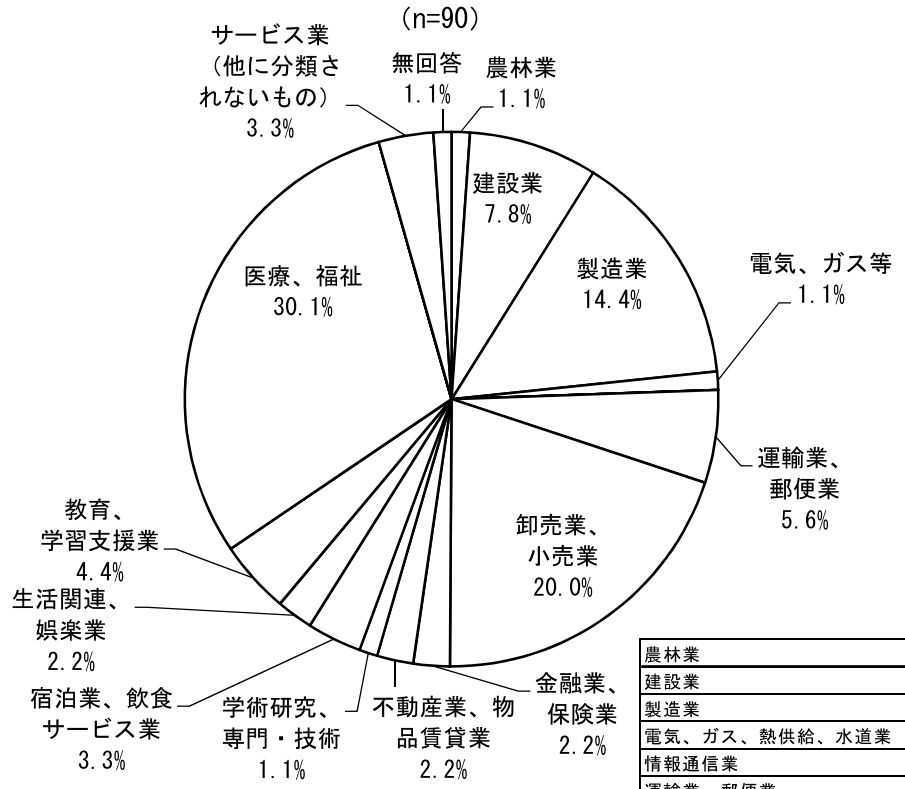
〇今回の調査で初めて知った制度があった。良い検討機会となった。
〇今回のアンケート結果を各課と共有していただきたい。
〇このアンケートを受け取るまで、協働のまちづくりの内容を知らなかった。

■その他について（10 件）

〇健康づくりが市の財政の健全化をもたらす。
〇市関係者の方々が、自分達もしっかり勉強し、市民と一緒にまちづくりをしようという考え方で進んでいる事がよくわかる
〇１人暮らしの方が増えている。特につながりを持たない年配の方は刺激が少なく自己の考えにこり固まる気がする。１人暮らしでもつながっていける環境が大事。

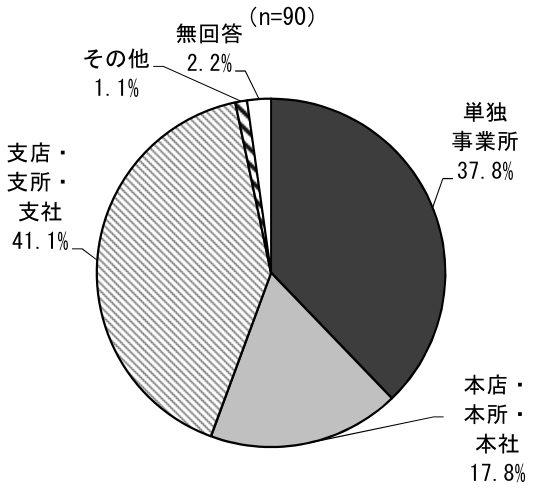
Ⅲ．事業者

１．回答事業者プロフィール

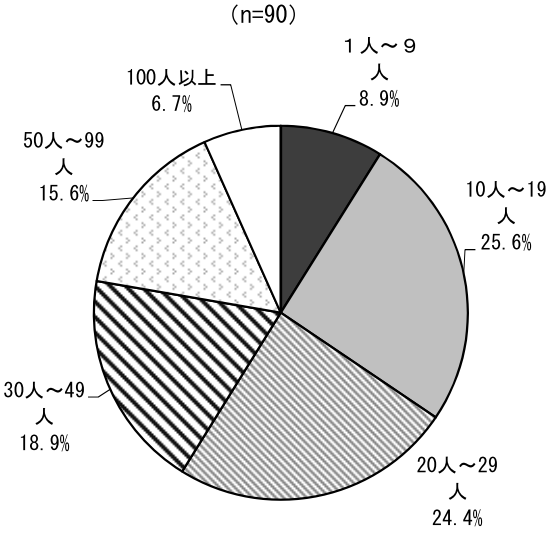


業種

	発送数	回収数
農林業	1	1
建設業	18	7
製造業	22	13
電気、ガス、熱供給、水道業	1	1
情報通信業	2	0
運輸業、郵便業	11	5
卸売業、小売業	80	18
金融業、保険業	9	2
不動産業、物品賃貸業	6	2
学術研究、専門・技術サービス業	5	1
宿泊業、飲食サービス業	51	3
生活関連サービス業、娯楽業	16	2
教育、学習支援業	14	4
医療、福祉	51	27
複合サービス事業	2	0
サービス業	11	3
無回答	－	1
合計	300	90



事業所の形態



従業員数

２．社会貢献活動の現状と課題

（１）社会貢献活動の現状

問１　貴事業所は、社会貢献活動（地域の祭りやイベントへの参加協力、地域の清掃活動や環境美化活動、ボランティアやＮＰＯへの物品提供など）を実施していますか。（○は１つだけ）

社会貢献活動の実施状況については、「現在、実施している」が 57.8%、「以前は実施していたが、現在は実施していない」が 10.0%であり、実施経験率は 67.8%となっている。

前回調査と比較すると、「今まで実施したことはない」はほぼ同様の一方、「現在、実施している」が約８ポイント減少している。

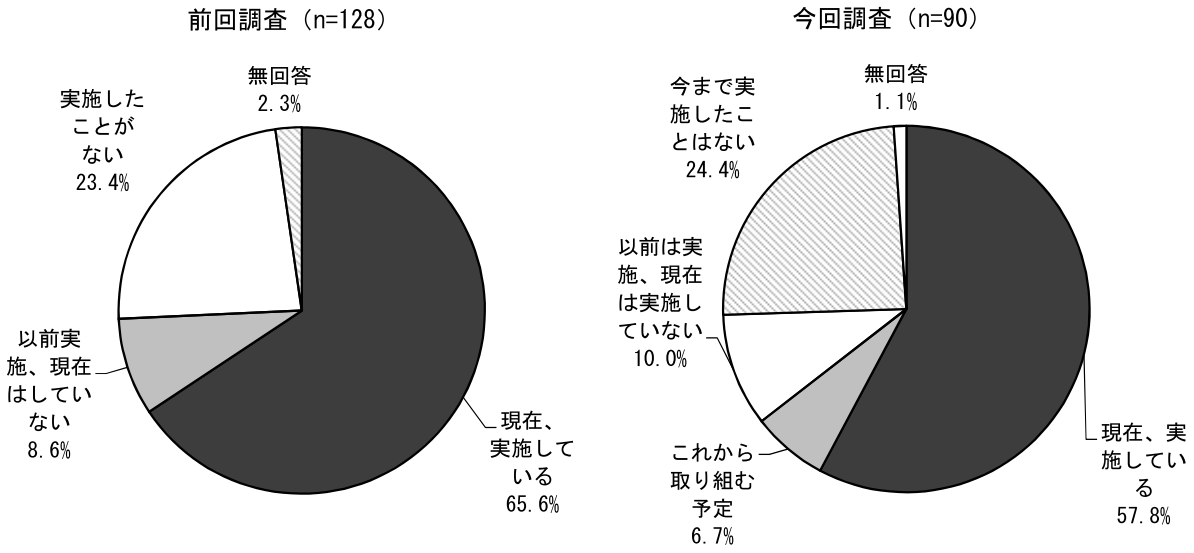


図３－１　社会貢献活動の現状（全体（前回調査比較））

問１－１　次のア～コの社会貢献活動について、状況をご記入ください。（○は１つだけ）

社会貢献活動について「現在、実施している」「現在は取り組んでいないが、これから取り組む予定」「以前は実施していたが、現在は実施していない」のいずれかに回答した 67 事業者に個別事業の実施状況について聞いたところ、「現在、実施している」では、「地域の祭りやイベントへの参加協力」（52.2%）が最も高く、次いで「町会・自治会など地域活動への寄附（資金や物品）」（50.7%）であり、この２項目は５割を超える。

また、「学校行事への支援・協力」「地域の清掃活動や環境美化活動」「事業所内の施設や場所の提供」においては、「現在、実施している」が約３割を占める。

一方、「ボランティアやＮＰＯへの資金提供」「ボランティアやＮＰＯへの物品提供」「ＮＰＯ等活動団体の会員・賛助会員」「技術・ノウハウや人材・労力の提供」においては、「現在、実施している」が約１割にとどまっている（図３－２）。

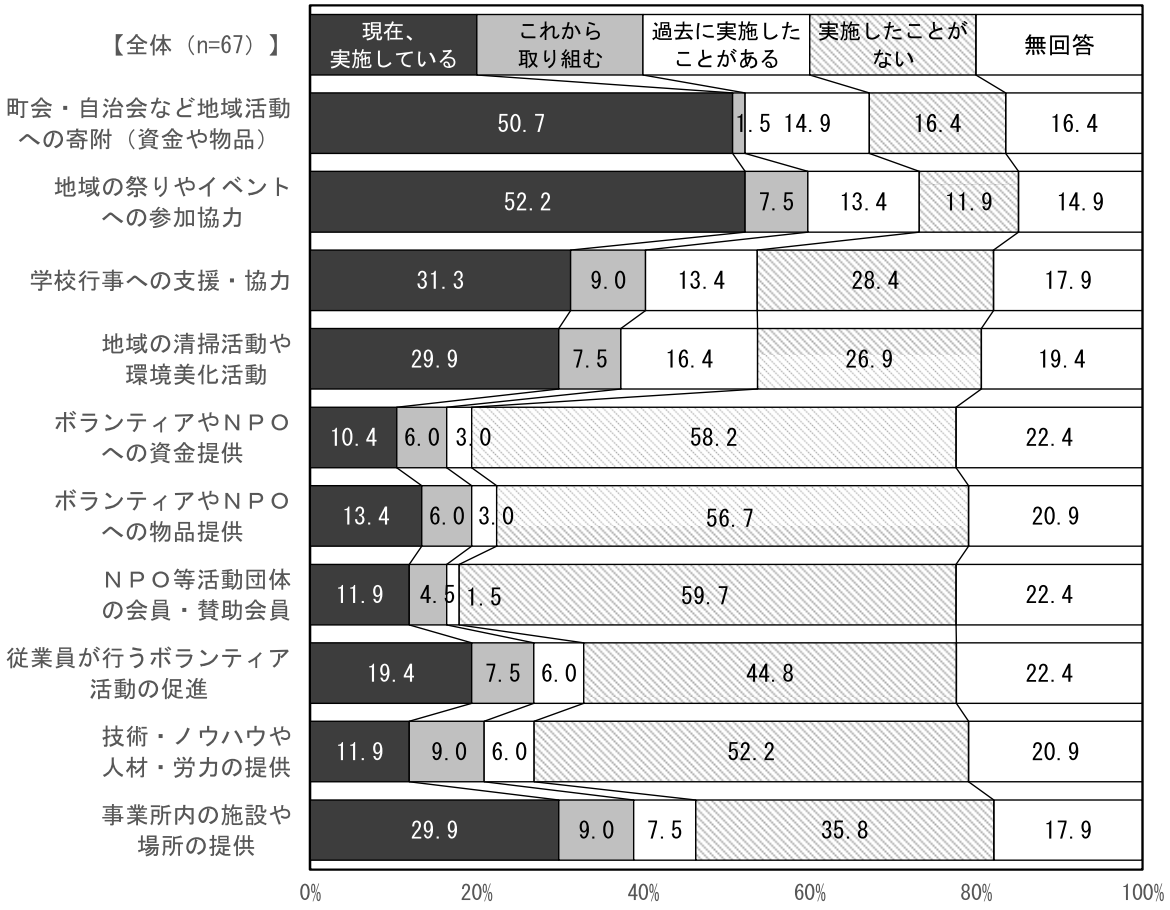


図３－２　社会貢献活動（個別事業）の実施状況

（２）社会貢献活動の実施意向

問２　貴事業所は、今後まちづくりの一環として社会貢献活動を実施したいと思いますか。現在社会貢献活動をされている事業者もされていない事業者もお答えください。 （○は１つだけ）

今後まちづくりの一貫として社会貢献活動を実施したいかについては、「大いにそう思う」「ある程度そう思う」を合わせた「肯定的評価」が 76.7%の一方、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた「否定的評価」は 7.8%にとどまっている（図３－３）。

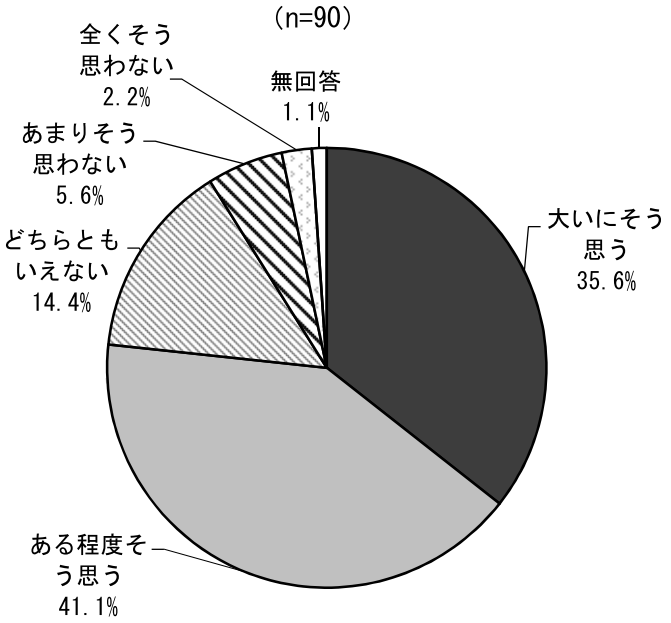


図３－３　社会貢献活動の実施意向

（３）社会貢献活動を推進する上での課題

問３　社会貢献活動を進めるうえで、課題となることは何ですか。（○はいくつでも）

社会貢献活動を推進する上での課題については、「人的な余裕がない」（77.8%）が最も高く、次いで「社会貢献活動についての情報が少ない」「活動する予算がない」（ともに 34.4%）となっている（図３－４）。

また、社会貢献活動の実施意向別では、「肯定的評価層」において、「人的な余裕がない」（82.6%）が最も高く、次いで「社会貢献活動についての情報が少ない」（43.5%）、「どのように取り組んだら良いか、取り組み方が分からない」（33.3%）となっている（表３－１）。

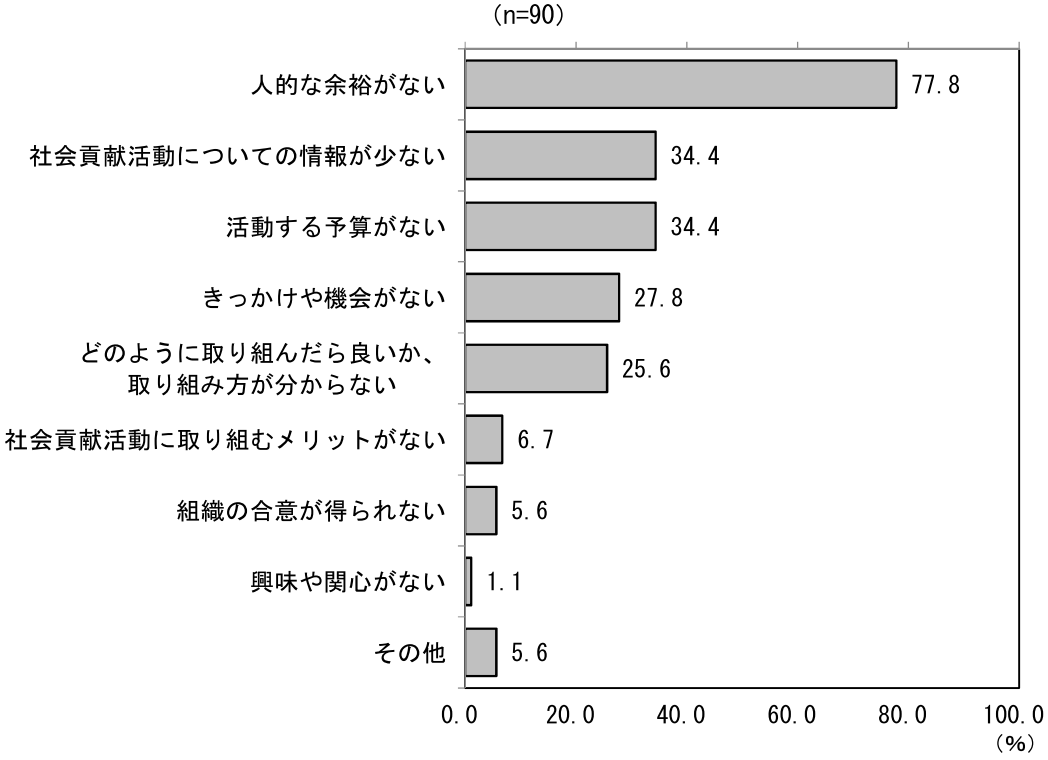


図３－４　社会貢献活動を推進する上での課題

表３－１　社会貢献活動を推進する上での課題（社会貢献活動の実施意向別：上位５項目）

	n	人的な余裕がない	社会貢献活動についての情報が少ない	どのように取り組んだら良いか、取り組み方が分からない	きっかけや機会がない	活動する予算がない
肯定的評価	69	82.6	43.5	33.3	30.4	30.4
中間的評価・否定的評価	20	65.0	5.0	0.0	20.0	50.0

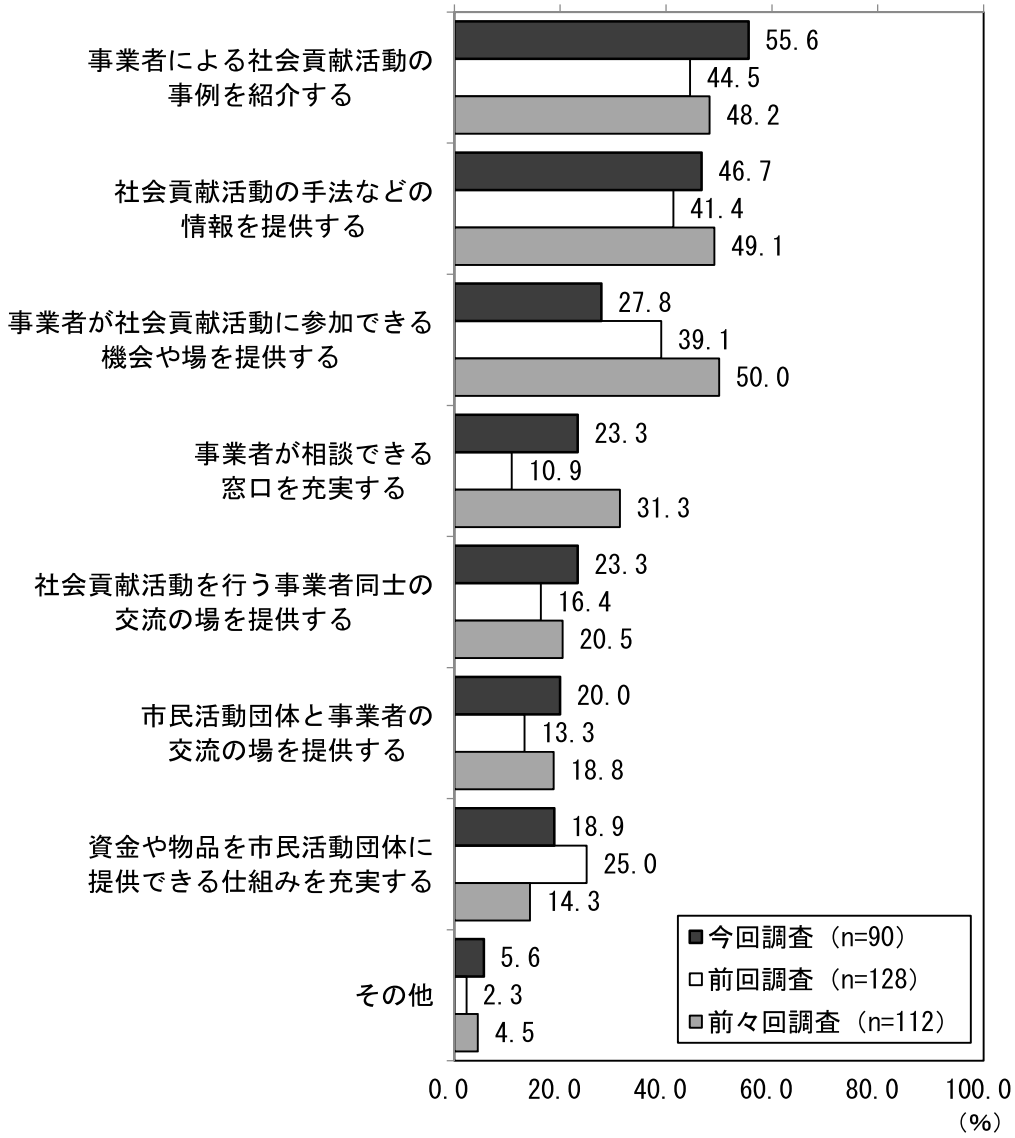
＊小数点の数値は%。

（４）社会貢献活動を促進させるための市の施策

問４　事業者による社会貢献活動が活発になるために、市はどのようなことに取り組めば良いと思いますか。（〇はいくつでも）

社会貢献活動を促進させるための市の施策については、「事業者による社会貢献活動の事例を紹介する」（55.6％）が最も高く、次いで「社会貢献活動の手法などの情報を提供する」（46.7％）となっている。

また、前回・前々回調査と比較してみると、前々回調査で第１位であった「事業者が社会貢献活動に参加できる機会や場を提供する」は減少傾向にあり、前々回調査よりも約 22 ポイント低下している（図３－５）。



＊今回調査の割合が高い項目からの降順により並び替え。

図３－５　社会貢献活動を促進させるための市の施策（前回・前々回調査比較）

３．市民活動団体との連携

（１）市民活動団体に求めること

問５　今後、市民活動を行う団体と連携・協力して社会貢献活動を行うと仮定した場合、市民活動団体にどのようなことを求めますか。（○はいくつでも）

市民活動団体との連携・協力する場合に市民活動団体に求めることについては、「活動の目的や内容に賛同できること」（76.7％）が最も高く、次いで「地域住民と密接な関係を有していること」（48.9％）、「活動理念が明確であること」（41.1％）となっている。

また、前回調査と比較してみると、上位２項目では増加している（図３－６）。

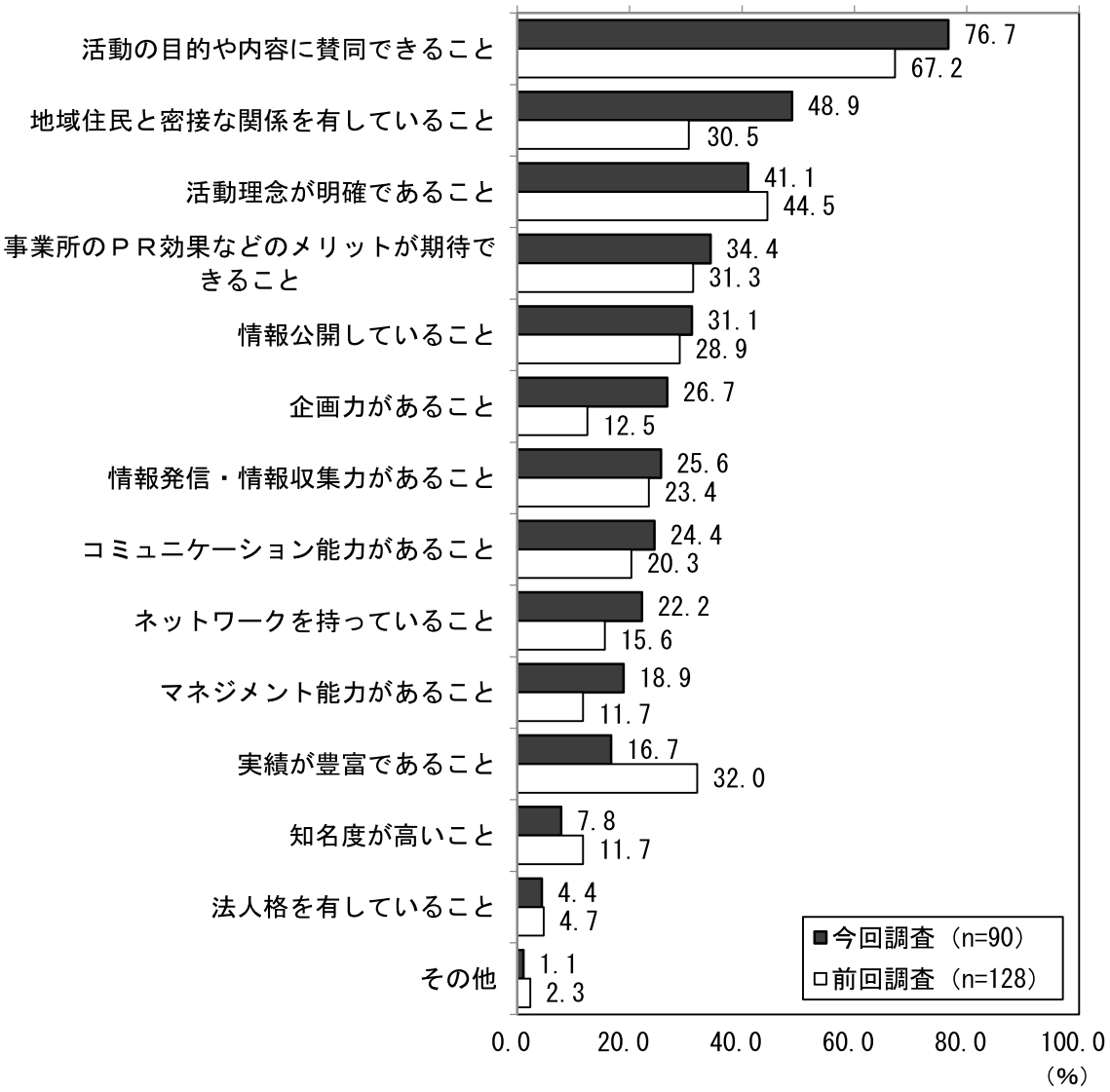


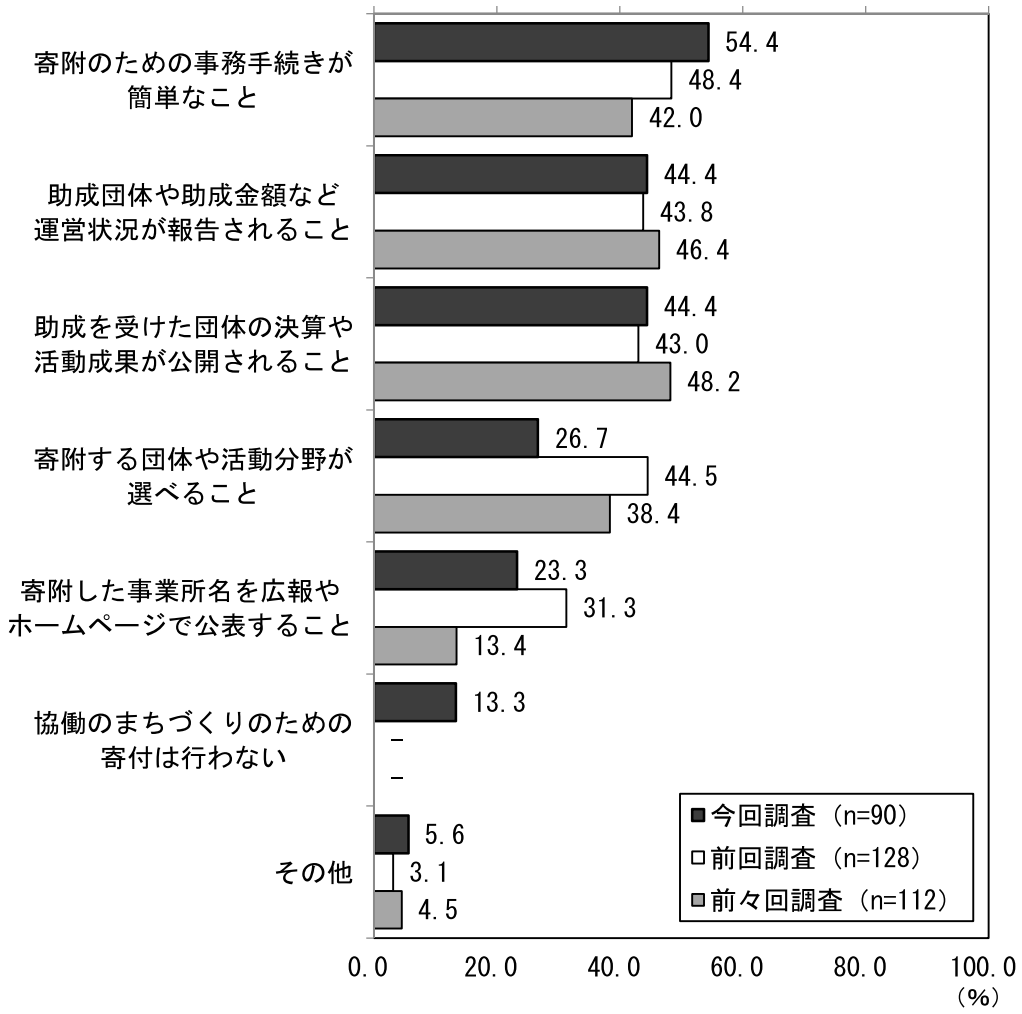
図３－６　市民活動団体に求めること（前回調査比較）

（２）寄附を検討する場合の条件

問６　市では事業者や市民からの寄附金を、市民活動団体の行う社会貢献事業に助成する制度を実施しています。貴事業所で協働のまちづくりのための寄附を検討すると仮定した場合、どんな条件が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

寄附を検討する場合の条件については､「寄附のための事務手続きが簡単なこと」(54.4%)が最も高く、次いで「助成団体や助成金額など運営状況が報告されること」「助成を受けた団体の決算や活動成果が公開されること」（ともに 44.4%）となっている。

また、前回・前々回調査と比較してみると､「寄附のための事務手続きが簡単なこと」は増加傾向にある（図３－７）。



＊「協働のまちづくりのための寄付は行わない」は今回調査のみ。

図３－７　基金に寄附する場合の条件（前回・前々回調査比較）

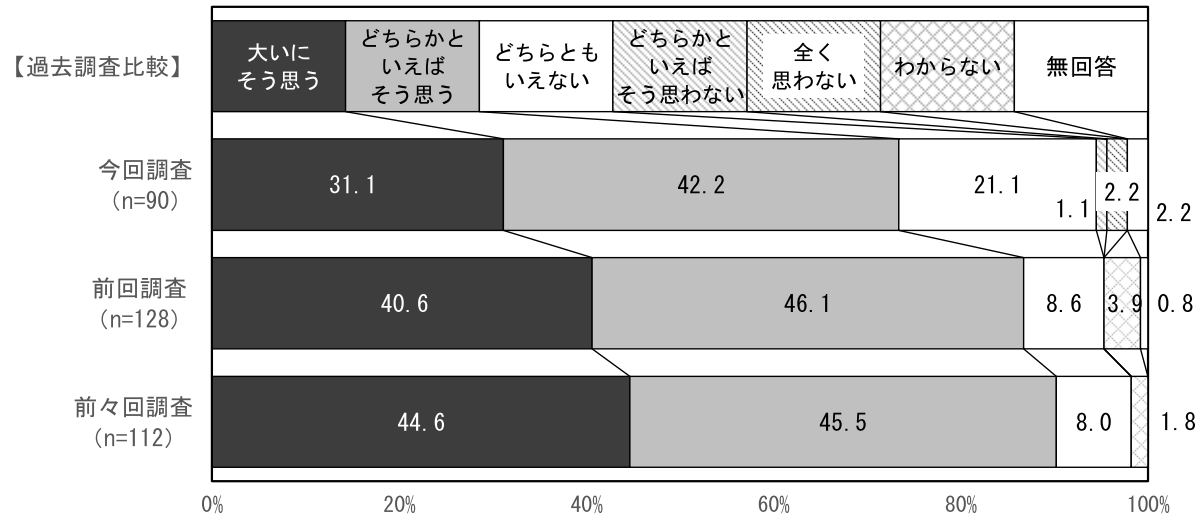
４．協働のまちづくり

（１）協働のまちづくりへの積極性

問７　協働のまちづくりでは、自分たちのまちは自分たち自身で暮らしやすくする活動が求められますが、事業者もまちづくりに積極的に参加すべきだと思いますか。（○は１つだけ）

事業者もまちづくりに積極的に参加すべきかどうかについては、「大いにそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定的評価」が 73.3%を占め、「どちらともいえない」が 21.1%、「どちらかといえばそう思わない」「全く思わない」の「否定的評価」は 3.3%となっている。

また、前回・前々回調査と比較してみると、「肯定的評価」は減少傾向にある（図３－８）。



＊「わからない」は今回調査ではなし。

図３－８　協働のまちづくりへの積極性（前回・前々回調査比較）

（２）協働のまちづくりの進捗評価

問８　貴事業所は松戸市において、市民、市民活動団体、民間事業者及び市の協力・連携が図られ、協働のまちづくりが進んでいると思いますか。（○は１つだけ）
問８－１　貴事業所が松戸市において協働のまちづくりが進んでいないと思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

松戸市において協働のまちづくりが進んでいるかについては、「どちらともいえない」が36.7%、「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた「否定的評価」が36.7%、「大いにそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定的評価」が24.4%となっている。

また、協働のまちづくりが進んでいない理由としては、「協働のまちづくりの事例がどのようなものか分からないから」（60.6%）が最も高く、次いで「松戸市全体に協働のまちづくりの意識が浸透していないから」（45.5%）となっている（図３－９）。

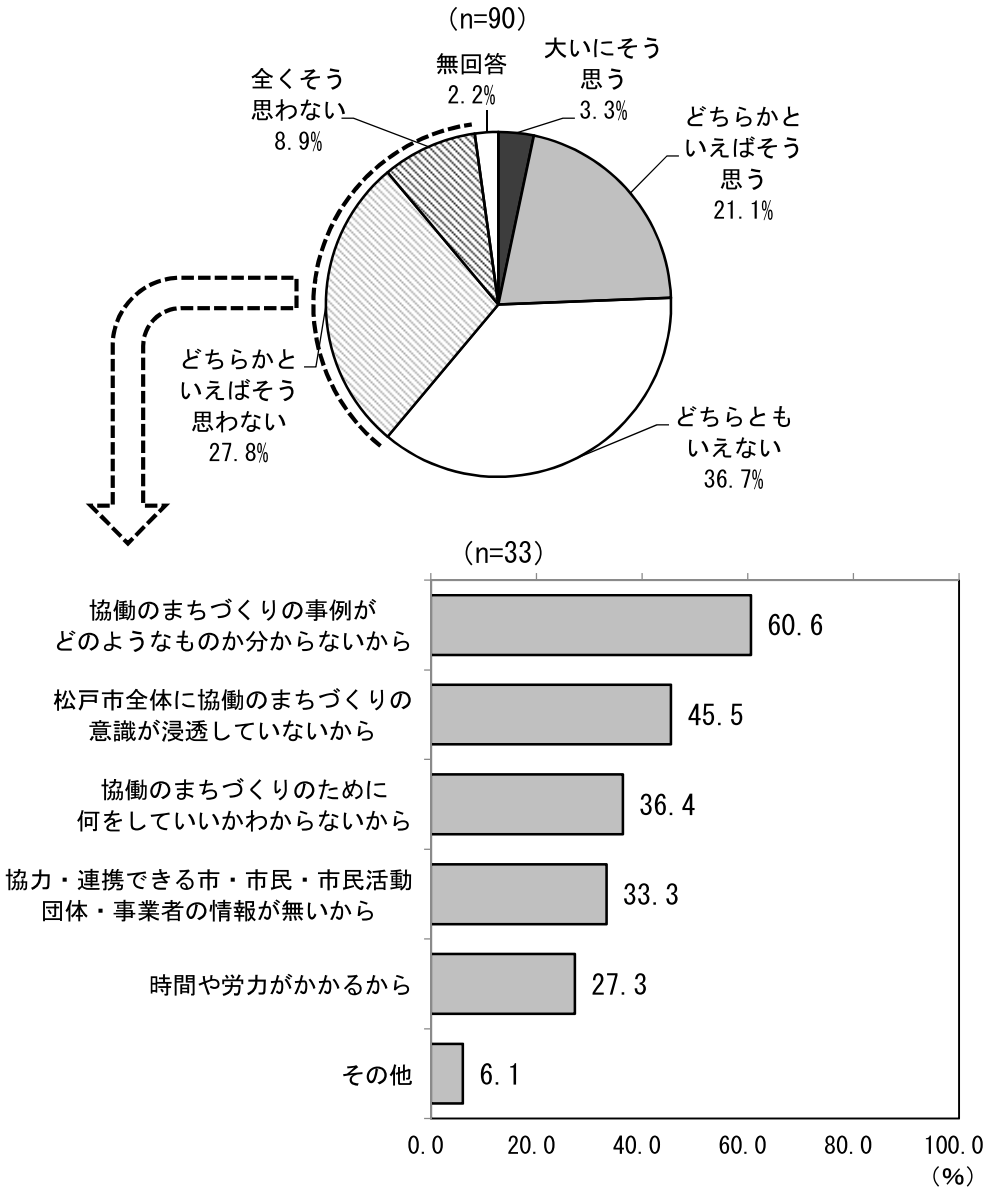


図３－９　協働のまちづくりの進捗評価、進んでいない理由

５．協働のまちづくりへの意見、アイデア等（自由意見）

協働のまちづくりへの意見、アイデア等について自由に記入してもらったところ、16 事業者からの意見が寄せられた。それらの主な意見は、以下のとおり。

〇今まで､所在する自治会や市民活動の実施時期に寄附を求められるので､僅かだが寄附をしても、それ以外特にかかわりもなく報告もなく、それが当たり前かと思っていたが、協働のまちづくりという制度に則ってできるのなら、風通しも良く相方の顔が見え関係性もより密接になれるかもしれない。
〇協働のまちづくりについて、声や情報がこないので、貢献したくてもできない。
〇事業所同士の集まりなど実施してほしい。
〇地元に根付いている中小法人は、横の連携が強く、まちづくりの意識は高いと思われる。一方、一営業所となると、気持ちはあってもなかなか参加するきっかけも、情報もないため、難しい。でも、松戸でお仕事をさせていただいている中、もっと関わっていきたいとは思っている。
〇団体が交流もてる場があれば良い。イベントや人が集う空間は提供できる。
〇本社と直接交渉していただきたい。会社の命令で勤務している県外の人間には判断が難しい。

資料編（調査票）

１．市民

協働のまちづくり市民アンケート調査票

■■　ご協力のお願い　■■

日頃より、市民の皆様には松戸市政にご理解ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。本市では、平成１９年７月に「松戸市協働のまちづくり条例」を施行しました。

この条例は、市民、市民活動団体、事業者による市民活動を活性化するとともに、それらの活動と市が協力、連携する協働に取り組むことで、豊かで活力ある地域社会の実現を目指すものです。そして、「松戸市協働推進計画」を策定し、協働を推進するための施策を展開してまいりました。

本調査は、市民の皆様の市民活動や協働のまちづくりに対する意識等をお伺いし、令和３年度を初年度とする計画策定の参考とさせていただくために実施するものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、このアンケート調査を実施するにあたっては、現在の住民基本台帳から無作為に3,000人を抽出いたしました。アンケートの結果につきましては、統計的に処理し、本調査の目的以外には使用いたしません。

令和元年11月　　松戸市長　本郷谷　健次

■■　ご記入にあたって　■■

１．質問には、必ず本人（封筒の宛名の方）がお答えください。
２．この調査にはお名前を記入する必要はありません。個人の秘密は厳守いたしますので、普段ご自身が考えていること、または行っていることをお聞かせください。
３．記入は、鉛筆もしくはボールペンのどちらでも結構です。
４．回答は、質問により、１つだけ選ぶもの、あるいは複数選ぶものがあります。あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
５．質問の中には、選択した番号により、次の質問が問われるものがありますので、ご注意ください。
６．お答えが「その他」の場合には、（　　）内に内容を具体的にお書きください。
７．ご記入いただいた本調査票は、12月16日（月）までに同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずにご返送ください。
８．この調査に関するご質問、ご意見などは、下記までお問い合わせください。

＜ 問い合わせ先 ＞

松戸市　市民部　市民自治課
〒271-8588　松戸市根本387番地の5
電話：０４７－３６６－７０６２　　FAX：０４７－７０４－４００９
E-MAIL：mcshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp

★　日頃からあなたが感じていることについてお伺いします。

問１　あなたは、日常生活に時間的なゆとりを感じていますか。（○は１つだけ）

１　大いに感じている
２　ある程度感じている
３　どちらともいえない
４　あまり感じていない
５　全く感じていない

問２　あなたは、日常生活に経済的なゆとりを感じていますか。（○は１つだけ）

１　大いに感じている
２　ある程度感じている
３　どちらともいえない
４　あまり感じていない
５　全く感じていない

問３　あなたは、松戸市に愛着を感じていますか。（○は１つだけ）

１　大いに感じている
２　ある程度感じている
３　どちらともいえない
４　あまり感じていない
５　全く感じていない

問４　あなたが住んでいる地域には、日常生活の中で、住民同士の交流・助け合いなどがあると感じていますか。（○は１つだけ）

１　大いに感じている
２　ある程度感じている
３　どちらともいえない
４　あまり感じていない
５　全く感じていない

問５　あなたは日常生活の中で、住民同士の交流・助け合いなどを持ちたいと思いますか。（○は１つだけ）

１　大いに持ちたい
２　どちらかといえば持ちたい
３　どちらともいえない
４　どちらかといえば持ちたくない
５　全く持ちたくない

→ 問６へお進みください。

→ 問５－１（問５で１・２を選択した人のみお答えください。）
住民同士の交流や助け合いなどを持ちたいと思う理由はなんですか。
（○はいくつでも）

１　火事や自然災害、急病など緊急時にお互い助け合えるから
２　近隣住民と良好な関係を築くことができるから
３　地域の行事を行っていく上で近隣住民との協力が必要だから
４　高齢者や障害者の見守りや介護に有益だから
５　子育てや子どもの成長に有益だから
６　治安が良くなるから
７　その他（　　）

★　次に、市民活動に関する考え方などについてお伺いします。

市民活動とは

　営利を目的とせず、多くの市民にとって役に立つこと・ためになることを行う社会貢献活動のことです。例えばＮＰＯ・ＮＰＯ法人、ボランティア、町会・自治会、子ども会などの活動がそれにあたります。
　生涯学習や文化・スポーツ・趣味などのサークル団体の活動についても、それが社会貢献を目的とする場合には、市民活動となります。

　松戸市ホームページで市民活動を紹介しています。

松戸市　市民活動　　検索

問６　あなたは、市民活動についてどのようなイメージを持っていますか。
（○は３つまで）

１　人や社会のために役立つ活動
２　多くの人と交流できる活動
３　自分の経験や技能を活かせる活動
４　時間的、経済的に余裕のある人の活動
５　充実感や満足感を得られる活動
６　みんなで助け合う活動
７　無償で行う活動
８　市の政策や事業を批判する活動
９　信用できない活動
10　気軽にできる活動
11　新たな雇用、就労機会を創出している活動
12　公的なサービスを提供している活動
13　偏った考えを持っている活動
14　その他（　　）
15　わからない

問７　あなたは、市民活動にどの程度関心がありますか。（○は１つだけ）

１　大いに関心がある
２　どちらかといえば関心がある
３　どちらともいえない
４　どちらかといえば関心がない
５　全く関心がない

問８　あなたは、これまで市民活動に参加したことがありますか。（○は１つだけ）

１ 現在、参加している
２ 以前は参加していたが、現在は参加していない
→ 問９へお進みください

３ これまで参加したことはない
→ 問８－１（問８で３を選択した人のみお答えください。）

あなたがこれまで、市民活動に参加したことがない理由は何ですか。
（○はいくつでも）

１　きっかけや機会がない
２　活動に関する情報が得られない
３　一緒に活動する仲間がいない
４　活動場所がない
５　忙しくて時間がない
６　経済的にゆとりがない
７　健康上の理由から
８　家族など、周囲の理解が得られない
９　興味や関心がない
10 その他（　　）

→問１２へお進みください。

問９　あなたが市民活動に参加したきっかけは、主にどのようなことでしたか。
（○は１つだけ）

１　家族、友人の勧めで
２　身近に類似した問題を抱えていたので
３　学校の保護者会・ＰＴＡ、町会・自治会などで役員になったので
４　ポスター・掲示板・市の広報などを見て
５　ボランティアに関する講座に参加して
６　自分や身近な人がボランティアのお世話になったので
７　ボランティア活動を体験する機会があって
８　社会で大きな事故・事件が発生したので
９　所属団体が活動を始めたので立場上やむを得なく
10 その他（　　）

問１０　あなたは、これまでどのような組織やルートを通じて、市民活動に参加しましたか。（○はいくつでも）

１　町会・自治会で
２　学校の保護者会・ＰＴＡで
３　子ども会・老人会・商店会などの地域の組織で
４　ＮＰＯ・ＮＰＯ法人で（ボランティア団体を含む。）
５　市のイベントや講座で
６　企業で
７　有志・仲間との間で
８　その他（　　）

問１１　あなたは市民活動に参加してどのようなことを感じましたか。
（ア、イそれぞれ○は３つまで）

ア．よかったと感じていること	イ．　課題だと感じていること
１　友人を得ることができた	１　自分の都合のつく時間に活動できない
２　多世代、他職種の人と交流ができた	２　団体の事務など特定の人に負担がかかる
３　充実感、満足感を得ることができた	３　新しく参加してくれる人が少ない
４　地域の課題を解決できた	４　活動のノウハウが無い
５　知識や技術が身についた	５　他の団体との連携がうまくいかない
６　人間性が豊かになった	６　金銭的に自己の持ち出しが多い
７　自分の経験を活かせた	７　問題が起きた時に相談できる所がない
８　活動そのものが楽しかった	８　必要がないのにやめられない業務がある
９　健康づくりに役に立った	９　他者に活動を理解してもらえない
１０　松戸市に愛着が持てるようになった	１０　市に協力してもらえない
１１　社会に対する視野、見方が広まった	１１　特にない
１２　人の役に立つことに喜びを得た	１２　その他（　　）
１３　特にない	
１４　その他（　　）	

（これ以降は、全員の方がお答えください）

問１２　あなたは今後、市民活動に参加したいと思いますか。現在、活動に参加されている方も、されていない方もお答えください。（○は１つだけ）

１　参加したい
２　どちらかといえば参加したい
３ どちらともいえない
４ どちらかといえば参加したくない
５ 参加したくない

→ 問１３へお進みください。

問１２－１（問１２で１、２を選択した人のみお答えください。）
あなたは、今後どのような組織やルートを通じて、市民活動に参加したいと思いますか。（○は１つだけ）

１　町会・自治会で	５　市のイベントや講座で
２　学校の保護者会・ＰＴＡで	６　企業で
３　子ども会・老人会・商店会などの地域の組織で	７　有志・仲間との間で
	８　機会があれば、どれでも
４　ＮＰＯ・ＮＰＯ法人で（ボランティア団体を含む）	９　その他（　　）

→　問１３へお進みください。

問１３　本市には市民活動の支援、発展に寄与することを目的とした「まつど市民活動サポートセンター」があります。あなたはこのセンターをご存知ですか。
（○は１つだけ）

１　知っており、既に利用している
２　知っているが、利用したことはない
３　知らない　→　問１４へお進みください。

問１３-１（問１３で１、２を選択した人のみお答えください。）
あなたは、まつど市民活動サポートセンターの事業についてどの程度ご存知ですか。（ア～キのあてはまる番号１つに○）

		知っている	知らない
ア	イベントや講座が実施されていること	１	２
イ	ボランティアや市民活動の相談を行っていること	１	２
ウ	ホームページや情報紙での情報発信を行っていること	１	２
エ	団体同士の交流の場を提供していること	１	２
オ	会議室などを貸出していること	１	２
カ	チラシの掲示や公共機関への配布など、市民活動団体情報の広報を支援していること	１	２
キ	印刷機、団体ロッカーなどの活動機材を貸出していること	１	２

→　問１４へお進みください。

問１４　あなたは、市民活動が社会貢献につながっていると思いますか。
（○は１つだけ）

１　大いにそう思う
２　どちらかといえばそう思う
３　どちらともいえない
４　どちらかといえばそう思わない
５　全くそう思わない

★　次に、協働のまちづくりやそれに関する市の施策についてお伺いします。

「協働のまちづくり」とは

市民、市民活動団体、民間事業者及び市が協力・連携する「協働」によって、多様化する地域の課題の解決に取り組むまちづくりのことです。
本市では平成１９年７月に「松戸市協働のまちづくり条例」を施行し、様々な施策を展開して、豊かで活力ある地域社会の実現を目指しています。

松戸市ホームページで「協働のまちづくり」を紹介しています。

松戸市　協働のまちづくり　検索

問１５　あなたは松戸市において、市民、市民活動団体、民間事業者及び市の協力・連携が図られ、協働のまちづくりが進んでいると思いますか。（○は１つだけ）

１　大いにそう思う
２　どちらかといえばそう思う
３　どちらともいえない

→ 問１６へお進みください

４　どちらかといえばそう思わない
５　全くそう思わない

問１５－１　あなたが松戸市において協働のまちづくりが進んでいないと思う理由は何ですか（○はいくつでも）

１　松戸市全体に協働のまちづくりの意識が浸透していないから
２　協働のまちづくりの事例がどのようなものか分からないから
３　協働のまちづくりのために何をしていいかわからないから
４　時間や労力がかかるから
５　協力・連携できる市・市民・市民活動団体・事業者の情報が無いから
６　その他（　　）

→問１６へお進みください。

問１６　あなたは、「協働のまちづくり」にどの程度関心がありますか。
（○は１つだけ）

１　大いに関心がある
２　どちらかといえば関心がある
３　どちらともいえない
４　どちらかといえば関心がない
５　全く関心がない

問１７　あなたは、本市が推進する「協働のまちづくり」が地域の課題解決につながっていくと思いますか。（○は１つだけ）

１　大いにそう思う	４　どちらかといえばそう思わない
２　どちらかといえばそう思う	５　全くそう思わない
３　どちらともいえない	

問１８　本市が「協働のまちづくり」を推進することについて、あなたはどのように思いますか。（○は１つだけ）

１　大いに推進すべきである	４　あまり推進すべきでない
２　ある程度推進すべきである	５　全く推進すべきでない
３　どちらともいえない	

問１９　あなたが市民活動を行うと仮定した場合、どのような分野の活動に参加したいと思いますか。また、どのような分野の活動で市民、市民活動団体、民間事業者、市の「協働（協力・連携）」が必要だと思いますか。
（ア～スのあてはまる番号全てに○）

分　野		参加したい	協働が必要だ
ア	防犯・防災・交通安全活動	１	１
イ	ごみ減量やリサイクル活動	２	２
ウ	地域の清掃や美化の活動	３	３
エ	子育てに関する援助・相談、交流促進などの活動	４	４
オ	高齢者や障害者への支援や福祉活動	５	５
カ	地域交流や地域活性化などに関する活動	６	６
キ	文化、学習、芸術等の活動	７	７
ク	商業、観光振興などの活動	８	８
ケ	スポーツや文化の普及活動	９	９
コ	子ども・青少年に関する活動	１０	１０
サ	消費者の安全・被害防止のための啓発活動	１１	１１
シ	外国人との交流・支援などの活動	１２	１２
ス	その他（　　）	１３	１３

問２０　あなたは、市が取り組む施策について知っていますか。
（ア～オのあてはまる番号１つに○）

		知っている	知らない
ア	協働のまちづくり条例 ※協働の推進に関する基本理念、市民、市民活動団体、事業者及び市の役割、市の施策などを定めている。	１	２
イ	協働推進計画 ※上記の条例に定めた施策を具現化した実施計画。市民活動の活性化及び市民活動と市との協働の推進が柱。	１	２
ウ	市民活動助成制度 ※新たな活動や既存の活動を発展させるための一時的な資金を助成する制度。１事業への助成金額が 10 万円または 30 万円以内。	１	２
エ	協働事業提案制度 ※団体又は事業者と市が、事業の企画から実施までを協力して行う制度。１事業への市の負担金額が 50 万円以内。	１	２
オ	協働のまちづくり基金 ※市民等から寄せられる寄附金と、その同額を市費で拠出し、併せて積み立てる。市民活動助成制度の原資。	１	２

問２１　あなたは、「協働のまちづくり」を推進するために市が行うものとして、どのような取り組みが有効だと思いますか。（○はいくつでも）

１　協働に関する市民向けイベント、シンポジウム等の実施
２　協働のまちづくりの市内の好事例集の配布や公開
３　広報まつどやホームページ等でボランティア情報や協働に関する情報の発信
４　市の現状や課題などの情報の積極的な公開
５　住民同士の交流の活性化
６　市民活動に関心を持った人のための相談窓口の充実
７　市民活動を行う上での市民向け学習講座の実施
８　市民活動団体への経営ノウハウの提供
９　市民活動団体への活動資源の支援（助成金の交付など）
10　市民活動団体が活動しやすい環境整備（掲示板など市役所などにある情報を発信するコーナーの活用やまつど市民活動サポートセンターのサービスなど）
11　企業の社会貢献活動の促進
12　市の職員の協働の意識を高めること
13　住民と様々な団体が地域課題などを共有できる場づくり
14　地域課題を市民活動や企業の社会貢献活動で解決するためのコーディネート
15　ボランティア活動をしたらポイントが貯まり景品と交換できる制度の導入
16　地域課題の解決を担う人材の育成
17　その他（　　）
18　協働のまちづくりについては、特に市が取り組むべきことはない

問２２　あなたは、日頃本市の取り組みやイベントなどの情報について、主にどのような形で入手していますか。（○は１つだけ）

１　新聞・雑誌・ミニコミ誌	７　町会・自治会の掲示版や回覧板
２　広報まつど	８　町会・自治会などでの集会や会合
３　松戸市のホームページ	９　近所の人や家族・親戚の人との会話
４　twitter、Facebook などの SNS	１０　その他（　　）
５　各種パンフレット	１１　特にない
６　市が主催する説明会など	

★最後に、あなた自身についてお伺いします。

Ｆ１　あなたの性別をお聞かせください。（○は１つだけ）

１　女性　　２　男性　　３　回答しない

Ｆ２　あなたの年齢をお聞かせください。（○は１つだけ）

１　10 歳代	５　50 歳代
２　20 歳代	６　60 歳代
３　30 歳代	７　70 歳代以上
４　40 歳代	

Ｆ３　あなたの職業をお聞かせください。（○は１つだけ）

１　会社員や公務員などの常勤職	５　無職
２　自営業	６　専業主婦・主夫
３　パート・アルバイト・フリーター	７　その他
４　学生	（　　）

Ｆ４　あなたの松戸市在住年数をお聞かせください。（○は１つだけ）

１　５年未満	４　15 年～19 年
２　５年～9 年	５　20 年～24 年
３　10 年～14 年	６　25 年以上

Ｆ５　あなたの家族構成をお聞かせください。（○は１つだけ）

１　自分ひとりの世帯
２　自分と配偶者の夫婦のみの世帯
３　自分と配偶者と子どもの世帯
４　自分と配偶者と子どもと親世帯の３世代
５　自分と子どもの世帯
６　自分と子どもと親世帯の３世代
７　その他（　　）

Ｆ６　あなたのお住まいの地域をお聞かせください（○は１つだけ）

ア行
1．秋山
2．旭町
3．岩瀬
4．大金平
5．大橋
6．大谷口
7．大谷口新田
カ行
8．上総内
9．金ケ作
10．紙敷
11．上本郷
12．上矢切
13．河原塚
14．北松戸
15．串崎新田
16．串崎南町
17．久保平賀
18．栗ケ沢
19．栗山
20．幸田
21．幸谷
22．古ケ崎
23．小金
24．小金上総町
25．小金きよしケ丘
26．小金清志町
27．小金原
28．小根本
29．小山
30．胡録台
31．五香
32．五香西
33．五香南
34．五香六実

サ行
35．栄町
36．栄町西
37．七右衛門新田
38．下矢切
39．新作
40．新松戸
41．新松戸北
42．新松戸東
43．新松戸南
44．千駄堀
45．外河原
タ行
46．高塚新田
47．高柳
48．高柳新田
49．竹ヶ花
50．竹ヶ花西町
51．田中新田
52．常盤平
53．常盤平陣屋前
54．常盤平西窪町
55．常盤平双葉町
56．常盤平松葉町
57．常盤平柳町
58．殿平賀
ナ行
59．仲井町
60．中金杉
61．中根
62．中根長津町
63．中矢切
64．中和倉
65．西馬橋
66．西馬橋相川町
67．西馬橋蔵元町
68．西馬橋幸町
69．西馬橋広手町
70．二十世紀が丘柿の木町
71．二十世紀が丘戸山町
72．二十世紀が丘中松町
73．二十世紀が丘梨元町
74．二十世紀が丘萩町
75．二十世紀が丘丸山町
76．二十世紀が丘美野里町
77．根木内
78．根本
79．野菊野
ハ行
80．八ヶ崎
81．八ヶ崎緑町
82．初富飛地
83．東平賀
84．東松戸
85．日暮
86．樋野口
87．平賀
88．二ツ木
89．二ツ木二葉町
90．本町
マ行
90．牧の原
91．松戸
92．松戸新田
93．松飛台
94．馬橋
95．三ヶ月
96．緑ヶ丘
97．南花島
98．稔台
99．三矢小台
100．六実
101．主水新田
ヤ行
102．横須賀
103．吉井町
ラ行
104．六高台
105．六高台西
ワ行
106．和名ヶ谷

【自由記入欄】最後に、今までお伺いしたことの他に、「協働のまちづくり」についてご意見・ご要望・ご感想などがありましたら、お聞かせください。

（ご自由にお書きください）

ご協力ありがとうございました。

※記入済みの調査票は、同封の封筒に入れ、12 月 16 日（月）までに、投函してください。

協働のまちづくり市民活動団体アンケート調査票

■■　ご協力のお願い　■■

日頃より、市民活動団体の皆さまには松戸市政にご理解ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

本市では、平成１９年７月に「松戸市協働のまちづくり条例」を施行しました。この条例は、市民、市民活動団体、事業者による市民活動を活性化するとともに、それらの活動と市が協力、連携する協働に取り組むことで、豊かで活力ある地域社会の実現を目指すものです。そして、「松戸市協働推進計画」を策定し、協働を推進するための施策を展開してまいりました。

本調査は、市民活動団体の皆様の活動や協働のまちづくりに対する意識等をお伺いし、令和３年度を初年度とする計画策定の参考とさせていただくために実施するものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、このアンケート調査を実施するにあたっては、松戸市内に主たる事務所があるＮＰＯ法人登録団体、松戸市の市民活動登録団体及びまつど市民活動サポートセンター利用団体を対象にさせていただきました。アンケートの結果につきましては、統計的に処理し、本調査の目的以外には使用いたしません。

令和元年11月　　松戸市長　本郷谷　健次

■■　ご記入にあたって　■■

１．この調査には団体名やお名前を記入する必要はありません。また、記入は、鉛筆もしくはボールペンのどちらでも結構です。
２．回答は、質問により、１つだけ選ぶもの、あるいは複数選ぶものがあります。あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
３．質問の中には、選択した番号により、次の質問が問われるものがありますので、ご注意ください。
４．お答えが「その他」の場合には、（　　）内に内容を具体的にお書きください。
５．ご記入いただいた調査票は、**12 月 16 日（月）までに**同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずにご返送ください。
６．この調査に関する問い合わせは、下記までご連絡ください。

＜ 問い合わせ先 ＞

松戸市　市民部　市民自治課
〒271-8588　松戸市根本387番地の5
電話：０４７－３６６－７０６２　　FAX：０４７－７０４－４００９
E-MAIL：mcshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp

１．貴団体の基本的なことがらについてお尋ねします。

Ｆ１　貴団体では、次のうち、どのような分野の活動をしていますか。（○はいくつでも）

１	保健、医療または福祉の増進を図る活動
２	社会教育の推進を図る活動
３	まちづくりの推進を図る活動
４	観光の振興を図る活動
５	農山漁村または中山間地域の振興を図る活動
６	学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動
７	環境の保全を図る活動
８	災害救援活動
９	地域安全活動
１０	人権の擁護または平和の推進を図る活動
１１	国際協力の活動
１２	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
１３	子どもの健全育成を図る活動
１４	情報化社会の発展を図る活動
１５	科学技術の振興を図る活動
１６	経済活動の活性化を図る活動
１７	職業能力の開発または雇用機会の拡充を支援する活動
１８	消費者の保護を図る活動
１９	上記１から１８に掲げる活動を行う団体の運営または活動に関する連絡、助言または援助の活動
２０	その他（　　）

Ｆ２　上記の選択肢１～20までのうち、もっとも力を入れている活動分野は何番ですか。

（　　）番

Ｆ３　貴団体は、次のうちどれに当たりますか。（○は１つだけ）

１	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	４	社団法人
２	法人格のない任意団体	５	その他（　　）
３	社会福祉法人		

Ｆ４　貴団体には、個人会員（賛助会員も含む。）が何人いますか。

※本アンケートでいうところの「会員」は、「実際に団体の活動をする方」「継続的に団体の支援（寄付など）をする方（賛助会員など）」そして「ＮＰＯ法人において議決権をもつ方（社員）」を想定しています。

（　　）人

Ｆ５　貴団体の会員の中で、一番多い年代は、どの年代ですか。（○は１つだけ）

１	20代以下	５	60代
２	30代	６	70代
３	40代	７	80代以上
４	50代		

Ｆ６　貴団体で働き、給料をもらっている有給職員は何人いますか。
※いない場合は、「0 人」とお答えください。

（　　）人

Ｆ７　貴団体の、**直近の事業年度**の総支出額（財政規模）は、おおよそどのくらいでしたか。
（○は１つだけ）

１　10 万円未満	４　100 万円以上 300 万円未満	７　1000 万円以上
２　10 万円以上 50 万円未満	５　300 万円以上 500 万円未満	
３　50 万円以上 100 万円未満	６　500 万円以上 1000 万円未満	

Ｆ８　貴団体は、おおよそ、どのくらいの頻度で活動をしていますか。（○は１つだけ）

１　週に５回以上	４　２週間に１回程度
２　週に３，４回程度	５　月に１回程度
３　週に１，２回程度	６　２か月に１回以下

Ｆ９　貴団体での活動で日常的に利用する場所は、主にどこですか。（○は１つだけ）

１　団体の事務所（会員の自宅を含む）	７　女性センターゆうまつど
２　松戸市内の市民センター	８　森のホール２１
３　矢切公民館	９　松戸市民劇場
４　松戸市民会館	10　まつど市民活動サポートセンター
５　松戸市市民交流会館すまいる	11　松戸市社会福祉協議会
６　町会・自治会の集会所	12　その他（　　）

Ｆ１０　貴団体の主たる活動エリアは、次のうちどれに当たりますか。もっとも近いものの番号をお答えください。（○は１つだけ）

１　松戸市本庁地区	９　松戸市五香松飛台地区	17　千葉県内
２　松戸市明第１地区	10　松戸市六実六高台地区	18　首都圏内
３　松戸市明第２東地区	11　松戸市常盤平団地地区	19　日本国内
４　松戸市明第２西地区	12　小金地区	20　海外を含む範囲
５　松戸市矢切地区	13　小金原地区	
６　松戸市東部地区	14　新松戸地区	
７　松戸市馬橋地区	15　馬橋西地区	
８　松戸市常盤平地区	16　上記 1～15 の複数エリア	

Ｆ１１　貴団体の活動年数は何年ですか。（○は１つだけ）

１　１年未満	５　７年以上～10 年未満
２　１年以上～2 年未満	６　10 年以上
３　２年以上～5 年未満	
４　５年以上～7 年未満	

２．貴団体の活動についてお尋ねします。

問１　貴団体の収入源のうち、最も大きなものは何ですか。（○は１つだけ）

１　会員からの会費
２　個人や企業（事業所）からの寄附
３　自主事業（モノの販売やサービス等の提供）による収入
４　行政（松戸市や千葉県など）からの助成や補助による収入
５　企業（財団等を含む。）からの助成や補助による収入
６　行政からの委託事業による収入
７　企業からの委託事業による収入
８　その他（　　）

問２　貴団体の活動は、貴団体の活動方針のとおりに活動ができましたか。（○は１つだけ）

１　大いにできた
２　どちらかといえばできた
３　どちらともいえない
４　どちらかといえばできなかった
５　全くできなかった

問３　貴団体の活動が今より発展するために必要だと思うことは何ですか（○はいくつでも）

１　役員や職員が増えること
２　参加してくれるボランティアが増えること
３　リーダーや後継者を育成すること
４　活動資金が増えること
５　活動場所の確保ができること
６　運営管理に必要な専門的知識を得られること
７　自治体施策や民間助成金等の情報が得られること
８　活動についての相談機関があること
９　地域住民の理解が得られること
10　他団体・他機関との協力・連携ができること
11　自分たちの活動をうまく広報できること
12　その他（　　）

３．貴団体の情報発信についてお尋ねします。

問４　貴団体の活動を地域や社会に伝えるため、どのように情報発信をしていますか。（○はいくつでも）

１　チラシの作成
２　パンフレットの作成
３　街頭やイベント会場などでの広報活動
４　ホームページ
５　ブログ、ツイッター・ＳＮＳ
６　会員等へのメールマガジンの送付
７　松戸市の公共施設（市役所や「まつど市民活動サポートセンター」など）での情報の掲示
８　千葉県の広報紙ないしはホームページへの情報掲載
９　松戸市の「広報まつど」への情報掲載
10　ミニコミ誌（地域新聞、ＵＫＩＵＫＩ等）への情報掲載
11　マスコミ（新聞、テレビのニュースなど）への情報提供
12　口コミ
13　その他（　　）
14　情報発信はしていない

問５　貴団体では、どのような内容の情報発信をしましたか。（○はいくつでも）

１　団体の目標や理念の紹介
２　活動の紹介あるいは報告
３　イベント（行事）の告知
４　イベント等を手伝うボランティアの募集
５　団体の運営を中心的に担う会員の募集
６　その他（　　）
７　情報発信はしていない

問６　貴団体では、情報発信にあたり、困っていることがありますか。（○はいくつでも）

１　発信しても、市民からの反応に乏しいこと
２　情報発信に利用できる場所が限られてしまうこと
３　情報発信の手段があまりないこと
４　情報発信にかかる費用が負担になること
５　情報発信の活動に関わることのできる人の数が限られていること
６　情報発信の内容に乏しいこと
７　その他（　　）
８　特に困っていることはない
９　情報発信はしていない

４．協働のまちづくりやそれに関する市の施策についてお伺いします。

「協働のまちづくり」とは

市民、市民活動団体、民間事業者及び市が協力・連携する「協働」によって、多様化する地域の課題の解決に取り組むまちづくりのことです。
本市では平成１９年７月に「松戸市協働のまちづくり条例」を施行し、様々な施策を展開して、豊かで活力ある地域社会の実現を目指しています。

松戸市ホームページで「協働のまちづくり」を紹介しています。

松戸市　協働のまちづくり　検索

問７　松戸市では「協働のまちづくり」を進めています。貴団体は、この取り組みをご存知ですか。
（○は１つだけ）

１　知っている　　２　知らない

問８　貴団体は、「協働のまちづくり」に共感できますか。（○は１つだけ）

１　大いに共感できる
２　どちらかといえば共感できる
３　どちらともいえない
４　どちらかといえば共感できない
５　まったく共感できない

問９　貴団体は、松戸市において市民、市民活動団体、民間事業者及び市の協力・連携が図られ、協働のまちづくりが進んでいると思いますか。（○は１つだけ）

１　大いにそう思う
２　どちらかといえばそう思う
３　どちらともいえない
→ 問１０へお進みください
４　どちらかといえばそう思わない
５　全くそう思わない

問９－１　貴団体が松戸市において協働のまちづくりが進んでいないと思う理由は何ですか
（○はいくつでも）

１　松戸市全体に協働のまちづくりの意識が浸透していないから
２　協働のまちづくりの事例がどのようなものか分からないから
３　協働のまちづくりのために何をしていいかわからないから
４　時間や労力がかかるから
５　協力・連携できる市・市民・市民活動団体・事業者の情報が無いから
６　その他（　　）

→問１０へお進みください

問１０ 松戸市の「協働事業提案制度」は、市民活動団体等が市と相互に社会資源を分担し、協力して行う事業です。「協働事業提案制度」では、社会資源持ち寄りの原則に基づき、事業に要する経費に対して市が５０万円以内で負担金を交付します。詳しくは市のホームページをご覧ください。

貴団体で、協働事業提案制度を使ったことがありますか。（○は１つだけ）

１．現在又は過去に使ったことがある　　２．ない　→　問１１へお進みください。

問１０－１　協働事業提案制度を使ってみて、貴団体にとって良かったこと、課題に感じたことは何ですか。（○はいくつでも）

良かったこと	課題に感じたこと
１　事業に必要な資金を確保できた ２　団体の社会的な信用度が上がった ３　構成員のスキルが上がった ４　会員や協力者が増えた ５　活動場所を確保できた（公共施設を無料で使用できたなど） ６　市の職員と知り合う機会ができた ７　その他 （　　）	１　負担金が少なかった ２　補助率があり、自己資金の確保が大変だった ３　書類（申請書、報告書等）の作成が煩雑だった ４　市の職員の協力を得るのが大変だった ５　選考審査が厳しかった ６　その他 （　　）

→問１２へお進みください

問１１　協働事業提案制度を使わない理由は何ですか。（○はいくつでも）

１　松戸市から提供される資金の額が少ないと思うから
２　行政の基準に合わせると、活動内容に制約を受けると思うから
３　手続きが面倒だと思うから
４　自分たちの活動テーマの場合、松戸市のどの担当課と組めばよいのか分からないから
５　担当課の職員が協力してくれないと思うから
６　申請する余裕がないから（構成員の不足など）
７　行政と協働しなくても、活動できるから
８　「協働事業」制度を知らなかったから
９　過去に申請したが、採択に至らなかったから
１０　その他（　　）

→問１２へお進みください

問１２　松戸市の「市民活動助成制度」は、市民活動団体が、新たな市民活動を立ち上げるため、または、既存の活動をさらに発展させるための事業です。「市民活動助成制度」では、事業に要する一時的な資金（上限額が１０万円または３０万円）を助成する制度を設けています。詳しくは市のホームページをご覧ください。

貴団体で、松戸市市民活動助成金を受けたことがありますか。（○は１つだけ）

１　現在又は過去に受けたことがある　　２　ない　　→　問１３へお進みください。

問１２-１　助成金を受けて、貴団体にとって良かったこと、課題に感じたことは何ですか。（○はいくつでも）

良かったこと	課題に感じたこと
１　事業に必要な資金を確保できた ２　事業の立ち上げに役立った ３　事業の質が向上した ４　事業規模が拡大した ５　団体の社会的な信用度が上がった ６　構成員のスキルが上がった ７　会員や協力者が増えた ８　公共施設を無料で使用できた ９　その他 （　　）	１　助成金額が少なかった ２　補助率があり、自己資金の確保が大変だった ３　書類（申請書、報告書等）の作成が煩雑だった ４　選考審査が厳しかった ５　対象経費が限定されている ６　その他 （　　）

→問１４へお進みください

問１３　松戸市市民活動助成金を受けない理由は何ですか。（○はいくつでも）

１　松戸市から提供される資金の額が少ないと思うから
２　行政の基準に合わせると、活動内容に制約を受けると思うから
３　手続きが面倒だと思うから
４　他に財源が確保されているから
５　対象経費が限定されているから
６　申請する余裕がないから（構成員の不足など）
７　「市民活動助成制度」を知らなかったから
８　過去に申請したが、採択されなかったから
９　その他（　　）

→問１４へお進みください

※ここから再び、すべての団体の方にお尋ねします。

問１４　貴団体は、松戸市に対して、どのようなことを期待しますか。（○はいくつでも）

１　松戸市民の、市民活動への理解と参加を促すための啓発活動
２　市民活動へ参加する人材の育成
３　活動のために使える場所の提供
４　ボランティア、市民活動に関わる松戸市の取組についての情報の提供
５　団体のより良い運営（マネジメント）のために役立つ知識や情報の提供
６　貴団体と同様の活動をしている団体とのネットワークづくり
７　団体の運営上、困っていることについての助言
８　貴団体の活動及びイベントについて紹介する場や機会の充実
９　活動への評価制度の創設
１０　他の市民活動団体と協力関係を築くきっかけづくり
１１　市民活動団体への資金援助
１２　国、自治体の補助金あるいは財団等による助成金についての情報提供
１３　金銭や物品の寄附などの手段で、団体の活動の支援をしてくれる企業（事業所）の紹介
１４　その他［　　］
１５　特に期待することはない

問１５　貴団体は、市民活動団体を支援する「まつど市民活動サポートセンター」に対して、どのようなことを期待しますか。（○はいくつでも）

１　松戸市民の、市民活動への理解と参加を促すための啓発活動
２　市民活動へ参加する人材の育成
３　活動に使える施設の紹介
４　協働事業提案制度や市民活動助成金に応募するための、提案書づくりのアドバイス
５　団体のより良い運営（マネジメント）のために役立つ知識や情報の提供
６　貴団体と同様の活動をしている団体とのネットワークづくり
７　団体の運営上、困っていることについての助言
８　活動やイベントを紹介する場や機会の充実
９　ボランティアになってくれる人の紹介
１０　他の団体との協力関係を築くきっかけづくり
１１　国、自治体の補助金あるいは財団等による助成金についての情報提供
１２　金銭や物品の寄附などの手段で、団体の活動の支援をしてくれる企業（事業所）の紹介
１３　他の団体と連携・協力
１４　その他［　　］
１５　特に期待することはない
１６　「まつど市民活動サポートセンター」を知らないので、分からない

５．貴団体と他の団体との関わりについてお尋ねします。

問１６　貴団体は、他の団体（民間事業者・町会・自治会・ＮＰＯ・行政等）と連携・協力して活動をしていますか。（○は１つだけ）

１　している
２　今はしていないが、かつてはしていた
３　していない　→問１７へお進みください

→ 問１６－１　その活動の内容は、どのようなものですか。（○はいくつでも）

１　事業を委託する
２　事業を委託される
３　連携して事業（イベント）を企画する
４　連携して事業（イベント）を実施する
５　実行委員会等に委員として企画・立案に参画する
６　人材を受け入れる
７　人材を派遣する
８　ネットワーク組織（類似団体または町会・自治会で構成される連絡協議会など）に入る
９　その他（　　）

→問１６－２へお進みください

問１６－２　その活動の連携・協力先の団体は、どのような団体ですか。（○はいくつでも）

１　県・市等の行政
２　企業
３　市民活動団体（ＮＰＯ、ボランティア団体、任意団体など）
４　地縁組織（町会・自治会など）
５　社会福祉協議会
６　学校・教育機関
７　公益財団法人・公益社団法人
８　商工会等
９　その他（　　）

→問１６－３へお進みください

問１６－３　他団体と連携・協力して良かったと思うこと。（○はいくつでも）

１　事業に必要な資金を確保できた
２　有益な情報を得ることができた
３　事業の質が向上した
４　自団体のみで行うより事業規模が拡大できた
５　構成員のスキルが上がった
６　会員や協力者が増えた
７　他団体とのつながりを他の事業に活かせた
８　その他（　　）

→【自由記入欄】へお進みください

問１７　他団体と連携・協力しない理由はなんですか。（○はいくつでも）

１　他団体のことを知らないから
２　信頼できる団体がわからないから
３　どうやったら連携できるのかわからないから
４　連携・協力して事業を行う効果がわからないから
５　連携・協力することで自団体の活動内容に制約を受けると思うから
６　連携が面倒だと思うから
７　その他（　　）

→【自由記入欄】へお進みください

【自由記入欄】最後に、今までお伺いしたことの他に、「協働のまちづくり」についてご意見・ご要望・ご感想などがありましたら、お聞かせください。（ご自由にお書きください）

ご協力ありがとうございました。

※記入済みの調査票は、同封の封筒に入れ、12 月 16 日（月）までに、投函してください。

３．事業者

協働のまちづくり事業者アンケート調査票

【　ご協力のお願い　】

日頃より、市内事業者の皆様には松戸市政にご理解ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

本市では、平成 19 年 7 月に「松戸市協働のまちづくり条例」を施行しました。この条例は、市民、市民活動団体、事業者による市民活動を活性化するとともに、それらの活動と市が協力、連携する協働に取り組むことで、豊かで活力ある地域社会の実現を目指すものです。

そして、「松戸市協働推進計画」を策定し、協働を推進するための施策を展開してまいりました。この調査は協働のまちづくりに関し、事業者の社会貢献活動の状況等をお伺いし、令和３年度を初年度とする新しい計画策定の参考とさせていただくために実施するものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、このアンケート調査を実施するにあたっては、事業所母集団データベース（平成 30 年次フレーム）に掲載された松戸市内の事業所様から無作為に 300 事業所を抽出いたしました。アンケートの結果につきましては、公表いたしますが、事業所名等は公開しません。

令和元年 11 月　　松戸市長　本郷谷　健次

【　ご記入にあたって　】

１．記入は、鉛筆もしくはボールペンのどちらでも結構です。
２．回答は、質問により、１つだけ選ぶもの、あるいは複数選ぶものがあります。あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
３．質問の中には、選択した番号により、次の質問が問われるものがありますので、ご注意ください。
４．お答えが「その他」の場合には、（　　）内に内容を具体的にお書きください。
５．ご記入いただいた調査票は、<u>12 月 16 日（月）までに同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずにご返送ください。（差出人様の住所、氏名の記入は必要ありません。）</u>
６．この調査に関する問い合わせは、下記までご連絡ください。

＜ 問い合わせ先 ＞

松戸市　市民部　市民自治課
〒271-8588　松戸市根本 387 番地の 5
電話：047-366-7062　ＦＡＸ：047-704-4009
E-MAIL：mcshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp

［基本情報］

貴事業所の基本情報をお伺いします。（未記入でも可）

貴事業所名	
担当部署	
住　　所	
電話番号	

（１）業種（○は１つだけ）

１　農林業	９　不動産業、物品賃貸業
２　建設業	10　学術研究、専門・技術サービス業
３　製造業	11　宿泊業、飲食サービス業
４　電気、ガス、熱供給、水道業	12　生活関連サービス業、娯楽業
５　情報通信業	13　教育、学習支援業
６　運輸業、郵便業	14　医療、福祉
７　卸売業、小売業	15　複合サービス事業
８　金融業、保険業	16　サービス業（1～15 に分類されないものも含む）

（２）事業所の形態（○は１つだけ）

１　単独事業所
２　本店・本所・本社
３　支店・支所・支社
４　その他（　　）

（３）従業員数（○は１つだけ）

１　１人～9 人
２　10 人～19 人
３　20 人～29 人
４　30 人～49 人
５　50 人～99 人
６　100 人以上

★　まずは、社会貢献活動についてお伺いします。

問１　貴事業所は、社会貢献活動（地域の祭りやイベントへの参加協力、地域の清掃活動や環境美化活動、ボランティアやＮＰＯへの物品提供など）を実施していますか。（○は１つだけ）

１　現在、実施している
２　現在は取り組んでいないが、これから取り組む予定
３　以前は実施していたが、現在は実施していない
４　今まで実施したことはない　→問２へお進みください

問１－１　次のア～コの社会貢献活動について、状況をご記入ください。
（それぞれの該当する番号に○）

	現在実施している	これから取り組む	過去に実施したことがある	実施したことがない
ア．町会・自治会など地域活動への寄附（資金や物品）	１	２	３	４
イ．地域の祭りやイベントへの参加協力	１	２	３	４
ウ．学校行事への支援・協力	１	２	３	４
エ．地域の清掃活動や環境美化活動	１	２	３	４
オ．ボランティアやＮＰＯへの資金提供	１	２	３	４
カ．ボランティアやＮＰＯへの物品提供	１	２	３	４
キ．ＮＰＯ等活動団体の会員・賛助会員	１	２	３	４
ク．従業員が行うボランティア活動の促進	１	２	３	４
ケ．技術・ノウハウや人材・労力の提供	１	２	３	４
コ．事業所内の施設や場所の提供	１	２	３	４

→問１－２へお進みください

問１－２　現在実施している、またこれから取り組む予定の社会貢献活動を具体的にお書きください。（最大３つまで）

事例１

事例２

事例３

→問２にお進みください

問２　貴事業所は、今後まちづくりの一環として社会貢献活動を実施したいと思いますか。現在社会貢献活動をされている事業者もされていない事業者もお答えください（○は１つだけ）

１　大いにそう思う
２　ある程度そう思う
３　どちらともいえない
４　あまりそう思わない
５　全くそう思わない

問３　社会貢献活動を進めるうえで、課題となることは何ですか。
（あてはまるもの全てに○）

１　きっかけや機会がない
２　人的な余裕がない
３　社会貢献活動についての情報が少ない
４　活動する予算がない
５　どのように取り組んだら良いか、取り組み方が分からない
６　興味や関心がない
７　組織の合意が得られない
８　社会貢献活動に取り組むメリットがない
９　その他（　　）

問４　事業者による社会貢献活動が活発になるために、市はどのようなことに取り組めば良いと思いますか。（あてはまるもの全てに〇）

１　事業者による社会貢献活動の事例を紹介する
２　社会貢献活動の手法などの情報を提供する
３　事業者が相談できる窓口を充実する
４　社会貢献活動を行う事業者同士の交流の場を提供する
５　市民活動団体と事業者の交流の場を提供する
６　事業者が社会貢献活動に参加できる機会や場を提供する
７　資金や物品を市民活動団体に提供できる仕組みを充実する
８　その他（　　）

★　つぎに、市民活動団体との連携についてお伺いします。

市民活動とは

営利を目的とせず、多くの市民にとって役に立つこと・ためになることを行う社会貢献活動のことです。例えばＮＰＯ・ＮＰＯ法人、ボランティア、町会・自治会、子ども会などの活動がそれにあたります。

生涯学習や文化・スポーツ・趣味などのサークル団体の活動についても、それが社会貢献を目的とする場合には、市民活動となります。

松戸市ホームページで市民活動について紹介しています。

松戸市　市民活動　　検索

問５　今後、市民活動を行う団体と連携・協力して社会貢献活動を行うと仮定した場合、市民活動団体にどのようなことを求めますか。
（あてはまるもの全てに○）

１　活動の目的や内容に賛同できること
２　地域住民と密接な関係を有していること
３　実績が豊富であること
４　知名度が高いこと
５　法人格を有していること
６　事業所のＰＲ効果などのメリットが期待できること
７　情報公開していること
８　ネットワークを持っていること
９　コミュニケーション能力があること
10　マネジメント能力があること
11　情報発信・情報収集力があること
12　活動理念が明確であること
13　企画力があること
14　その他（　　）

問６　市では事業者や市民からの寄附金を、市民活動団体の行う社会貢献事業に助成する制度を実施しています。貴事業所で協働のまちづくりのための寄附を検討すると仮定した場合、どんな条件が必要だと思いますか。
（あてはまるもの全てに○）

１　寄附のための事務手続きが簡単なこと
２　寄付が使われた助成団体や助成金額など運営状況が報告されること
３　寄附により助成を受けた団体の決算や活動成果が公開されること
４　寄附する団体や活動分野が選べること
５　寄附した事業所名を広報やホームページで公表すること
６　協働のまちづくりのための寄付は行わない
７　その他（　　）

★　つぎに、協働のまちづくりについてお伺いします。

「協働のまちづくり」とは

市民、市民活動団体、民間事業者及び市が協力・連携する「協働」によって、多様化する地域の課題の解決に取り組むまちづくりのことです。
本市では平成１９年７月に「松戸市協働のまちづくり条例」を施行し、様々な施策を展開して、豊かで活力ある地域社会の実現を目指しています。
松戸市ホームページで協働のまちづくりについて紹介しています。

松戸市　協働のまちづくり　　検索

問７　協働のまちづくりでは、自分たちのまちは自分たち自身で暮らしやすくする活動が求められますが、事業者もまちづくりに積極的に参加すべきだと思いますか。（○は１つだけ）

１　大いにそう思う
２　どちらかといえばそう思う
３　どちらともいえない
４　どちらかといえばそう思わない
５　全くそう思わない

問８　貴事業所は松戸市において、市民、市民活動団体、民間事業者及び市の協力・連携が図られ、協働のまちづくりが進んでいると思いますか。（○は１つだけ）

１　大いにそう思う
２　どちらかといえばそう思う
３　どちらともいえない
→ 自由記入欄へお進みください
４　どちらかといえばそう思わない
５　全くそう思わない

問８－１　貴事業所が松戸市において協働のまちづくりが進んでいないと思う理由は何ですか（○はいくつでも）

１　松戸市全体に協働のまちづくりの意識が浸透していないから
２　協働のまちづくりの事例がどのようなものか分からないから
３　協働のまちづくりのために何をしていいかわからないから
４　時間や労力がかかるから
５　協力・連携できる市・市民・市民活動団体・事業者の情報が無いから
６　その他（　　）

→自由記入欄へお進みください

【自由記入欄】最後に、今までお伺いしたことの他に、「協働のまちづくり」についてご意見・ご要望・ご感想などがありましたら、お聞かせください。
（ご自由にお書きください）

ご協力ありがとうございました。

※記入済みの調査票は、同封の封筒に入れ、12 月 16 日（月）までに、投函してください。

令和元年度
協働のまちづくりに関する意識調査報告書
（市民、市民活動団体、事業者）

松戸市役所　市民部　市民自治課
〒271-8588　千葉県松戸市根本 387-5
電話：047-366-7062
FAX　：047-704-4009